新潟中央短期大学

2022 年度　シラバス

＜シラバス記載の卒業認定・学位授与の方針との関連＞

授業を履修することで修得できる知識・能力が、本学の以下の卒業認定・学位授与の方針（育てたい学生像）のどれに関連するかシラバスに記載しています。

(1)子どもの成長と発達についての知識を身につけている

(2)子どもの成長と発達について援助する技能を身につけている

(3)社会人及び保育者としての心身の健康に関する知識を身につけ、その大切さを理解している

(4)社会人及び保育者としての心身の健康に関する技能を身につけている

(5)自然と関わる中で命の大切さに関する知識を身につけ、その理念を理解している

(6)保育者として必要な表現技術を身につけている

(7)情報機器等に関する知識および活用する技能を身につけている

(8)社会人及び保育者としての自覚や責任感を身につけている

(9)子どもとの関わりにおいて省察し、新たな課題に気づき取り組む力を身につけている

(10)社会人及び保育者としての連携・協働の大切さを理解している

(11)社会人及び保育者として相手を尊重し協力する態度を身につけている

(12)社会人及び保育者としての倫理・道徳に関する知識を身につけている

(13)社会人及び保育者として規範やルールに従って行動する力を身につけている

第17　2022年度講義概要（シラバス）

＊教養科目 …… 58

心理学 58
国語表現法 60
コミュニケーション論Ⅰ 62
コミュニケーション論Ⅱ 64
音楽概論 66
日本国憲法 68
子どもと人権 70
自然科学概論 72
体育講義 74
体育実技 76
英語会話 78
中国語会話 80

＊専門教育科目 …… 82

保育原理 82
教育原理 84
子ども家庭福祉 86
社会福祉 88
子ども家庭支援論 90
社会的養護Ⅰ 92
保育者論 94
保育の心理学Ⅰ 96
子ども家庭支援の心理学 98
保育の心理学Ⅱ 100
子どもの保健 102
子どもの食と栄養Ⅰ 104
子どもの食と栄養Ⅱ 106
カリキュラム論 108
保育内容総論Ⅰ 110
健康指導法 112
人間関係指導法 114
環境指導法 116
言葉指導法 118
表現指導法 120
音楽表現 122
ピアノ表現Ⅰ 124
造形表現Ⅰ 126
身体表現Ⅰ 128
言語表現 130
乳児保育Ⅰ 132
乳児保育Ⅱ 134
子どもの健康と安全 136
障害児保育Ⅰ 138
障害児保育Ⅱ 140
社会的養護Ⅱ 142
子育て支援 144
保育・教職実践演習 146
子ども・子育て支援論 148
保育相談の実際 150
特別支援教育概論 152
幼児理解と教育相談 154
子どもの保健実習 156
保育内容総論Ⅱ 158
乳児保育Ⅲ 160
表現活動指導法 162
ピアノ表現Ⅱ 164
造形表現Ⅱ 166
身体表現Ⅱ 168
レクリエーション実習Ⅰ 170
保育実習Ⅰ（施設） 172
保育実習Ⅰ（保育所） 174
保育実習指導Ⅰ（施設） 176
保育実習指導Ⅰ（保育所） 178
保育実習Ⅱ 180
保育実習指導Ⅱ 182
保育実習Ⅲ 184
保育実習指導Ⅲ 186
教育と社会 188
教育実習Ⅰ 190
教育実習Ⅱ 192
幼児教育教材研究 194
コンピュータ基礎 196
レクリエーション概論 198
レクリエーション実習Ⅱ 200
子どもと健康 202
子どもと人間関係 204
子どもと環境 206
子どもと表現 208

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	1AK01	1年次 前　期	講　義	2	稲場　健	随時プリント資料を配布する
科目名	心理学		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (3) (10) (11)

〔授業の概要〕
こころは目に見えない。また、同じ行動であっても、その意味や意図が、同じ人間でさえ、違うことがある。よって、人間のこころや行動には、曖昧でわかりにくいイメージがつきまとう。しかし、心理学という学問は、客観的科学の一分野として発展してきた。曖昧でわかりにくいと思われる人間のこころや行動を科学的に研究、検証してきた学問なのである。本講義では、人間のこころの仕組みについて知り、それらがどのように行動と関連しているのか検討することで、日々の生活における人間理解に役立てられるようにしたい。日常生活での身近な疑問、興味・関心を取り上げ、それらを心理学の基礎的な知識との関連で理解できるよう目指す。将来保育者を目指す者にとっては、保育者としての関わりの前提になる自己理解、他者理解に役立つ知識や考え方を学習する講義となる。

〔授業科目の到達目標〕
・人間とかかわる上での、自己理解に役立つ、心理学の基礎的な知識を理解する
・人間とかかわる上での、他者理解に役立つ、心理学の基礎的な知識を理解する
・心理学的観点からの、ものの考え方の基礎を理解する。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　心理学とは何か ～身近な例との関連で考えてみる～	予習：シラバスを読み、授業の展開を把握してくる。	2
	復習：今回配布された学習プリント及びノートの見直しを行う。	2
2　心理学の歴史 ～こころをどう捉えようとしてきたか～	予習：前回に配布した今回の学習プリントを読んでくる。	1
	復習：講義時の解説をもとに、前回の小テストの振り返りを行い、補足点は、小テスト紙上に赤字でメモする。今回の配布プリントを見直す。	3
3　感覚・知覚・認知	予習：前回に配布した今回の学習プリントを読んでくる。	1
	復習：講義時の解説をもとに、前回の小テストの振り返りを行い、補足点は、小テスト紙上に赤字でメモする。今回の配布プリントを見直す。	3
4　感情	予習：前回に配布した今回の学習プリントを読んでくる。	1
	復習：講義時の解説をもとに、前回の小テストの振り返りを行い、補足点は、小テスト紙上に赤字でメモする。今回の配布プリントを見直す。	3
5　欲求・動機づけ	予習：前回に配布した今回の学習プリントを読んでくる。	1
	復習：講義時の解説をもとに、前回の小テストの振り返りを行い、補足点は、小テスト紙上に赤字でメモする。今回の配布プリントを見直す。	3
6　記憶と忘却・知能	予習：前回に配布した今回の学習プリントを読んでくる。	1
	復習：講義時の解説をもとに、前回の小テストの振り返りを行い、補足点は、小テスト紙上に赤字でメモする。今回の配布プリントを見直す。	3
7　学習① ～古典的条件づけ､オペラント条件づけなど～	予習：前回に配布した今回の学習プリントを読んでくる。	1
	復習：講義時の解説をもとに、前回の小テストの振り返りを行い、補足点は、小テスト紙上に赤字でメモする。今回の配布プリントを見直す。	3

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
8　学習② ～観察学習、学習性無力感など～	予習：前回に配布した今回の学習プリントを読んでくる。	1
	復習：講義時の解説をもとに、前回の小テストの振り返りを行い、補足点は、小テスト紙上に赤字でメモする。今回の配布プリントを見直す。	3
9　パーソナリティと個人差① ～パーソナリティの形成～	予習：前回に配布した今回の学習プリントを読んでくる。	1
	復習：講義時の解説をもとに、前回の小テストの振り返りを行い、補足点は、小テスト紙上に赤字でメモする。今回の配布プリントを見直す。	3
10　パーソナリティと個人差② ～パーソナリティの捉え方・性格検査～	予習：前回に配布した今回の学習プリントを読んでくる。	1
	復習：講義時の解説をもとに、前回の小テストの振り返りを行い、補足点は、小テスト紙上に赤字でメモする。今回の配布プリントを見直す。	3
11　社会と行動① ～対人認知、対人魅力など～	予習：前回に配布した今回の学習プリントを読んでくる。	1
	復習：講義時の解説をもとに、前回の小テストの振り返りを行い、補足点は、小テスト紙上に赤字でメモする。今回の配布プリントを見直す。	3
12　社会と行動② ～集団の特徴、集団の心理など～	予習：前回に配布した今回の学習プリントを読んでくる。	1
	復習：講義時の解説をもとに、前回の小テストの振り返りを行い、補足点は、小テスト紙上に赤字でメモする。今回の配布プリントを見直す。	3
13　人間の発達と適応	予習：前回に配布した今回の学習プリントを読んでくる。	1
	復習：講義時の解説をもとに、前回の小テストの振り返りを行い、補足点は、小テスト紙上に赤字でメモする。今回の配布プリントを見直す。	3
14　人間関係とストレス ～ストレスとその対処法～	予習：前回に配布した今回の学習プリントを読んでくる。	1
	復習：講義時の解説をもとに、前回の小テストの振り返りを行い、補足点は、小テスト紙上に赤字でメモする。今回の配布プリントを見直す。	3
15　まとめ	予習：前回に配布した今回の学習プリントを読んでくる。	1
	復習：今までの学習（配布プリント、ノート、小テスト）の整理、振り返りを行う。	3

〔学習上の留意点・準備等〕

・講義時に適宜、参考文献の紹介をする。

・ノートを２冊用意すること(様式、形式は自由)。ノートの用途については初回の授業時に説明する。なお、ノートは提出を求めることがあるので、毎回持参すること。

〔成績評価方法と評価基準〕

講義時における小テスト40%、レポート60%。

〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕

毎回、質問タイムを設け、質問に応じる。小テストは、講義内で振り返り及び解説を行い、疑問点、質問点についてコメントする。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	1AK02	1年次 前　期	講　義	2	丸山　義昭	随時プリント資料を配付する
科目名	国語表現法		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(6) (10) (11) (12)

〔授業の概要〕
さまざまな分野の文章を読む力をつけながら、読みとったことを文章として表現する力を養う。それぞれの文章で使われている論理を把握し、自身でも論理を組み立てながら意見を述べることができるように、書く力を身につけていく。諸々の事象に対して自身の認識を新たにしたり、他者の見方・考え方に啓発され視野が広がったりするような経験もできればよいと考えている。また、語彙や敬語の学習などを通して、国語表現に関わる基礎的な教養を体得できるようにしていきたい。
※本授業は、高等学校の学修をより深め、大学、社会への円滑な移行を図るために必要な学修方法の修得等を目的とした内容としたい。

〔授業科目の到達目標〕
1　慣用句や語彙の知識、敬語の使い方や手紙の書き方など、社会人としての基礎的な教養が身につく。
2　短歌や童話などの文学作品において自己の読みを論理的に組み立てて、文章に書き表すことができる。
3　文と文、段落と段落の関係という論理の読みとりができると同時に、要約もできる。
4　筆者の見解・主張とその根拠を論理的に検討し、それを文章に書き表すことができる。
5　物事の多面的なあり方を理解し、広い視野に立った公平さと批評性をもって表現する力が身につく。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　オリエンテーション 敬語の学習	予習：シラバスを読み、講義の概要、目標等理解 復習：敬語学習について振り返り	4
2　敬語の学習（続き） 手紙（礼状）の下書き	予習：敬語の課題に取り組む 復習：手紙学習の振り返り	4
3　手紙（礼状）の下書き ①敬語の学習	予習：資料プリントを読んでくる 復習：下書きを完成させる	4
4　手紙（礼状）の清書 ②文法の学習	予習：資料プリントを読んでくる 復習：清書を完成させる	4
5　『あるひ あるとき』を読んで問いと答えを考える ③語彙の学習	予習：資料プリントを読んでくる 復習：問いに対する答えを書き上げる	4
6　『おにたのぼうし』を読んで問いと答えを考える ④言葉の意味の学習	予習：資料プリントを読んでくる 復習：問いに対する答えを書き上げる	4
7　『白いぼうし』を読んで問いと答えを考える ⑤表記の学習	予習：資料プリントを読んでくる 復習：問いに対する答えを書き上げる	4
8　文と文、段落と段落の関係を読みとる ⑥漢字の学習	予習：資料プリントを読んでくる 復習：論理学習の振り返り	4
9　ひとまとまりの文章を要約する ⑦総合問題に取り組む	予習：課題プリントを読んでくる 復習：要約の課題に取り組む	4

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
10　短歌を読んで物語を作る	予習：資料プリントを読んでくる	4
	復習：物語を書き上げる	
11　短歌を読んで物語を作る（続き）	予習：資料プリントを読んでくる	4
	復習：物語を書き上げる	
12　新聞の社説を比較する	予習：資料プリントを読んでくる	4
	復習：社説の比較学習の振り返り	
13　反論の技術を学ぶ	予習：資料プリントを読んでくる	4
	復習：意見文を書く	
14　反論の技術を使って意見文を書く	予習：資料プリントを読んでくる	4
	復習：意見文をまとめる	
15　反論の技術を使って書いた意見文の検討	予習：資料プリントを読んでくる	4
	復習：反論の学習の振り返り	

※①～⑦は、言語事項の学習で日本語検定に対応。

〔学習上の留意点・準備等〕

毎回、講義で扱う資料プリントを配布し、要点を理解した上で、表現実践に入る。取り組んだ課題はその都度きちんと提出することが肝要。資料プリントや返却物はしっかりと整理・保存すること。

〔成績評価方法と評価基準〕

毎回の課題の提出状況と内容への評価（60%）、言語事項に関わる小テスト（30%）、受講態度（10%）を総合的に判断して評価する。

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕

添削、返却される提出物を確実に見直し、読む力、書く力が定着するようにする。また、随時配布する他の受講者の書いた文章を読んで、多角的多面的な見方・考え方を養い、自己の人間観・世界観を見つめ直し、思索の幅を広げるようにする。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	1AK03	1年次 前　期	講　義 担当形態 単　独	2	草間　俊之	課題図書を指定する 授業中に適時資料を配付する
科目名	コミュニケーション論Ⅰ					

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(6) (8) (9) (10) (11) (12) (13)

〔授業の概要〕
人は、主に言葉により、ものごとを捉えるとともに、日常の集団の中で事務的な事項や意思、思想などを互いに交換しながら、生活し、相互理解を深めているが、この授業では、主に意思や思想等に絞り、自らを高める言葉でのコミュニケーションの題材としての歴史や文化等について学ぶ。
題材としての歴史や文化等は、「我々はどこから来たのか、我々は何者か、我々はどこへ行くのか」をテーマにしたい。
※本授業は、高等学校の学修をより深め、大学、社会への円滑な移行を図るために必要な学修方法の修得等を目的とした内容としたい。

〔授業科目の到達目標〕
コミュニケーションについての基礎的な理論、実践的なスキルを習得し、大学や社会での良好な人間関係を築くことや日常会話の中において、歴史や文化、社会の出来事等について意見交換しながら、その中でさりげなく自分をアピールすることができるようにする。
また、自分を高めるコミュニケーションの題材、ネタとして、人間とは何かについて、自分なりの考えをもつことができるようにする。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　大学での学び、人間関係とコミュニケーション	要点の確認	4
2　生徒と先生の会話文から学ぶ①	要点の確認、仲間同士の話し合い、整理	4
3　生徒と先生の会話文から学ぶ②	要点の確認、仲間同士の話し合い、整理	4
4　生徒と先生の会話文から学ぶ③	要点の確認、仲間同士の話し合い、整理	4
5　古事記を読む、天地開闢①	要点の確認、整理	4
6　古事記を読む、天地開闢②	要点の確認、仲間同士の話し合い、まとめ	4
7　創世記を読む、天地創造①	要点の確認、整理	4
8　創世記を読む、天地創造②	要点の確認、仲間同士の話し合い、まとめ	4
9　ギリシア神話を読む、世界の始まり①	要点の確認、整理	4

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
10　ギリシア神話を読む、世界の始まり②	要点の確認、仲間同士の話し合い、まとめ	4
11　人間にとって、神話とは何か	要点の確認、仲間同士の話し合い、まとめ	4
12　猿人からホモ・サピエンスへの進化①	要点の確認、整理	4
13　猿人からホモ・サピエンスへの進化②	要点の確認、仲間同士の話し合い、まとめ	4
14　学びの確認と振り返り、実践へのヒント①	要点の確認、仲間同士の話し合い、整理	4
15　学びの確認と振り返り、実践へのヒント②	要点の確認、仲間同士の話し合い、まとめ	4

〔学習上の留意点・準備等〕
・聴くこと、話すこと、考えることをしっかり理解し、実践できるようにする。
・話題として、社会の出来事に関心をもつ態度や教養を身に付けようとする意欲と態度を涵養する。

〔成績評価方法と評価基準〕
・基本的な知識の習得は筆記試験で確認、評価する［６割］。
・コミュニケーションスキル等は、授業の内容確認、整理を基にしたレポートを参考にして評価する［４割］。

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
・授業の整理を中心とするレポートは、コメントを付して返却する。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	1AK03	1年次 後　期	講　義 担当形態 単　独	2	草間　俊之	課題図書を指定する 授業中に適時資料を配付する
科目名	コミュニケーション論Ⅱ					

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(6) (8) (9) (10) (11) (12) (13)

〔授業の概要〕
コミュニケーションⅠでは、「人間とは何か」をテーマとして、主体的・対話的・深い学びを意識しながら、自らを高める、言葉によるコミュニケーションの題材、ネタを学んだ。
コミュニケーションⅡでは、Ⅰを踏まえ、より一層、自らを高める言葉によるコミュニケーションの題材、ネタとして「日本人の特性、日本文化」をテーマとしたい。
※本授業は、高等学校の学修をより深め、大学、社会への円滑な移行を図るために必要な学修方法の修得等を目的とした内容としたい。

〔授業科目の到達目標〕
日常会話の中において、歴史や文化、社会の出来事等について、深く考え、自分なりの意見を構築し、理論的に相手に語ることができるようにする。
意見交換しながら、その中でさりげなく自己をアピールすることができるようにする。
また、学びを通して、言葉を大事にする態度や自分を高める態度を身に付けるとともに、人生をより豊かにするコミュニケーションができるようにする。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　文化とは何か①	要点の確認、仲間同士の話し合い、整理	4
2　文化とは何か②　絵画に学ぶ	要点の確認、仲間同士の話し合い、整理	4
3　文化とは何か③　音楽に学ぶ	要点の確認、仲間同士の話し合い、整理	4
4　大和言葉にみる日本人の特性①	要点の確認、整理	4
5　大和言葉にみる日本人の特性②	要点の確認、整理	4
6　平家物語と源氏物語にみる日本人の特性	要点の確認、仲間同士の話し合い、まとめ	4
7　空気の研究を読む①	要点の確認、整理	4
8　空気の研究を読む②	要点の確認、仲間同士の話し合い、まとめ	4
9　日本人とユダヤ人を読む	要点の確認、整理	4

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
10　菊と刀を読む①	要点の確認、仲間同士の話し合い	4
11　菊と刀を読む②	要点の確認、仲間同士の話し合い、まとめ	4
12　菊と刀を読む③	要点の確認、仲間同士の話し合い、まとめ	4
13　日本人の意識の変化、日本文化の普遍性	要点の確認、仲間同士の話し合い、まとめ	4
14　学びの確認と振り返り、実践へのヒント①	要点の確認、仲間同士の話し合い、整理	4
15　学びの確認と振り返り、実践へのヒント②	要点の確認、仲間同士の話し合い、まとめ	4

〔学習上の留意点・準備等〕
・日本人の特性、日本文化を理解し、他の人たちと意見交換できるようにする。
・社会の出来事について、日本人や日本文化とリンクさせて考えることができるようにする。

〔成績評価方法と評価基準〕
・基本的な知識の習得は筆記試験で確認、評価する［６割］。
・コミュニケーションスキル等は、授業の内容確認、整理を基にしたレポートを参考にして評価する［４割］。

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
・授業の整理を中心とするレポートは、コメントを付して返却する。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	1AK04	１年次 前　期	講　義	２	斎藤　竜夫	特になし
科目名	音楽概論		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(6) (12)

〔授業の概要〕
現在われわれの聴く音楽は子どもの曲も含めて大半は西洋音楽の語法によって成り立っている。そこで、この授業では西洋音楽史の視点から、その歴史的時点での名曲を多角的に分析する。それによって音楽の分析的な聴き方、楽しみ方を研究する。

〔授業科目の到達目標〕
分析的な音楽聴取ができる
さまざまな時代区分の音楽的特徴を理解できる

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　オリエンテーション	音楽と歴史・宗教・哲学との関係の理解	4
2　中世とルネサンスの音楽	モノフォニーとポリフォニーの理解 キリスト教との関係	4
3　バロックの音楽１ バロック音楽の感情表現	バロック音楽とそれ以前の音楽との比較	4
4　バロックの音楽２ 和声敵対違法の完成	通奏低音、カデンツの理解	4
5　古典派の音楽１ 形式原理	古典派とバロック音楽との比較	4
6　古典派の音楽２ ソナタとシンフォニー	ソナタ形式による楽曲の分析	4
7　ロマン派の音楽１ ロマン派の表現	古典派とロマン派の音楽との比較	4
8　ロマン派の音楽２ 性格的小品その他	性格的小品と標題音楽の理解	4
9　ロマン派の音楽３ 形式の拡大と発展	ロマン派音楽の形式・和声手法の理解	4
10　現代の音楽１ ワーグナーとドビュッシー以降の音楽	機能和声とその拡大・破壊の理解	4

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　現代の音楽２ モダニズムとポストモダニズム	現代音楽を取り巻く状況と可能性の理解	4
12　現代の音楽３ ポピュラー音楽の発展（子どもの歌を含む）	芸術音楽とポピュラー音楽の理解	4
13　現代の音楽４ 現代社会とのかかわり	社会と音楽との関係性の考察	4
14　総合的分析	分析手法の理解	4
15　まとめ	分析的聴取の理解	4

〔学習上の留意点・準備等〕

・西洋と日本の歴史を理解する　・簡単な哲学史を理解する　・さまざまな時代の音楽を聴取する

〔成績評価方法と評価基準〕

授業内レポート30%　期末レポート70%

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕

授業内レポートは添削し返却する。また、講義の内容理解に適した楽曲・参考資料について適宜示す。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	1AK05	２年次 後　期	講　義	２	福原　英起	『学ぶ・わかる・みえる　シリーズ 保育と現代社会　保育と日本国憲法』 橋本勇人編　みらい 『ポケット六法令和５年版』　有斐閣
科目名	日本国憲法		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(2) (3)

〔授業の概要〕
憲法の全体構造を理解した上で、基本的人権の尊重、国民主権、恒久平和主義の憲法の３原則を基軸としながら、現代の人権状況を概観していく。さらに、立法、行政、司法の統治機構が、どのように人権保障の実現と関係しているのかについても学ぶ。普段、何気なく見過ごしてしまっている身近なところにも憲法問題が潜んでいることに気付けるようになることを目指したい。そして、現場に出てからの実践の中で、「人権」というフィルターを通して、目の前の事象や物事を捉えられ、アドボケイトできるようにしたい。

〔授業科目の到達目標〕
・人権が歴史的にどのように形成され、変遷してきたのかについて理解する。さらに、何故、憲法で基本的人権や国民主権、平和主義が保障されているのかについて、事例を通して人権感覚の修得につながるようになることを目的とする。

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　日本の法体系	テキストの第１章を読んで理解を深める	4
2　日本国憲法の成立と特徴、基本原理	テキストの第２章を読んで理解を深める	4
3　人権の享有主体性と人権の制約	テキストの第３章を読んで理解を深める	4
4　個人の尊重と幸福追求権	テキストの第４章を読んで理解を深める	4
5　法の下の平等	テキストの第５章を読んで理解を深める	4
6　思想・良心の自由、信教の自由	テキストの第６章を読んで理解を深める	4
7　学問の自由、表現の自由	テキストの第７章を読んで理解を深める	4
8　経済的自由権	テキストの第８章を読んで理解を深める	4
9　社会権と生存権	テキストの第９章を読んで理解を深める	4
10　教育を受ける権利と義務	テキストの第10章を読んで理解を深める	4

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　労働者の権利	テキストの第11章を読んで理解を深める	4
12　権力分立と三権分立、立法権、行政権	テキストの第12章を読んで理解を深める	4
13　司法権、憲法の保障	テキストの第13章を読んで理解を深める	4
14　平和主義、安全保障	テキストの第14章を読んで理解を深める	4
15　人権尊重の意味	テキストの第15章と授業で配布したすべての資料を活用して理解を深める	4

〔学習上の留意点・準備等〕
必ず指定のテキストを持参すること。授業を受けながら適時ノートをとること。
講義時に適宜資料を配布する。

〔成績評価方法と評価基準〕
定期試験（70%）、レポート（30%）

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
試験のポイントについて解説する。レポートや小テストを添削し返却する。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	1AK06	１年次 後　期	講　義 担当形態 単　独	２	福原　英起	『「なんとかする」子どもの貧困』 湯浅誠、角川新書
科目名	子どもと人権					

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(9) (10) (11)

〔授業の概要〕
子どもの貧困率は、2015年現在、13.9％で全国に約280万人で７人に１人の割合となっている。この授業では、子どもを取り巻く国内外の人権問題を取り上げながら解説し、現状の理解を深めていく。さらに、社会や大人の責務として、日本国憲法や子どもの権利条約が幸福追求権や子どもの最善の利益の確保の保障を要請している点を踏まえながら、現代社会の問題状況を明確にし、将来を担う子どもの人権保障のあり方について考察していく。

〔授業科目の到達目標〕
子どもを取り巻く現状とその問題に対する社会的取り組みを理解する。その際、「貧困」をキーワードとして、社会に貧困がある理由やそのマイナスの影響等について触れることで、法制度のはざまで奪われてしまう子どもの権利について概観する。そして、具体的な「貧困」解決のための取り組み事例を検討しながら、子どもの最善の利益に配慮した社会にどうすれば繋がるのかについて、各自が考察できるようにすることを目的とする。

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　「貧困」とは何か	指定テキストの第1章を読んで理解する。	4
2　「貧困率」と日本社会	指定テキストの第1章、配布資料を読んで理解する。	4
3　労働と貧困（子育て世帯）	指定テキストの第1章、配布資料を読んで理解する。	4
4　貧困が引き起こす子どもへの影響	指定テキストの第1章、配布資料を読んで理解する。	4
5　子どもの貧困対策法について	配布資料を読んで理解する。	4
6　多様に捉える子どもの貧困 （諸外国との比較を通して）	配布資料を読んで理解する。	4
7　すべての子どもへの見守りと支援 （保育所を中心に）	配布資料を読んで理解する。	4
8　社会的養護における子どもの現状	配布資料を読んで理解する。	4
9　ひとり親世帯	配布資料を読んで理解する。	4
10　生活保護世帯	配布資料を読んで理解する。	4

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　格差・貧困と学力	指定テキストの第２章、第４章、配布資料を読んで理解する。	4
12　若者の貧困	配布資料を読んで理解する。	4
13　子どもの貧困に取り組む企業の取り組み	指定テキストの第２章、第３章を読んで理解する。	4
14　子どもの貧困に取り組む自治体の取り組み	指定テキストの第２章、第３章、配布資料を読んで理解する。	4
15　貧困の連鎖を断ち切る取り組み	指定テキストの第４章、配布資料を読んで理解する。	4

〔学習上の留意点・準備等〕
指定テキスト、配布資料を持参し、適宜ノートを取る。

〔成績評価方法と評価基準〕
期末レポート（70%）、ワークシート（30%）

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
ワークシートを添削し返却する。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	1AK07	1年次 後　期	講　義	2	井山　弘幸	なし
科目名	自然科学概論		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(3) (4) (5) (6) (7) (8) (10) (11) (12) (13)

〔授業の概要〕
自然科学はどのような知識なのか。身近な話題をとりあげながら、その客観性や実用性について考察する。適宜映像資料を用いて、科学とは何かという問題を追究する。

〔授業科目の到達目標〕
自然科学について、正確で誇張のない現実的なイメージを形成すること。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　科学者という仕事。	講義内容の復習	4
2　死後の世界と科学。幽霊の科学的解釈。	講義内容の復習	4
3　賭博と確率論。合理的な投機は可能か。	講義内容の復習	4
4　精神科学と性格類型論。血液型性格診断は可能か。	講義内容の復習	4
5　未発見動物学とモンスターの科学。	講義内容の復習	4
6　宇宙人は存在するか。宇宙物理学と異星人論。	講義内容の復習	4
7　恋愛は科学の対象となりうるか。	講義内容の復習	4
8　奇跡と科学的推論。ルルドの奇跡と医療科学。	講義内容の復習	4
9　公衆衛生学と統計科学。ナイチンゲールの業績。	講義内容の復習	4
10　パスツールと感染理論。免疫とは何か。	講義内容の復習	4

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　進化論は科学的に根拠があることか。	講義内容の復習	4
12　因果性と科学。風が吹けば桶屋は儲かるか。	講義内容の復習	4
13　予言と予測。予言者を信じる根拠はあるか。	講義内容の復習	4
14　実験とは何か。実験によって何が証明できるか。	講義内容の復習	4
15　科学と非科学との決定的な相違は何か。	講義内容の復習	4

〔学習上の留意点・準備等〕
講義中に私語をしないこと。ゲームをしないこと。あからさまに寝ないこと。

〔成績評価方法と評価基準〕
講義での参加状況。授業態度が悪い場合は大きく減点する。

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
課題は講義時間中に提示。レポートは期間中は課されず、最終試験にもとづいて成績を決める。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	1AK08	1年次 前　期	講　義	1	坂内　寿子	随時プリント資料を配付
科目名	体育講義		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (3) (4) (13)

〔授業の概要〕
健康な生活を確立し維持することは誰もが願う欲求である。現代の生活環境は物質面において、便利で快適な生活を得ることができるようになった。反面、身体活動は減少し健康を支える体力を著しく低下させている。また、運動不足と飽食による栄養過剰は生活習慣病の増加、若年化現象をもたらせている。青年期は今後の健康生活を形成するうえで最も大切な時期であり、個々の健康観を確立することが重要となる。本授業では健康に関する正しい知識を学ぶとともに日常生活に反映させる知恵を養うことを目的とし、講義を中心にビデオ視聴や簡単な測定を取り入れ、授業を行う。
※本授業は、高等学校の学修をより深め、大学、社会への円滑な移行を図るために必要な学修方法の修得等を目的とした内容としたい。

〔授業科目の到達目標〕
・人体の骨格・筋肉・内臓の基本的な部位の名称がおおよそ解り、説明できる。
・健康の概念について理解し、説明できる。
・健康づくりの基本について理解し、説明できる。
・体力の構成について理解し、説明できる。
・自身の生活を振り返り、健康状態に合わせた増進の方法を考え、実践できる。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　オリエンテーション、人体の構造の概要	予習：シラバスを読み、授業の展開を把握 復習：オリエンテーション内容、資料の見直し	4
2　人体の名称(骨格・筋肉・内臓)、ビデオ視聴	予習：人体の部位の名称についての書き出し 復習：配付された資料の見直し部位名を記入	4
3　健康の定義・考え方、体力の構成	予習：健康・体力についての考えを記入 復習：復習用のプリントを記入	4
4　まとめ① (人体の名称、健康の定義、体力の構成)	予習：配付されている資料の見直し 復習：小テスト結果のふり返り	4
5　健康づくりの基本 (学生生活、自己の一日をふり返って)	予習：一日の生活(24時間)を所定の用紙に記入 復習：健康づくりの柱を基に自己の課題のふり返り	4
6　健康づくりと食生活、健康づくりと休養	予習：配付資料を読み食生活・休養について理解 復習：食生活・休養についてのまとめを記述	4

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
7　健康づくりと運動	予習：配付資料を読み運動について理解	4
	復習：自己の運動習慣をふり返り、計画書作成	
8　アルコールと健康、喫煙と健康、青年期の性と健康	予習：健康づくりに関する配付資料の整理	4
	復習：配付資料に提示されている課題の記入	
9　まとめ②（健康づくり）	予習：アルコール飲料のアルコール度数の調査	4
	復習：小テスト結果のふり返り	

〔学習上の留意点・準備等〕
配付資料やノートは整理し、毎時間の予習及び復習は必ず行いましょう。

〔成績評価方法と評価基準〕
人体図（骨格、筋肉、内臓）のレポート（30%）、定期試験（70%）

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
まとめの小テスト、毎時間の課題、レポートは添削し返却する。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	1AJ09	1年次 前　期	実　技	1	中島　孝子	授業中に適宜資料を配布する。
科目名	体育実技		担当形態 オムニバス			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(3) (4) (8) (10) (11) (12) (13)

〔授業の概要〕
運動は健康で生き生きと生きていくために欠かせない大切な要素の一つである。何もかもが便利になり省エネ化された現代社会において、われわれはともすると運動不足になりがちである。運動不足は様々な弊害をもたらす。運動の生活化が今求められている所以であるが、生涯を通してスポーツに親しみ実践していけるかどうかは青年期の取り組みが大切である。この授業ではその第一歩として、基礎的な体力作り運動や、リズム運動、ボール運動などを通して運動実践能力を高める。

〔授業科目の到達目標〕
音のリズムに乗ってキビキビとダイナミックに動けるようになる。
ボール運動やバトミントン、卓球などに親しみ、チームで協力し合ってゲームを楽しく行えるようになる。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　オリエンテーション	―――	―
2　リズム運動① 基本の姿勢、ポジションが理解でき、リズムに乗ることができる。	―――	―
3　リズム運動② 基本のステップが理解でき、ステップを踏んで動くことができる。	―――	―
4　リズム運動③ 簡単なフレーズを覚えることができ、いくつかのフレーズをつなげて動くことができる。	―――	―
5　リズム運動④ 笑顔でリズミカルに動くことができる。	―――	―
6　リズム運動⑤ 生き生きと有機的に動くことができる。	―――	―
7　バスケットボール or バレーボール ～基本的な動き方が解る	―――	―
8　バスケットボール or バレーボール ～ゲームの仕方が解る	―――	―
9　バスケットボール or バレーボール ～ゲーム①　予選	―――	―
10　バスケットボール or バレーボール ～ゲーム②　決勝	―――	―

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　バトミントン or 卓球 ～基本的な動き方が解る	―――	―
12　バトミントン or 卓球 ～ゲームの仕方が解る	―――	―
13　バトミントン or 卓球 ～ゲーム①　予選	―――	―
14　バトミントン or 卓球 ～ゲーム②　決勝	―――	―
15　まとめ （生涯スポーツの必要性を理解する）	―――	―

〔学習上の留意点・準備等〕
運動に適した身支度を整える。集合・整列をきちんと守る。仲間と協力して行動する。

〔成績評価方法と評価基準〕
授業への取り組み状況や態度80%　課題への振り返りレポート20%

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
授業の振り返りのレポートについてコメントし返却する。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2AE10	２年次 通　年	演　習 担当形態 単　独	２	マッツ・エングバリー	『Speaking of Childcare』 Peter Vincent / Naoko Nakazato 著 『Very Easy True Stories』 Sandra Heyer 著
科目名	英語会話					

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (6) (11) (13)

〔授業の概要〕
保育の場で使う英会話を学びます。
テキストは、外国の子どもたちと日本の子どもたちが共に学ぶ共に学ぶ国際的な保育園を舞台に、一人の実習生の体験を通して、様々な語彙や会話を学べるようになっています。英語は今日、世界共通言語になりつつありますので、これらの会話を身に付ければ保育現場だけではなく、いつでも、どこでも活用できます。
言語だけではなく、文化や習慣の違いにも目を向けます。
英会話は「習うより慣れろ」です。授業では積極的に声を出して練習しましょう。
英語の歌、幼児の手遊び唄、簡単なゲームなどな生の英語に触れる機会を多くして、たのしく英語に親しんでいきます。

〔授業科目の到達目標〕
日常的な場面において英語でのコミュニケーションができるようになる。保育や幼児教育に関する語彙を増やす。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1 S：Unit 1 Classroom English / Whats your name? 【質問と答え、現在形（be動詞、一般動）】	予習：S：Page 6-1 / Classroom Questions, Present Tense, School Items	1
2 V：Unit 1 Shopping Day	復習：V：Page 1-6 / Questions, Grammar + Reading Practice (2)	1
3 S：Unit 2 Where are you from? 【現在形の質問と答え、音（擬音語、擬態語）】	予習：S：Page 12-17 / Wh-questions, Nationalities and Languages, Sounds	1
4 V：Unit 2 Mary Walks Home	復習：V：Page 7-12 / Wh-questions, Nationalities, Languages, Reading Practice	1
5 S：Unit 3 Good morning! 【2語動詞、現在形と現在進行形、頻度】	予習：S：Page 18-25 / Greetings, Real English, Two-Word Verbs, Do vs. Doing, Frequency	1
6 V：Unit 3 Elevator Romance	復習：V：Page 13-18 / Do vs. Doing,+ Reading Practice, Vocabulary	1
7 S：Unit 4 Are you OK? 【症状の説明、医療品】	予習：S：Page 26-31 / Health, Symptoms	1
8 V：Unit 4 A Son for Mr. and Mrs. Aversa?	復習：V：Page 19-21 / Health Talk + Reading Practice	1
9 S：Unit 5 What are you doing? 【特殊な動詞、現在進行形】	予習：S：Page 32-37 / Special Verbs：need, want, know	1
10 V：Unit 5 Is There a Face on Mars?	復習：V：Page 25-28 / Verb Practice + Reading Practice	1
11 S：Unit 6 How are you feeling? 【感情表現、気分を表す形容詞 （-ed形、-ing形）、否定の疑問文の答え方】	予習：S：Page 38-45 / Feelings, -ed + -ing adjectives, Yes or No	1
12 V：Unit 6 Neighbors	復習：V：Page 31-36 / Feelings + Adjectives + Reading Practice	1
13 S：Unit 7 What's she like? 【人についての表現、家系図】	予習：S：Page 46-53 / Describe People	1

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
14 V : Unit 7　A Smart Mother	復習：V : Page 37-42 / Descriptions + Reading Practice	1
15 S : Unit 8　Do's and dont's 【命令文、禁止、依頼、標識】	予習：S : Page 54-62 / Commands(Do/Don't), Can vs. Could	1
16 V : Unit 8　Stuck!	復習：V : Page 43-48 / Can/Could, Do/Don't + Reading Practice	1
17 S : Unit 9　Let's eat lunch! 【動詞letの使い方、表現(～しよう、～させる、～してあげる)】	予習：S : Page 68-73 / Suggestions, Translation	1
18 V : Unit 9　Binti to the Rescue	復習：V : Page 49-54 / Let's + Reading Practice	1
19 S : Unit 10 What do you want to do? 【表現（～したい、～したくない）、遊びの言葉、反対語、表現（あいづち）、感嘆文】	予習：S : Page 74-83 / Want to/Don't want to, "play", Reactions, Playground Words, Opposites	1
20 V : Unit 10 Where Is Mrs. Zimmer?	復習：V : Page 55-60 / "Play" in English + Reading Practice, Reactions, Opposite Words	1
21 S : Unit 11 What do you have to do? 【助動詞、保護者へのメッセージ】	予習：S : Page 84-91 / Should, Must, Need(Modal Verbs)	1
22 V : Unit 11 Fast Money	復習：V : Page 61-66 / Modals + Word order + Reading Practice	1
23 S : Unit 12 I need to go potty 【表現(必ず～する)、表現(～してくれる？)】	予習：S : Page 92-99 / Make sure, Can/Could	1
24 V : Unit 12 Returning a Favor	復習：V : Page 67-72 / Can/Could + Reading Practice	1
25 S : Unit 13 Good job! 【過去形1、褒める表現】	予習：S : Page 100-107 / Past tense, Giving compliments	1
26 V : Unit 13 Help! I Can't Find My Apartment!	復習：V : Page 73-78 / Past tense conversation + Reading Practice	1
27 S : Unit 14 Injuries and emergencies 【体の部位、怪我、過去形2】	予習：S : Page 108-116 / Parts of the Body, Accidents	1
28 V : Unit 14 A Big Tip	復習：V : Page 79-84 / Body + Reading Practice	1
29 S : Unit 15 We're going to go outside 【未来形1.2、未来表現（現在進行形）】	予習：S : Page 117-122 / Future tense, Plans	1
30 V : Review * S : Speaking of Childcare / V : Very Easy True Stories	復習：S & V : Future talk + Reading Practice	1

＊各テキスト１つのUnitを２回かけて終わらせる。

〔学習上の留意点・準備等〕

テキストについているCDを繰り返し聞き、予復習をする。
授業中のペアワークなどのアクティビティーに積極的に参加する。

〔成績評価方法と評価基準〕

前期、後期のテスト60%、提出物20%、音読テスト20%

〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕

課題と小テストは添削して返却する。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	2AE11	２年次 通　年	演　習	２	梅田　　周	『LOVE! 上海 初級』 朝日出版社 2,400円(+税) 楊凱栄・ 張麗群
科目名	中国語会話		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(6) (10)

〔授業の概要〕
教科書を使って体系的に中国語を学習していきます。また、文化や食べ物などの紹介も行い理解を深めます。語学力やコミュニケーション能力は目には見えないものです。せっかく学習するので、希望する学生は中国語検定に挑戦し自分の能力を可視化しましょう。将来的に中国・台湾研修旅行などを企画して現地を訪れる機会を作れたらと思っています。

〔授業科目の到達目標〕
・本科目を１年間真剣に取り組めば中国語検定の準４級に合格するレベル
・中国語の発音や四声について理解及び使用できる
・基礎的な中国語の語彙や文法を理解及び使用できる

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　ガイダンス及び発音練習		1
2　発音練習	前回授業の復習、小テスト勉強	1
3　第１課　浦東空港にて	前回授業の復習、小テスト勉強	1
4　第２課　タクシーに乗って	前回授業の復習、小テスト勉強	1
5　第３課　ホテルでお茶を	前回授業の復習、小テスト勉強	1
6　第４課　私の家族	前回授業の復習、小テスト勉強	1
7　第５課　趣味は映画です	前回授業の復習、小テスト勉強	1
8　第６課　大学の図書館へ	前回授業の復習、小テスト勉強	1
9　第７課　放課後	前回授業の復習、小テスト勉強	1
10　第８課　上海の交通	前回授業の復習、小テスト勉強	1
11　第９課　地下鉄駅付近にて	前回授業の復習、小テスト勉強	1
12　第10課　上海の小吃	前回授業の復習、小テスト勉強	1
13　第11課　ちょっとお腹が空いた	前回授業の復習、小テスト勉強	1
14　第12課　突然の雨	前回授業の復習、小テスト勉強	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
15　まとめ及びレビュー 中国語検定準４級模擬試験	前回授業の復習、小テスト勉強	1
16　ガイダンス及び前期の復習	前回授業の復習、小テスト勉強	1
17　第14課　おなかいっぱいです	前回授業の復習、小テスト勉強	1
18　第15課　外難の夜景	前回授業の復習、小テスト勉強	1
19　第16課　上海語はおもしろい	前回授業の復習、小テスト勉強	1
20　第17課　ホテルの部屋から	前回授業の復習、小テスト勉強	1
21　第18課　どうしたの?	前回授業の復習、小テスト勉強	1
22　第19課　上海は魅力的	前回授業の復習、小テスト勉強	1
23　第20課　また会いましょう	前回授業の復習、小テスト勉強	1
24　第１課　虹橋空港にて	前回授業の復習、小テスト勉強	1
25　第２課　地下鉄に乗って	前回授業の復習、小テスト勉強	1
26　第３課　上海の交通は便利です	前回授業の復習、小テスト勉強	1
27　第４課　２週間上海にいます	前回授業の復習、小テスト勉強	1
28　第５課　豫園でショッピング	前回授業の復習、小テスト勉強	1
29　第６課　道を尋ねる	前回授業の復習、小テスト勉強	1
30　第７課　オールドジャズバンド	前回授業の復習、小テスト勉強	1

〔学習上の留意点・準備等〕
※本シラバスは予定であり、履修者人数や学習者のニーズによって適宜変更を加える可能性があります。

〔成績評価方法と評価基準〕
毎回の確認小テスト（20%）、授業態度（30%）、期末試験（50%）

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
小テストを実施し、添削をして返却する。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	1BK01	１年次 前　期	講　義	２	小川　崇	大桃伸一編『未来を拓く保育の創造』 学術図書出版社
科目名	保育原理		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
（1）（8）（9）（10）（11）

〔授業の概要〕
現代社会において、乳幼児が成長していくためには、保育という営み、それも専門職としての保育ということが不可欠となっている。本講義では、専門職としての保育者に必要と考えられる、保育についての理念的なとらえ方、諸原理、また保育の歴史や思想、制度などについて学んでいく。そのことによって受講者が自分の言葉で保育について考え、語れるようになることを目指したいと思う。

〔授業科目の到達目標〕
・保育とはどのような営みであるか、理念・思想・歴史・制度・実践など様々な側面から理解する。
・保育についての自分なりの見方・考え方（保育観）をもつ。

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　保育とはどのような営みか	テキスト第２章を読んで理解を深める。	4
2　保育はどのように行われてきたか	テキスト第３章、第４章を読んで理解を深める。	4
3　保育はどのように考えられてきたか	テキスト第２章、第３章を読んで理解を深める。	4
4　保育はどこで行われているか① 幼稚園、保育所	テキスト第８章、第10章を読んで理解を深める。	4
5　保育はどこで行われているか② 認定こども園	テキスト第８章、第10章を読んで理解を深める。	4
6　保育者に求められるものは何か① 保育者の身につけるべき専門性	テキスト第７章、第12章を読んで理解を深める。	4
7　保育者の求められるものは何か② 保育者に求められる専門性	テキスト第７章、第12章を読んで理解を深める。	4
8　子どもの成長発達と子ども理解① 遊びと子ども	テキスト第５章、第６章、第７章を読んで理解を深める。	4
9　子どもの成長発達と子ども理解② 様々な活動と子ども	テキスト第５章、第６章、第７章を読んで理解を深める。	4
10　保育に関わる制度の理解① 教育との関わりから	テキスト第４章、第８章を読んで理解を深める。	4

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　保育に関わる制度の理解② 福祉との関わりから	テキスト第４章、第８章を読んで理解を深める。	4
12　子育て支援はどのように行われているか	テキスト第８章、第13章を読んで理解を深める。	4
13　児童虐待について考える	授業時に紹介する参考文献等を読んで理解を深める。	4
14　保育の現状と課題	テキスト第14章を読んで理解を深める。	4
15　まとめ		4

〔学習上の留意点・準備等〕
講義時に適宜参考文献を紹介する。

〔成績評価方法と評価基準〕
講義時の小レポート（15%）、中間レポート（40%）、期末レポート（45%）によって評価する。

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
授業時に提出する小レポートを、次回の授業でいくつか取り上げて紹介し、コメントする。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	1BK02	1年次 後　期	講　義 担当形態 単　独	2	渡邉　彩	新初等教育原理　2014年 佐々木正治 編著 福村出版
科目名	教育原理					

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (3) (5) (8) (9) (10)～(13)

〔授業の概要〕
乳幼児期の子どもとその家族を取り巻く社会の変化に伴い、教育者に求められる役割も変化してきている。本講義では、教育の専門職として必要な、教育の意義・目的、教育思想、教育の制度、教育実践といった基本的知識の理解をはかる。この上で、現代社会における教育に関する諸課題について、対話型の学習をすすめる。本講義を通して、教育・子どもに関する社会事象に関して、自分なりに考察し言語化できることを目指すものである。

〔授業科目の到達目標〕
・教育・学習について、意義・思想・歴史・制度・実践といった側面から多面的に理解できる。
・教育に関する事象に関して、自分なりの考察をし、言語化することができる。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　教育の意義とは何か	テキスト第１章を読んで理解を深める。	4
2　教育の目的	テキスト第２章を読んで理解を深める。	4
3　西洋の初等教育史	テキスト第３章を読んで理解を深める。	4
4　日本の初等教育史	テキスト第４章を読んで理解を深める。	4
5　教育制度の基礎 初等教育のカリキュラム	テキスト第５章を読んで理解を深める。	4
6　初等教育の方法と評価	テキスト第６章を読んで理解を深める。	4
7　子どものための生徒指導	テキスト第７章を読んで理解を深める。	4
8　特別活動と学校行事	テキスト第８章を読んで理解を深める。	4
9　初等教育の学級経営	テキスト第９章を読んで理解を深める。	4
10　初等教育の経営	テキスト第10章を読んで理解を深める。	4

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　初等教育の制度	テキスト第11章を読んで理解を深める。	4
12　生涯学習と家庭教育・社会教育	テキスト第12章を読んで理解を深める。	4
13　教育行政と教育内容行政	テキスト第13章を読んで理解を深める。	4
14　初等教育　教師の採用と職務	テキスト第14章を読んで理解を深める。	4
15　これからの初等教師	これまでの学習内容を振り返り理解を深める。	4

〔学習上の留意点・準備等〕
講義時に適宜参考文献を紹介する。

〔成績評価方法と評価基準〕
講義時のコメントシート（20%）、中間レポート（40%）、期末試験（40%）によって評価する。

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
授業時に提出するコメントシートの内容を抜粋し、次回の授業で取り上げ、コメントする。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	1BK03	1年次 後　期	講　義 担当形態 単　独	2	植木　信一	『新保育ライブラリ子ども家庭福祉』 植木信一、北大路書房
科目名	子ども家庭福祉					

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2)

〔授業の概要〕
最新の子ども家庭福祉の動向をより正確に把握しながら、子どもの権利保障や子どもの最善の利益の視点をとおして、より有効な子ども家庭福祉のあり方について学ぶ。

〔授業科目の到達目標〕
子ども家庭福祉の専門職者として必要な福祉サービスや制度および社会資源の理解はもとより、子ども家庭福祉を現場や地域で具現化する主体でもあるという自覚を促すことを目的とする。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　子ども家庭福祉の枠組みと概要	指定テキストの第1章を読んで理解を深める	4
2　子ども家庭福祉の専門職者と資格制度	指定テキストの第3章4節4. を読んで理解を深める	4
3　子ども家庭福祉の法律や制度	指定テキストの第3章2節を読んで理解を深める	4
4　子ども家庭福祉における保育制度	指定テキストの第4章1節を読んで理解を深める	4
5　児童福祉施設の概要	指定テキストの第3章4節2. を読んで理解を深める	4
6　子ども家庭福祉の相談機関	指定テキストの第3章4節1. を読んで理解を深める	4
7　子どもの健全育成のしくみと概要	指定テキストの第4章2節を読んで理解を深める	4
8　ひとり親家庭の福祉サービス	指定テキストの第4章5節を読んで理解を深める	4
9　児童虐待防止に関する動向と対策	指定テキストの第4章6節を読んで理解を深める	4
10　子どもの権利条約の概要	指定テキストの第2章3節を読んで理解を深める	4

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　子どもの権利保障と子どもの最善の利益	指定テキストの第2章2節を読んで理解を深める	4
12　子ども家庭福祉を支える地域組織活動と文化財	指定テキストの第6章3節を読んで理解を深める	4
13　子ども家庭福祉の歴史	指定テキストの第3章1節を読んで理解を深める	4
14　スクールソーシャルワークの意義	指定テキストの第4章7節を読んで理解を深める	4
15　子ども家庭福祉制度のまとめ	授業で配布したすべての資料を活用して理解を深める	4

〔学習上の留意点・準備等〕
必ず指定のテキストを持参すること。授業を受けながら適時ノートをとること。

〔成績評価方法と評価基準〕
定期試験

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
試験のポイントについて適時解説する。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	1BK04	１年次 前　期	講　義	２	福原　英起	『社会福祉　基本保育シリーズ④』 松原康雄・圷洋一・金子充　中央法規、 『社会福祉小六法2022〔令和４年版〕』 ミネルヴァ書房
科目名	社会福祉		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(8) (9) (12) (13)

〔授業の概要〕
現代社会における子どもやその保護者を取り巻く現状は、虐待の増加、子どもの貧困等、子どもの人権が侵害されている事例が多数見受けられる。保育士はもっとも身近な存在であり、保育士に要求される役割と責任はますます大きくなっている。この授業では、社会福祉や子どもの権利条約の理念、制度と法体系、行財政と実施機関、社会福祉専門職等について学ぶ。

〔授業科目の到達目標〕
子どもと携わる専門職である保育士として必要な社会福祉や子どもの権利条約の基本理念を基軸としながら、子どもとその家庭の構成員のウエルビーイングを実現していく際に、家庭と地域の社会資源とを結び付けられるようにすることを目的とする。

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　社会福祉の意義と歴史的変遷	テキスト第１章を読んで理解を深める	4
2　社会福祉の諸外国の動向	テキスト第15章を読んで理解を深める	4
3　社会福祉の中の子ども家庭福祉	テキスト第２章を読んで理解を深める	4
4　子どもの権利擁護と社会福祉	テキスト第３章を読んで理解を深める	4
5　家庭支援と社会福祉	テキスト第４章を読んで理解を深める	4
6　社会福祉の制度と法体系（1） （社会福祉、低所得者、障害者関連）	テキスト第５章Step１を読んで理解を深める	4
7　社会福祉の制度と法体系（2） （子ども、高齢者、地域関連）	テキスト第５章Step２．３を読んで理解を深める	4
8　社会福祉行財政と実施機関	テキスト第６章を読んで理解を深める	4
9　社会福祉施設と福祉サービス（1） （保健医療、介護、年金、生活保護）	テキスト第７章Step２－１まで読んで理解を深める	4
10　社会福祉施設と福祉サービス（2） （高齢者、障害者、子ども、社会手当）	テキスト第７章Step３－２まで読んで理解を深める	4

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　社会福祉の専門職・実施者	テキスト第８章を読んで理解を深める	4
12　社会保障および関連制度の概要	テキスト第９章を読んで理解を深める	4
13　社会福祉における利用者保護の仕組み	テキスト第12章を読んで理解を深める	4
14　少子高齢化社会への対応	テキスト第13章を読んで理解を深める	4
15　地域福祉の推進とネットワーク	テキスト第14章を読んで理解を深める	4

〔学習上の留意点・準備等〕
必ず指定のテキストを持参すること。授業を受けながら適時ノートをとること。
講義時に適宜資料を配布する。

〔成績評価方法と評価基準〕
定期試験（60%）、小テスト（20%）、レポート（20%）

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
試験のポイントについて解説する。
レポートや小テストを添削し返却する。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	1BK05	１年次 前　期	講　義	２	田代　健一	『保育と子ども家庭支援論』 石動瑞代・中西遍彦・隣谷正範 株式会社みらい　2021.4.20
科目名	子ども家庭支援論		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (6) (8) (10) (11) (12) (13)

〔授業の概要〕
乳幼児期の子どもとその家族を取り巻く状況と社会の変化に伴い、保育者に求められる役割も変化してきている。本講義では、子ども家庭支援の専門職として必要な子ども家庭支援の意義・目的、子ども家庭支援の基本、子ども家庭支援の制度、子ども家庭支援の実践といった基本的知識の理解を図る。その上で現代社会における子ども家庭支援に関する諸課題について、教育・保育に関する社会的事象を多角的に考察し学びを深める。児童相談所での勤務経験を有する教員が授業を担当する。

〔授業科目の到達目標〕
・子ども家庭支援について、意義・基本的な態度・知識・制度等を多角的に理解する。
・子ども家庭支援に関する社会的事象を、自分なりに考察し言語化できるようにする。

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　子どもと家庭を取り巻く環境	テキスト第１章を読んで理解を深める。	4
2　保育者が実践する子ども家庭支援とは	テキスト第２章を読んで理解を深める。	4
3　子ども家庭支援を支える法・制度及び社会資源	テキスト第３章を読んで理解を深める。	4
4　保育者に求められる基本的態度及び基本的技術	テキスト第４章を読んで理解を深める。	4
5　保育者が行う子ども家庭支援の実際	テキスト第５章を読んで理解を深める。	4
6　地域の子育て家庭への支援	テキスト第６章を読んで理解を深める。	4
7　さまざまな子ども家庭の理解と支援	テキスト第７章第１節及び第２節を読んで理解を深める。	4
8　さまざまな子ども家庭の理解と支援	テキスト第７章第３節及び第４節を読んで理解を深める。	4
9　不適切な養育環境の子どもやその家庭への支援	テキスト第８章第１節を読んで理解を深める。	4
10　不適切な養育環境の子どもやその家庭への支援	テキスト第８章第２節及び第３節を読んで理解を深める。	4

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　発達障がい児等の理解と家庭への支援	テキスト第９章を読んで理解を深める。	4
12　子どもの貧困の理解と家庭への支援	テキスト第10章を読んで理解を深める。	4
13　保育と子ども家庭支援	テキスト終章第１節を読んで理解を深める。	4
14　保育と子ども家庭支援	テキスト終章第２節及び第３節を読んで理解を深める。	4
15　子ども家庭支援の現状と課題	参考資料を読んで理解を深める。	4

〔学習上の留意点・準備等〕
講義時に適宜参考資料・文献を紹介する。

〔成績評価方法と評価基準〕
中間レポート（40%）、期末レポート（60%）によって評価する。

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
講義後に提出する質問・コメントシートの内容を整理し、次回以降の講義で説明・コメントする。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	1BK06	１年次 前　期	講　義 担当形態 単　独	２	福原　英起	『よりそい支える社会的養護Ⅰ』 中山政雄編著　教育情報出版 『社会福祉法六法2022〔令和４年版〕』 ミネルヴァ書房
科目名	社会的養護Ⅰ					

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
（10）（11）（12）（13）

〔授業の概要〕
社会的養護は、今、大きな変革期を迎えている。2016年の児童福祉法の改正により、初めて「子どもの権利条約の精神」と「子どもの最善の利益」の文言が総則に盛り込まれることとなった。さらに、虐待を受けた子どもに対する社会的養護のあり方が模索されている。この講義では、「社会的養護の課題と将来像」、「新しい社会的養育ビジョン」を踏まえながら、保育士として必要な福祉サービスや制度、社会資源の理解と権利擁護に基づいた支援のあり方について学ぶ。

〔授業科目の到達目標〕
社会的支援を受けて生活を送る子どもとその家族に関わる施設保育士として必要な社会的養護の理念と原理、現状、歴史、権利擁護とその取り組み等の理解を深める。さらに、理念が目指す社会的養護を具現化する上で、施設保育士の果たす役割について考察できるようにする。

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　社会的養護の基本理念と原理	指定テキストの第１章を読んで理解を深める。	4
2　社会的養護の歴史①（日本）	指定テキストの第２章、配布資料を読んで理解を深める。	4
3　社会的養護の歴史② （イギリス、ドイツ、スウェーデン）	指定テキストの第２章、配布資料を読んで理解を深める。	4
4　社会的養護の歴史③（アメリカ）	指定テキストの第３章、配布資料を読んで理解を深める。	4
5　子どもの権利擁護	指定テキストの第３章、配布資料を読んで理解を深める。	4
6　社会的養護の体系と実践	指定テキストの第４章を読んで理解を深める。	4
7　社会的養護の領域と概要 （児童養護施設、乳児院）	指定テキストの第５章、配布資料を読んで理解を深める。	4
8　社会的養護の領域と概要 （児童自立支援施設、児童心理治療施設）	指定テキストの第５章、配布資料を読んで理解を深める。	4
9　社会的養護の領域と概要（家庭養護）	指定テキストの第６章を読んで理解を深める。	4
10　社会的養護の領域と概要 （知的障害児施設、肢体不自由児施設、 重症心身障害児施設）	指定テキストの第７章を読んで理解を深める。	4

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　社会的養護の領域と概要 （児童発達支援センター）	指定テキストの第７章を読んで理解を深める。	4
12　社会的養護に関わる専門職と倫理	指定テキストの第８章を読んで理解を深める。	4
13　社会的養護に関わる専門機関	指定テキストの第８章を読んで理解を深める。	4
14　社会的養護とソーシャルワーク	指定テキストの第９章を読んで理解を深める。	4
15　施設の運営管理	指定テキストの第10章を読んで理解を深める。	4

〔学習上の留意点・準備等〕
必ず指定テキストを持参しノートを取る。配布資料を読む。

〔成績評価方法と評価基準〕
定期試験（70%）、小テスト（30%）

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
小テストを添削して返却する。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	2BK02	２年次 後　期	講　義	２	久保田真規子	『エピソード保育者論』㈱みらい
科目名	保育者論		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (3) (5) (6) (7) (9) (12)

〔授業の概要〕
1．教職の意義、保育者の役割、職務内容を理解し、保育者の専門性と、自分が目指す保育者像を具体的に描く。
2．映像・事例・新聞記事などの関連資料による現代社会の変化と課題を見つめ、保育者の役割を理解する。
幼稚園（元園長）・子育て支援施設職員の勤務経験を有する教員が授業を担当する。

〔授業科目の到達目標〕
・教職の意義・保育者の役割、職務内容を理解し専門的知識を身につける。
・現代社会における教育・保育の動向を理解し、保育者に求められる役割と資質・能力を理解する。
・こどもの発達を理解し養護、教育を含めた保育者の職務の全体像を具体的にイメージできる。
・園内外の専門家との連携、保護者理解を深め、自己研鑽する大切さを学ぶ。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　ガイダンス「保育者になる」ということ	予習：テキスト･実習生としての心構えを理解する。 復習：実習の留意点を理解し実行する。	4
2　教職の意義・保育者の役割、職務内容を理解	予習：テキストを読む。 復習：ノートをまとめる。	4
3　幼稚園教育要領改訂・保育所保育指針改定の方向性と保育者の存在意義	予習：テキストを読む。 復習：ノートをまとめる。	4
4　保育者の仕事、役割、職務内容(チームで保育をすること)を理解する	予習：テキストを読む。 復習：ノートをまとめる。	4
5　保育者に求められる資質（1） 子どもの思い、育ちを理解する	予習：テキストを読む。 復習：ノートをまとめる。	4
6　保育者に求められる資質（2） 保育者自身に期待される役割	予習：テキストを読む。 復習：ノートをまとめる。	4
7　保育者に求められる資質（3） 文化、自然、安全への広い視野をもつこと	予習：テキストを読む。 復習：ノートをまとめる。	4
8　社会の変化と保育者の課題（1） 保育者と家庭との信頼関係をつくるとは	予習：連絡帳の書き方について事前学習する 復習：実際に所定の書式で記述する	4
9　社会の変化と保育者の課題（2） 現代社会の変化とＩＣＴ活用の保育	予習：配布資料を参考に現代社会の課題を理解する。 復習：新聞記事を読む。	4
10　社会の変化と保育者の課題（3） 子どもの育ちの危機と子育て支援	予習：テキストを読む。 復習：ノートをまとめる。	4

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　保育者の専門性を考える（1） 職務内容、研修、権利への基本的理解	予習：テキストを読む。	4
	復習：ノートをまとめる。	
12　保育者の専門性を考える（2） 保育者の倫理	予習：保育者の倫理綱領について読み込む	4
	復習：ノートをまとめる。	
13　さまざまな保育実践と自分がめざす保育① （学びあう保育者として）	予習：保育実践者からのメッセージと社会人としての心構えについて学ぶ	4
	復習：ノートまとめ・整理し提出をする。	
14　さまざまな保育実践と自分がめざす保育② （保育者の専門性の発達）	予習：テキストを読む。	4
	復習：感想を提出する。	
15　保育者・社会人へのメッセージ（まとめ）	予習：保育者として求められるキーワードをまとめる。	4
	復習：保育者の専門性のキーワードをまとめる。	

〔学習上の留意点・準備等〕

講義形式で適時参考資料を配布する。課題・演習の要素も含むため主体的態度で臨むこと。

〔成績評価方法と評価基準〕

定期試験60％・レポート40％

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕

授業時に出される課題を、実践事例として取り上げ、自身で考察をする。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	1CK01	１年次 後　期	講　義	２	稲場　　健	乳幼児発達心理学 （繁田進監修）福村出版
科目名	保育の心理学Ⅰ （保育の心理学）		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (9) (10) (11)

〔授業の概要〕
人間の心理は年齢と共にさまざまな発達、変化が生じる。特に乳幼児期は最も変化の著しい時期であり、その後の発達の基礎が築かれる時期である。講義では心理学の知識を基にさまざまな観点から多面的に乳幼児の心理、発達の特徴を学ぶ。保育、幼児教育の現場での相談・援助経験がある臨床心理士、公認心理師の教員が担当する。

〔授業科目の到達目標〕
1　保育実践に関わる心理学の知識を習得する。
2　発達段階ごとの子どもの発達状況を理解する。
3　保育における発達援助、幼児理解を学ぶ。

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　発達のしくみ・・・発達心理学とは	予習：テキストの序文・目次を読んでくること 復習：授業内容をふり返り、テキストのp3～p4、p10～15を読み返す	4
2　発達の様相・・・年齢ごとの発達の様相	予習：テキストの第1章を読んでくること 復習：授業内容をふり返りテキストの第1章を読み返す	4
3　自分をとりまく世界の認識１・・・認知の発達	予習：テキストの第2章を読んでくること 復習：授業内容をふり返りテキストの第2章を読み返す	4
4　自分をとりまく世界の認識２・・・思考の発達	予習：テキストの第2章を読んでくること 復習：授業内容をふり返りテキストの第2章を読み返す	4
5　自分をとりまく人々との関わり ・・・愛着関係の発達	予習：テキストの第3章を読んでくること 復習：授業内容をふり返りテキストの第3章を読み返す	4
6　自分を知る・・・自己の発達	予習：テキストの第4章を読んでくること 復習：授業内容をふり返りテキストの第4章を読み返す	4
7　豊かな内的世界１・・・乳児期の情緒発達	予習：テキスト第5章を読んでくること 復習：授業内容をふり返りテキストの第5章を読み返す	4
8　豊かな内的世界２・・・幼児期の情緒発達	予習：テキスト第5章を読んでくること 復習：授業内容をふり返りテキストの第5章を読み返す	4
9　ことばとコミニュケーションの発達	予習：テキスト第6章を読んでくること 復習：授業内容をふり返りテキストの第6章を読み返す	4
10　遊びの発達と友達関係	予習：テキスト第7章を読んでくること 復習：授業内容をふり返りテキストの第7章を読み返す	4

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　社会的認知と社会的行動の発達	予習：テキスト第8章を読んでくること 復習：授業内容をふり返りテキストの第8章を読み返す	4
12　乳幼児保育と発達	予習：テキスト第9章を読んでくること 復習：授業内容をふり返りテキストの第9章を読み返す	4
13　さまざまな発達の障害① ～発達の障害とは、精神機能の発達の障害～	予習：テキスト第10章を読んでくること 復習：授業内容をふり返りテキストの第10章を読み返す	4
14　さまざまな発達の障害② ～身体的障害、ことばの障害など～	予習：テキスト第10章を読んでくること 復習：授業内容をふり返りテキストの第11章を読み返す	4
15　まとめ	予習：前回に配布した資料を読んでくること 復習：授業内容をふり返り配布資料を読み返す	4

〔学習上の留意点・準備等〕

・随時プリントを配布し理解を補足する。

・ノートを２冊用意すること（様式、形式は自由）。ノートの用途については初回の授業時に説明する。なお、ノートは提出を求めることがあるので、毎回持参すること。

〔成績評価方法と評価基準〕

・講義時における小テスト40%、レポート60%。

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕

・毎回、質問タイムを設け、質問に応じる。小テストは、講義内で振り返り及び解説を行い、疑問点、質問点についてコメントする。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	2CK02	２年次 後　期	講　義	２	稲場　　健	新基本保育シリーズ９ 「子ども家庭支援の心理学」（中央法規出版）、監修・児童育成協会、編集・白川佳子・福丸由佳
科目名	子ども家庭支援の心理学		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
（1）（2）（9）（10）（11）

〔授業の概要〕
受精の瞬間から死に至るまで、人間は生涯にわたって発達する。この授業では、初期経験の重要性や発達課題等に焦点を当てながら、生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を学んでいく。また、子どもの発達を支える家族・家庭の意義や機能、現代の社会的状況を学び、子どもと家族・家庭を包括的に捉える視点の習得を図る。そして、親子関係や家族関係について発達的な視点から理解できるよう、目指していく。他にも、子どもの健康に関わる問題について学ぶことを通して、子どもの精神保健に関する基礎的な知識の習得を図る。保育、幼児教育の現場での相談・援助経験がある臨床心理士、公認心理師の教員が授業を担当する。

〔授業科目の到達目標〕
・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。
・家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
・子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。
・子どもの精神保健とその課題について理解する。

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　生涯発達①乳児期の発達	予習：シラバスを読み、授業の展開を把握してくる。 復習：テキスト第1講を読み返す。	4
2　生涯発達②幼児期の発達	予習：テキスト第2講を読んでくる。 復習：前回の小テストの振り返りを行う。	4
3　生涯発達③学童期の発達	予習：テキスト第3講を読んでくる。 復習：前回の小テストの振り返りを行う。	4
4　生涯発達④青年期の発達	予習：テキスト第4講を読んでくる。 復習：前回の小テストの振り返りを行う。	4
5　生涯発達⑤成人期・中年期の発達	予習：テキスト第5講を読んでくる。 復習：前回の小テストの振り返りを行う。	4
6　生涯発達⑥高齢期の発達	予習：テキスト第6講を読んでくる。 復習：前回の小テストの振り返りを行う。	4
7　家族・家庭の意義と機能	予習：テキスト第7講を読んでくる。 復習：前回の小テストの振り返りを行う。	4
8　家族関係・親子関係の理解	予習：テキスト第8講を読んでくる。 復習：前回の小テストの振り返りを行う。	4
9　子育ての経験と親としての育ち	予習：テキスト第9講を読んでくる。 復習：前回の小テストの振り返りを行う。	4

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
10　子育てを取り巻く社会的状況	予習：テキスト第10講を読んでくる。	4
	復習：前回の小テストの振り返りを行う。	
11　ライフコースと仕事・子育て	予習：テキスト第11講を読んでくる。	4
	復習：前回の小テストの振り返りを行う。	
12　多様な家庭とその理解	予習：テキスト第12講を読んでくる。	4
	復習：前回の小テストの振り返りを行う。	
13　特別な配慮を要する家庭	予習：テキスト第13講を読んでくる。	4
	復習：前回の小テストの振り返りを行う。	
14　子どもの生活・生育環境とその影響	予習：テキスト第14講を読んでくる。	4
	復習：前回の小テストの振り返りを行う。	
15　子どものこころの健康に関わる問題	予習：テキスト第15講を読んでくる。	4
	復習：今までの学習内容の整理、振り返りを行う。	

〔学習上の留意点・準備等〕

・随時プリントを配布し理解を補足する。

・ノートを２冊用意すること（様式、形式は自由）。ノートの用途については初回の授業時に説明する。なお、ノートは提出を求めることがあるので、毎回持参すること。

〔成績評価方法と評価基準〕

小テスト40%、レポート60%。

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕

毎回、質問タイムを設け、質問に応じる。小テストは授業内で振り返り及び解説を行い、疑問点、質問点についてコメントする。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	2CE03	２年次 前　期	演　習	1	佐々木宏之	授業中に適宜資料を配布する
科目名	保育の心理学Ⅱ （子どもの理解と援助）		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
（1）（2）（8）（9）（10）（11）（12）

〔授業の概要〕
本授業では、保育の心理学Ⅰで学んだ乳幼児心理の知識と実習で得た経験を振り返りながら、子どもの心身の発達について事例を通して理解を深めるとともに、発達援助や相談支援のあり方について実践的に学ぶ。グループワークにより調査やディスカッションを行い、保育現場で必要となる多面的に把握する視点を身につける。

〔授業科目の到達目標〕
1　子どもの心身の発達について理解する。
2　発達援助や相談支援を身につける。
3　保育現場で求められる子どもを多面的に把握する視点や、意見交換や情報収集のスキルを身につける。

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　子ども理解と援助の基礎	予習：保育の心理学Ⅰのテキストの関連個所を読み返す。 復習：授業内容を振り返り、配布資料を読み返す。	1
2　子どもの発達の捉え方	予習：保育の心理学Ⅰのテキストの関連個所を読み返す。 復習：授業内容を振り返り、配布資料を読み返す。	1
3　保育現場のカウンセリングマインド	予習：保育の心理学Ⅰのテキストの関連個所を読み返す。 復習：授業内容を振り返り、配布資料を読み返す。	1
4　自己の発達の理解と援助－実習の振り返り （ディスカッション、プレゼンテーション）	予習：保育の心理学Ⅰのテキストの関連個所を読み返す。 復習：授業内容を振り返り、配布資料を読み返す。	1
5　自己の発達の理解と援助－発達を促す絵本選び （グループワーク、プレゼンテーション）	予習：保育の心理学Ⅰのテキストの関連個所を読み返す。 復習：授業内容を振り返り、配布資料を読み返す。	1
6　自己の発達の理解と援助－発達を促す活動の提案 （グループワーク、プレゼンテーション）	予習：保育の心理学Ⅰのテキストの関連個所を読み返す。 復習：授業内容を振り返り、配布資料を読み返す。	1
7　認知発達の理解と援助－実習の振り返り （ディスカッション、プレゼンテーション）	予習：保育の心理学Ⅰのテキストの関連個所を読み返す。 復習：授業内容を振り返り、配布資料を読み返す。	1
8　認知発達の理解と援助－発達を促す絵本選び （グループワーク、プレゼンテーション）	予習：保育の心理学Ⅰのテキストの関連個所を読み返す。 復習：授業内容を振り返り、配布資料を読み返す。	1
9　認知発達の理解と援助－発達を促す活動の提案 （グループワーク、プレゼンテーション）	予習：保育の心理学Ⅰのテキストの関連個所を読み返す。 復習：授業内容を振り返り、配布資料を読み返す。	1
10　情緒発達の理解と援助－実習の振り返り （ディスカッション、プレゼンテーション）	予習：保育の心理学Ⅰのテキストの関連個所を読み返す。 復習：授業内容を振り返り、配布資料を読み返す。	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　情緒発達の理解と援助－発達を促す絵本選び（グループワーク、プレゼンテーション）	予習：保育の心理学Ⅰのテキストの関連個所を読み返す。 復習：授業内容を振り返り、配布資料を読み返す。	1
12　認知発達の理解と援助－発達を促す活動の提案（グループワーク、プレゼンテーション）	予習：保育の心理学Ⅰのテキストの関連個所を読み返す。 復習：授業内容を振り返り、配布資料を読み返す。	1
13　子どもの発達障害の理解（ディスカッション、プレゼンテーション）	予習：保育の心理学Ⅰのテキストの関連個所を読み返す。 復習：授業内容を振り返り、配布資料を読み返す。	1
14　子どもの発達障害の援助	予習：保育の心理学Ⅰのテキストの関連個所を読み返す。 復習：授業内容を振り返り、配布資料を読み返す。	1
15　育児不安・虐待の理解と援助	予習：保育の心理学Ⅰのテキストの関連個所を読み返す。 復習：授業内容を振り返り、配布資料を読み返す。	1

〔学習上の留意点・準備等〕

随時資料を配布し、理解を補足する。講義時に適宜参考文献を紹介する。

〔成績評価方法と評価基準〕

グループワーク（20%）、授業内課題（80%）

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕

授業内課題の提出内容を抜粋して取り上げる。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	1CK04	1年次 前　期	講　義	2	忰田真紀子	子どもの保健 中根淳子／佐藤直子 編著2,200円(ななみ書房) 適宜資料配布
科目名	子どもの保健		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(7) (4) (5)

〔授業の概要〕
子どもの保健は胎生期から始まり、すべての生まれてきた子どもは、健やかに育つ権利を有する。子どもの健全な発育を支援し、健康増進を図るために、発育・発達を理解し、健康状態の把握・評価を行い、阻害する恐れのある疾患や健康に関する現状や課題を理解し、適切な対応や予防策が講じられるように学習する。
地方自治体の保健衛生業務の経験を有する教員が授業を担当する。

〔授業科目の到達目標〕
1．子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
2．子どもの身体的な発育・発達と保険について理解する。
3．子どもの心身の健康状態とその把握方法について理解する。
4．子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　子どもの健康と保健の意義 子どもの定義、健康の概念、子どもに関する保健行政のあゆみ	予習：シラバスを読み、概要、目標、内容などを把握しておく。 復習：教科書P９～13と資料の見直し。	4
2　現代社会における子どもの健康に関する現状と課題と児童虐待防止	予習：資料、教科書P13～16を読んで理解を深める。 復習：虐待の現状、早期発見と防止にどう関わるのかを整理しておく。	4
3　子どもの発育と発達（1） 身体発育と評価について	予習：配布資料、教科書P19～29を読み、理解を深める。 復習：発育の経過と評価の方法を理解しておく。	4
4　子どもの発育・発達（2） 生理機能・感覚機能の発達について	予習：配布資料、教科書P30～38を読み理解を深める。 復習：生理機能・感覚機能の発達について整理し、見直しておく。	4
5　子どもの発育・発達（3） 運動の発達と評価について	予習：配布資料、教科書P38を読み理解を深める。 復習：発達の原則、原始反射との関連性、観察ポイントと発達の経過を理解する。	4
6　子どもの発育・発達と保健（4） 精神機能の発達と評価について	予習：配布資料を読み理解を深める。 復習：情緒、言語、社会性の発達と発達の評価の方法を理解する。	4
7　子どもの発育・発達と保健（5） 子どもの食と栄養について	予習：配布資料、教科書P45～46を読み理解を深める。 復習：乳汁栄養・離乳食・幼児食への保健的配慮を見直しておく。	4
8　健康状態の把握（1） 健康診断、健康観察、一般状態と体温・脈拍・呼吸の観察のついて	予習：配布資料、教科書P59～62を読み理解を深める。 復習：健康観察のポイントを見直しておく。	4
9　健康状態の把握（2） 身体測定の方法と成長曲線による評価と保護者との情報共有について	予習：配布資料、教科書P64～69を読み理解を深める。 復習：測定方法の実際、パーセントタイル値（成長曲線）・カウプ指数等の評価を理解する。	4
10　子どもの疾病の予防と適切な対応（1） 子どもの病気の特徴、感染症について	予習：配布資料、教科書P73～84を読み理解を深める。 復習：授業内容を見直し、整理しておく。	4

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　子どもの疾病の予防と適切な対応（2） 免疫・アレルギー、消化器疾患について	予習：配布資料、教科書P84～90を読み理解を深める。 復習：授業内容を見直し、整理しておく。	4
12　子どもの疾病の予防と適切な対応（3） 循環器、血液系、内分泌・代謝性疾患について	予習：配布資料、教科書P90～97を読み理解を深める。 復習：授業内容を見直し、整理しておく。	4
13　子どもの疾病の予防と適切な対応（4） 神経系、腎・泌尿器、先天性疾患について	予習：配布資料、教科書P90～98を読み理解を深める。 復習：授業内容を見直し、整理しておく。	4
14　子どもの疾病の予防と適切な対応（5） 感染症法、学校保健安全法で定める疾患と予防について	予習：配布資料を読み理解を深める。 復習：学校保健安全法による予防対策を見直しておく。	4
15　子どもの疾病の予防と適切な対応（6） 予防接種と子どもの疾病に対する国の対応について	予習：配布資料を読み理解を深める。 復習：授業内容を見直し、予防接種について整理しておく。	4

〔学習上の留意点・準備等〕

限られた時間内で、専門用語も多々ある中で多くのことを学ぶので、前もって予習をしておくことが望ましい。復習は教科書、配布資料を活用する。

〔成績評価方法と評価基準〕

授業態度、定期試験で評価する。

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕

授業中の課題等について添削をして返却する。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	2CE05	２年次 前　期	演　習 担当形態 単　独	1	竹中　僚子	子どもの食生活（第５版） －栄養・食育・保育－ 上田玲子 編著　ななみ書房
科目名	子どもの食と栄養Ⅰ					

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (3) (4) (8) (9)

〔授業の概要〕
健康な食生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本知識を学び、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。
食育の基本とその内容を理解し、地域社会・文化との関わりの中での保育者の役割について理解する。

〔授業科目の到達目標〕
・栄養、食生活の基本を理解し、説明できる。
・子どもの発達に応じた栄養学の意義と食生活の果たす役割を理解し、説明できる。
・現代の子どもの食の状況と課題について知り、対処するための知識を習得する。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　オリエンテーション 食物アレルギー　　（ビデオ視聴）	予習：シラバスを読み授業の展開を把握する 復習：テキスト第8章p. 152～156を読んでくる	1
2　子どもの心身の健康と食生活 子どもの食生活の現状と課題	予習：テキスト第1章p. 11～19を読んでくる 復習：プリントの内容、練習問題を復習する	1
3　子どもの発育・発達と食生活 食べることに関わる臓器とその作用	予習：テキスト第2章p. 21～34を読んでくる 復習：プリントの内容、練習問題を復習する	1
4　栄養と食事の基礎知識 ①栄養の意味と栄養素種類、体内での役割	予習：テキスト第3章p. 35～41を読んでくる 復習：プリントの内容、練習問題を復習する	1
5　栄養と食事の基礎知識 ②糖質の種類、機能、子どもの体内での役割	予習：テキスト第3章p. 41～43を読んでくる 復習：プリントの内容、練習問題を復習する	1
6　栄養と食事の基礎知識 ③脂質の種類、機能、子どもの体内での役割	予習：テキスト第3章p. 43～45を読んでくる 復習：プリントの内容、練習問題を復習する	1
7　栄養と食事の基礎知識 ④たんぱく質の種類､機能､子どもの体内での役割	予習：テキスト第3章p. 45～47を読んでくる 復習：プリントの内容、練習問題を復習する	1
8　栄養と食事の基礎知識 ⑤無機質の種類、機能、子どもの体内での役割	予習：テキスト第3章p. 48を読んでくる 復習：プリントの内容、練習問題を復習する	1
9　栄養と食事の基礎知識 ⑥ビタミンの種類､機能､子どもの体内での役割	予習：テキスト第3章p. 47を読んでくる 復習：プリントの内容、練習問題を復習する	1
10　栄養と食事の基礎知識 ⑦食事摂取基準、エネルギー代謝	予習：テキスト第3章p. 40とp. 50～61を読んでくる 復習：プリントの内容、練習問題を復習する	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　成長段階別に見た栄養と食生活 ①乳児期の栄養と食生活	予習：テキスト第4章p. 73～88を読んでくる	1
	復習：プリントの内容、練習問題を復習する	
12　成長段階別に見た栄養と食生活 ②離乳期栄養	予習：テキスト第4章p. 89～103を読んでくる	1
	復習：プリントの内容、練習問題を復習する	
13　成長段階別に見た栄養と食生活 ③幼児期の栄養と食生活の特性	予習：テキスト第4章p.105～112とp.117を読んでくる	1
	復習：プリントの内容、練習問題を復習する	
14　成長段階別に見た栄養と食生活 ④気になる食事行動､食生活における問題と対応	予習：テキスト第4章p. 113～117を読んでくる	1
	復習：プリントの内容、練習問題を復習する	
15　前期のまとめ	予習：全配布プリントの整理、内容を理解してくる	1
	復習：各項目の設問について復習する	

〔学習上の留意点・準備等〕
配布プリントの整理、復習を行ない授業内容の理解を深める。

〔成績評価方法と評価基準〕
プリント復習レポート（80%）　レポート（20%）

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
毎時間の練習問題は解答し説明する。提出されたレポートは個別に添削指導する。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	2CE06	２年次 後　期	演　習 担当形態 単　独	1	竹中　僚子	子どもの食生活（第５版） －栄養・食育・保育－ 上田玲子 編著　ななみ書房
科目名	子どもの食と栄養Ⅱ					

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (3) (4) (8) (9)

〔授業の概要〕
子どもの発育発達に応じた食材選択、調理方法、献立作成、安全管理を実践し体験することにより、前期で学んだ「子どものための食生活」の知識を確かなものにする。さらに実習を通して保育現場での様々な取り組みを学び、その中での保育者の「食」に関わる役割を理解する。

〔授業科目の到達目標〕
・子どもの発育発達に応じた食事提供の方法を調理実習で習得し、実践する力を身に付ける。
・食事中の事故発生の防止、対処法を調理実習で習得し、実践する力を身に付ける。
・献立作成、食事指導を習得し、実践する力を身に付ける。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　調理実習オリエンテーション No1　かつお節出汁の取り方	予習：予定表、衛生管理のプリントを読んでくる	1
	復習：資料プリントで復習する	
2　基礎調理1　子どもの発育・発達に応じた食事 No2 さつまいもご飯・みそ汁・だし巻き卵 3　(和風出汁の取り方、使い方を学ぼう)	予習：レシピプリントを読んで実習の手順を理解してくる	1
	復習：資料プリントで復習する	1
4　基礎調理2　子どもの発育・発達に応じた食事 No3 コンソメスープ・肉のピカタ 5　(洋風スープの取り方､肉の調理方法を学ぼう)	予習：レシピプリントを読んで実習の手順を理解してくる	1
	復習：資料プリントで復習する	1
6　幼児期の食事1　子どもの偏食 No4 ムニエル、人参ポタージュスープ 7　(魚、野菜嫌いを改善する方法を考えよう)	予習：レシピプリントを読んで実習の手順を理解してくる	1
	復習：資料プリントで復習する	1
8　乳児期の食事　発育・発達に応じた離乳食 No5 おかゆ・かぼちゃの煮物・クリーム煮等 9　(離乳初期､離乳中期の食事の作り方を学ぼう)	予習：レシピプリントを読んで実習の手順を理解してくる	1
	復習：資料プリントで復習する	1
10　幼児期の食事2　子どもの咀嚼力 No6　変わりご飯･けんちん汁･青菜のごま和え 11　(食材の選択、野菜の切り方を学ぼう)	予習：レシピプリントを読んで実習の手順を理解してくる	1
	復習：資料プリントで復習する	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
12　幼児期の食事3　間食作り No7　じゃがいも餅・豆腐白玉・果汁寒天 13　（間食の役割、食物アレルギー対策） （誤嚥・誤飲事故対策を学ぼう）	予習：レシピプリントを読んで実習の手順を理解してくる	1
	復習：資料プリントで復習する	1
14　幼児期の食事の献立作成 （保育施設での昼食、おやつの献立を考える） 15　（保育施設での食事指導の手順を考える）	予習：テキスト第9章p. 167～181 テキスト第10章p. 183～208を読んでくる	1
	復習：課題プリントに記入した献立、指導方法を復習する	1

〔学習上の留意点・準備等〕

実習前に実習プリント、実習後に学習内容をまとめた資料プリントを配布し毎回の課題を理解する。
身支度、実習室を整えることで衛生管理について理解する。

〔成績評価方法と評価基準〕

定期試験（70%）　レポート（30%）

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕

毎時間、実習後に実習プリント、資料プリントの重要ポイントの確認を行う。
レポート課題に対する個別指導を行う。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	2DK01	２年次 前　期	講　義	２	白井智佳子	幼稚園教育要領解説(H30年版･文部科学省)・随時講義内容資料を配布
科目名	カリキュラム論 (保育の計画と評価)		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (3) (4) (5) (8) (9) (10) (11) (12) (13)

〔授業の概要〕
・元幼稚園教諭･園長経験を活かし、園運営･保育実践の具体例を示す。また、学生自ら保育・教育ビジョンを作成することを通し、全体的計画、カリキュラム・マネジメントについて具体的に指導を行う。
・カリキュラムを実践していく保育士・幼稚園教諭としての資質能力向上を目指し、具体的な保育実践例を読み解き、幼児教育の理解を深める授業を行う。

〔授業科目の到達目標〕
・保育所・幼稚園・認定こども園の運営には、カリキュラム・マネジメントが必要であることを理解する。
・保育所・幼稚園・認定こども園の役割の重要性を理解する。
・カリキュラム・マネジメントにおける教育的意義を知り、幼児教育の重要性を理解する。
・保育・教育ビジョン作成のグループワーク、発表を通し、保育士・幼稚園教諭としての知識・実践力・責任ある態度を身に付ける。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　オリエンテーション・保育園、幼稚園の役割 (法令の理解・幼稚園教育要領の改訂の理解)	予習：シラバスを読む。テキスト総則を読む 復習：配布資料を再読し、理解を深める。	4
2　幼児教育の意味と重要性	予習：テキスト第1章の前半を読む。 復習：配布資料を再読し、理解を深める。	4
3　幼児教育の保育課程・指導計画の基本	予習：テキスト第1章の後半を読む。 復習：配布資料を再読し、理解を深める。	4
4　幼児教育の総合的教育の意味と実際 (健康領域の視点から深める)	予習：テキスト第2章の健康領域を読む。 復習：配布資料を再読し、理解を深める。	4
5　幼児教育の総合的教育の意味と実際 (言葉・表現領域の視点から深める)	予習：テキスト第2章の言葉領域を読む。 復習：配布資料を再読し、理解を深める。	4
6　幼児教育の総合的教育の意味と実際 (年長児劇表現から深める)	予習：テキスト第2章の表現領域を読む。 復習：年長児劇から学んだことをまとめる。	4
7　幼児教育の総合的教育の意味と実際 (年少児劇表現から深める)	予習：子ども主体の劇とは何かを考える。 復習：年少児劇から学んだことをまとめる。	4
8　幼児教育の総合的教育の意味と実際 (環境領域からせまる)	予習：テキスト第2章の環境領域を読む。 復習：配布資料を再読し、理解を深める。	4
9　幼児教育の総合的教育の意味と実際 (人間関係領域からせまる)	予習：テキスト第2章の人間関係領域を読む。 復習：配布資料を再読し、理解を深める。	4
10　環境を通して行う教育とは	予習：テキスト総則を再読する。 復習：配布資料を再読し、理解を深める。	4

保育・教育ビジョン作成
(グループワーク)

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　幼児における協同体験の重要性	予習：テキストから、協同体験の意味を読み取る。 復習：配布資料を再読し、理解を深める。	4
12　幼児教育と小学校教育の接続計画と実際	予習：学生が体験した幼小の連携体験を書き出す 復習：配布資料を再読し、理解を深める。	4
13　保護者連携・地域連携の計画と実際	予習：学生が体験した地域連携を書き出す。 復習：配布資料を再読し、理解を深める。	4
14　カリキュラムマネジメントのまとめと実際	予習：テキスト第3章を読む。 復習：配布資料を再読し、理解を深める。	4
15　保育・教育ビジョン作成の発表と意見交換（プレゼンテーション）	予習：グループで発表打ち合わせをする。 復習：振り返りをする。	4

保育・教育ビジョン作成（グループワーク）

〔学習上の留意点・準備等〕
・講義内容に即した保育現場の実際写真・動画を活用し、学生の理解を深める。
・講義内容をわかりやすくまとめた資料を準備し、学生自身の振り返りに役立つようにする。
・保育・教育ビジョン作成における具体的な視点を示す。

〔成績評価方法と評価基準〕
・課題（レポート）30%　・グループワークにおける取り組み姿勢20%　・定期試験50%

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
・小レポートを添削し返却する。必要に応じて学生に紹介する。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	1DE02	1年次 前　期	演　習	1	永井裕紀子	幼稚園教育要領解説（文部科学省） 保育所保育指針(厚生労働省編) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 （内閣府･文部科学省･厚生労働省）
科目名	保育内容総論Ⅰ		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (9)

〔授業の概要〕
幼児教育は、園生活全体を通して総合的に指導するという教育の基本を理解するとともに、子どもが園での遊びや活動を通じて何を経験しているのか。保育者はどのような意図をもって子どもが遊び活動する環境を構成し、人的環境としてどう子どもと関わっているのかについて学ぶ。また、５領域のねらいと内容とのつながりを認識しながら、子どもが各発達段階における遊びや活動の積み重ねの中で「幼児の終わりまでに育ってほしい姿」に近づいていくことを理解する。

〔授業科目の到達目標〕
幼稚園教育の基本・各領域のねらい及び内容と保育内容の全体構造を理解する。
子どもが経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。
保育の基本を含めた保育内容の多様な展開について学ぶ。
保育内容の歴史的変遷について理解する。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　幼児教育・保育の基本について	幼稚園教育要領解説ｐｐ2－27を読み理解する。	1
2　子どもの育ちと遊び （VTR視聴・グループワーク）	幼稚園教育要領解説ｐｐ28－44を読み理解する。	1
3　子どもの育ちと遊びと環境構成･保育者の役割	幼稚園教育要領解説ｐｐ248－259を読み理解する。	1
4　「幼稚園教育要領」等における保育内容の捉え方	幼稚園教育要領解説ｐｐ45－49を読み理解する。	1
5　子ども理解と評価の考え方	幼稚園教育要領解説ｐｐ50－53を読み理解する。	1
6　指導計画案の作成の理解	テキストを読み理解する。	1
7　遊びや生活を通して学ぶということ	テキストを読み理解する。	1
8　養護と教育が一体的に展開する保育	テキストを読み理解する。	1
9　子どもの主体性を尊重する保育	テキストを読み理解する。	1
10　環境を通して行う保育	テキストを読み理解する。	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　個と集団の育ちを支える保育 保育内容の歴史概観	テキストを読み理解する。	1
12　家庭や地域との連携をふまえた保育	テキストを読み理解する。	1
13　小学校との接続をふまえた保育 保育の多様な展開	テキストを読み理解する。	1
14　指導計画案に基づく保育の実践（模擬保育）	遊びの構想を考える。	1
15　実践の振り返り（評価・改善）グループ討議	グループ討議を通しての気づきをまとめる。	1

〔学習上の留意点・準備等〕

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は、解説とともに家庭学習において目を通しておくこと。

〔成績評価方法と評価基準〕

授業態度・提出物（10%）・模擬保育実践（50%）・筆記試験（40%）から評価する。

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕

個別または各授業の最後に行う。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	1DE03	1年次 後　期	演　習 担当形態 単　独	1	渡邉　彩	秋田喜代美らⅡ子どもの姿からはじめる領域・健康Ⅱみらい　2020年
科目名	健康指導法					

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (3) (4) (5) (8) (9) (10) (11) (12) (13)

〔授業の概要〕
本授業では、幼稚園教育要領の領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身に付けることを目指す。さらに、乳幼児期の健康にかかわる生活習慣、心身の発育・発達、運動発達の特徴についての理解を深め、適切な指導方法を身に付けることを目指すものである。

〔授業科目の到達目標〕
・幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解する。
・幼児の発達・学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　保育における「健康」とは	シラバスの確認及び講義資料を読み、理解を深める。	1
2　基本的生活習慣の形成を支える援助	講義資料を読み、理解を深める。	1
3　健康管理と安全能力を育む援助	講義資料を読み、理解を深める。	1
4　健康な心と体を育む保育の構想（計画立案1)	講義資料を基に、保育計画を立案する。	1
5　健康な心と体を育む保育の構想（教材研究1)	保育計画・参考資料を基に教材研究を行う。	1
6　健康な心と体を育む保育の構想（模擬保育1)	模擬保育を観察・評価して文章にまとめる。	1
7　健康な心と体を育む保育の評価と改善1	実践した保育計画を見直す。	1
8　多様な動きの経験を促す援助	講義資料を読み、理解を深める。	1
9　領域「健康」における心身の発達の特徴をふまえた環境構成と援助	講義資料を読み、理解を深める。	1
10　健康な心と体を育む保育の構想（計画立案2)	講義資料を基に、保育計画を立案する。	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　健康な心と体を育む保育の構想（教材研究2）	保育計画・参考資料を基に教材研究を行う。	1
12　健康な心と体を育む保育の構想（模擬保育2）	模擬保育を観察・評価して文章にまとめる。	1
13　健康な心と体を育む保育の評価と改善2	実践した保育計画を見直す。	1
14　幼児期に育まれる健康な心と体と小学校の生活・学習で生かされる力	講義資料を読み、理解を深める。	1
15　領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践	講義資料を読み、理解を深める。	1

〔学習上の留意点・準備等〕
講義時に適宜参考文献を紹介する。

〔成績評価方法と評価基準〕
講義時のコメントシート（20%）、中間レポート（40%）、期末試験（40%）によって評価する。

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
授業時に提出するコメントシートの内容を抜粋し、次回の授業で取り上げ、コメントする。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	1DE04	１年次 後　期	演　習 担当形態 単　独	２	久保田真規子	『人間関係』（田宮緑・萌文書林） 幼稚園教育要領
科目名	人間関係指導法					

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
（1）（2）（5）（6）（8）（9）（11）（12）（13）

〔授業の概要〕
幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、理解を深める。さらに乳幼児の発達を理解し、子どもが、主体的に、対話的に遊びを通して学ぶプロセスを、学生自身が学ぶ。
元幼稚園園長・子育て支援職員の現場経験を踏まえ、具体的な指導場面を想定し、学生が保育者の援助・留意点を踏まえつつ保育を構想する方法を身に付ける。

〔授業科目の到達目標〕
・幼幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。
・幼児の発達を理解し「あそび」を通し、相手を尊重し考え、人として繋がる育ちのプロセスを理解する。
・人間関係の具体的な保育場面を想定し、保育を構想・実践する方法を身に付ける。
・人的環境としての保育者の役割を理解する。

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　幼稚園教育要領の領域「人間関係」のねらいと内容をつかむ	予習：幼稚園教育要領を読む 復習：ノートを整理し事例をまとめる。	1
2　子どもの育ちと人間関係の理解 ～発達段階と人間関係の重要性を知る	予習：テキストを読む。 復習：ノートを整理し事例をまとめる。	1
3　保育者との信頼関係から友達関係へ ～入園期～集団生活への育ち	予習：テキストを読む。 復習：ノートを整理し事例をまとめる。	1
4　自立を育む　援助 （３～５歳児の育ちと環境構成）	予習：テキストを読む。 復習：ノートを整理し事例をまとめる。	1
5　遊びの中で気付く他者の気持ち ～いざこざの場面から～	予習：テキストを読む。 復習：ノートを整理し事例をまとめる。	1
6　幼児期の終わりまでに育って欲しい姿から規範意識を育む教師の視点	予習：テキストを読む。 復習：ノートを整理し事例をまとめる。	1
7　ルールのある遊びの中で学ぶとは ～鬼ごっこ遊び～	予習：鬼ごっこ遊びについてルールを考え実践し考察する。 復習：演習を通して学んだ保育者の配慮をまとめ提出する。	1
8　体と心が育つ ～鬼ごっこ遊び～	予習：テキストを読む。 復習：ノートを整理し事例をまとめる。	1
9　児童文化財を使用した人間関係指導法 （1）作成・演習	予習：指導案の作成 復習：パネルシアター作成・指導案修正	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
10　パネルシアターを介した人間関係指導法 （2）計画・指導計画案立案	予習：指導案の作成	1
	復習：パネルシアター作成・指導案修正	
11　模擬保育・ロールプレイと振り返りの視点	予習：模擬保育実践から応答的な関わりを学ぶ	1
	復習：ノートを整理し事例をまとめる。	
12　保育者の援助と留意点について	予習：テキストを読む。	1
	復習：ノートを整理し事例をまとめる。	
13　多様性の尊重と子ども理解	予習：実践から計画・立案・実践目考察を学ぶ。	1
	復習：ノートを整理し事例をまとめる。	
14　地域・保護者との人間関係	予習：テキストを読む。	1
	復習：ノートを整理し事例をまとめる。	
15　現代における人間関係の特徴と課題 （子ども・おとな）まとめ	予習：現代社会の人間関係の課題について事前に新聞記事等調べる。	1
	復習：人間関係指導法のキーワードをまとめる	

〔学習上の留意点・準備等〕
・配布資料・ノートを整理し、小課題を記述し理解を補足する。
・動きながら遊びを通じて、人間関係のねらいを理解し、指導案の立案・考察する力を身に付ける。

〔成績評価方法と評価基準〕
定期試験（70%）、提出物（20%）、グループワーク参加姿勢態度（10%）

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
・ワークシートを活用し考え、発表し、仲間の考えを聴きコミュニケーション能力を高める。
・動きながら学び、遊びを通した、指導案の立案・実践・考察と課題を取り上げコメントをする。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	2DE05	２年次 後　期	演　習	1	永井裕紀子	事例で学ぶ保育内容領域「環境」無藤隆監修 萌文書林 2,160円/幼稚園教育要領/保育所保育指針/幼保連携型認定こども園教育･保育要領
科目名	環境指導法		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (5) (9)

〔授業の概要〕
保育内容に示された領域「環境」のねらいや内容を理解する。また、事例やVTR視聴を通して子どもが周囲の様々な環境とかかわる姿に触れながら、子どもが体験するものについて考察し、子どもを取り巻く環境の重要性を理解する。さらにディスカッションや模擬保育実践を行いながら、子どもの好奇心や探求心を育て支える保育者の役割について学ぶ。

〔授業科目の到達目標〕
・幼児教育の基本、各領域のねらい及び内容と保育内容の全体構造を理解する。
・領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、子どもが経験し身に付けていく内容と指導上の留意点及び小学校教育とのつながりを理解する。
・子どもの発達や学びの過程を理解し、領域「環境」にかかわる保育を構想し実践する力を身に付ける。
・子どもの好奇心や探求心を育て支える保育者の役割について理解する。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　幼児教育・保育の基本 （幼児期に育みたい資質・能力等）	予習：教科書pp5～7を読んでおくこと。 復習：プリント「幼児教育・保育の展開図」を説明できるようにしておくこと。	1
2　領域「環境」のねらいと内容	予習：教科書pp9～12を読んでおくこと。 復習：子どもと環境のかかわりを理解するためのキーワード(アフォーダンス等)を復習しておくこと。	1
3　子どもの育ちと環境および環境構成	予習：教科書pp23～26を読んでおくこと。 復習：領域「環境」のねらいと内容及び内容の取り扱いを復習しておくこと。	1
4　子どもと自然とのかかわり	予習：教科書pp33～37にある事例を読んでおくこと。 復習：子どもが自然とかかわる中で体験することや学ぶこと。また保育者の役割についてまとめておくこと。	1
5　子どもと動植物とのかかわり（VTR視聴）	予習：教科書pp40～45を読んでおくこと。 復習：子どもたちに命というものをどう伝えていくか自分の意見をまとめておくこと。	1
6　子どもとものや道具とのかかわり	予習：教科書pp55～60にある事例を読んでおくこと。 復習：ものや道具とのかかわりについて、実習で見られた事例と考察をまとめておくこと。	1
7　子どもと数量や図形とのかかわり	予習：教科書pp62～65にある事例を読んでおくこと。 復習：数量や図形とのかかわりについて、実習で見られた事例と考察をまとめておくこと。	1
8　標識や文字とのかかわり	予習：教科書pp70～74にある事例を読んでおくこと。 復習：標識や文字とのかかわりについて、実習で見られた事例と考察をまとめておくこと。	1
9　領域「環境」に関わる遊びの提案 （指導計画案の作成・グループワーク）	予習：子どもに体験してほしい遊びと指導法を考えておくこと。資料があれば用意しておくこと。 復習：指導計画案を完成させること。	1
10　領域「環境」に関わる遊びの実践 第１グループ （模擬保育）	予習：遊びで扱う物・道具についての知識を深めたり、素材を収集したりすること。 復習：実践の課題と気づきを明確にしておくこと。	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　領域「環境」に関わる遊びの実践 第２グループ（模擬保育）	予習：遊びで扱う物・道具についての知識を深めたり、素材を収集したりすること。 復習：実践の課題と気づきを明確にしておくこと。	1
12　領域「環境」に関わる遊びの実践　振り返り（評価・改善）グループ討議	予習：テキストpp108～109を読んでくること。 復習：グループ討議の結果をまとめておくこと。	1
13　子どもの好奇心・探求心を育て支える環境と保育者の役割 －Rのもの作りへの挑戦－（VTR視聴）	予習：テキストpp80～84を読んでくること。 復習：Rの好奇心・探求心を育て支えた環境と保育者のかかわりについてプリントをまとめてくること。	1
14　子どもの好奇心・探求心を育て支える環境と保育者の役割 （グループ討議・発表）	予習：テキストpp99～102を読んでくること。 復習：プリントにグループ討議を通して得た新たな気づきを加筆してくること。	1
15　環境を通した幼児教育の課題・まとめ	予習：テキストpp104～107を読んでくること。 復習：テキストpp104～107を読み復習しておくこと。	1

〔学習上の留意点・準備等〕

実習などで領域「環境」の視点から子どもや保育者の援助を観察した事例をまとめておくとよい。

〔成績評価方法と評価基準〕

授業課題への取り組み状況や態度50％・定期試験50％

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕

課題には翌週の授業で発表する時間を設け、コメントをします。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	1DE06	1年次 前　期	演　習	1	梅田　優子	保育内容「言葉」徳安敦・掘科編　青踏社
科目名	言葉指導法		担当形態			
			単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (9) (11)

〔授業の概要〕
幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における領域「言葉」のねらいや内容の考え方を理解する。そして映像による実際の保育場面等の子どもの姿に触れながら、乳幼児期の子どもの言葉の育ちを捉える視点を身につけ、保育者としての援助のあり方を構想していく。さらに絵本製作体験を通じて絵本についての理解を深めたり、教材（情報機器含む）活用のあり方についての理解を深め、模擬保育場面を構想・実施・評価することで、より適切な保育のあり方を考えていく力を身につける。

〔授業科目の到達目標〕
・乳幼児期の教育・保育の基本と全体構造、領域「言葉」に示される「ねらい」及び「内容」を理解する。
・乳幼児期の言葉の成長発達の側面から子どもを理解していく力を身につける。
・子どもの言葉の発達や学びの過程の理解をもとに、保育者としての具体的な援助のあり方を構想し実践的な力を身につける。

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に示される教育・保育の基本的な考え方	予習：シラバスを読み授業の内容や目標を把握する 復習：教育要領等を見直し理解を深める	1
2　領域「言葉」の「ねらい」及び「内容」	予習：教育要領等の領域「言葉」に目を通す 復習：教育要領等を見直し理解を深める	1
3　乳幼児期の子どもにとっての文化財 －絵本製作－	予習：絵本製作の材料の下準備をする 復習：絵本の中身を期日までに作成する	1
4　言葉の発達を捉える視点と援助の構想（1） －ことばの前のことば－	予習：テキストの指定箇所を読む 復習：テキストの指定箇所を読み更に理解を深める	1
5　言葉の発達を捉える視点と援助の構想（2） －一語のあらわすもの－	予習：テキストの指定箇所を読む 復習：テキストの指定箇所を読み更に理解を深める	1
6　言葉の発達を捉える視点と援助の構想（3） －文法の獲得と質問－	予習：テキストの指定箇所を読む 復習：テキストの指定箇所を読み更に理解を深める	1
7　言葉の発達を捉える視点と援助の構想（4） －会話する力の育ちと楽しさ－	予習：テキストの指定箇所を読む 復習：テキストの指定箇所を読み更に理解を深める	1
8　言葉の発達を捉える視点と援助の構想（5） －言葉と考える力の育ち－	予習：テキストの指定箇所を読む 復習：テキストの指定箇所を読み更に理解を深める	1
9　乳幼児期の言葉の育ちを支える保育者の援助	予習：テキストの指定箇所を読む 復習：テキストの指定箇所を読み更に理解を深める	1
10　模擬保育（絵本の読み聞かせ）	予習：絵本読み聞かせの準備をする 復習：模擬保育を振り返り課題等明確にする	1

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　模擬保育（言葉遊び）	予習：言葉遊びの準備をする	1
	復習：模擬保育を振り返り課題等明確にする	
12　模擬保育（振り返りとまとめ）	予習：模擬保育を振り返る	1
	復習：振り返りを通して今後の課題等明確にする	
13　幼児期の文字への関心の芽生え（読むこと）	予習：配布資料を読む	1
	復習：配布資料に再度目を通し理解を深める	
14　幼児期の文字への関心の芽生え（書くこと）	予習：配布資料を読む	1
	復習：配布資料に再度目を通し理解を深める	
15　幼少接続や教材(情報機器含む)活用のあり方	予習：テキストの指定箇所を読む	1
	復習：テキストの指定箇所を読み更に理解を深める	

〔学習上の留意点・準備等〕
・参考文献として幼稚園教育要領、、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針を使用する。

〔成績評価方法と評価基準〕
・授業課題への取り組み状況（授業内レポート含む）50%、期末レポート50%

〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕
・授業課題に関するレポートを取り上げコメントする。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	1DE07	1年次 前　期	演　習	1	中島　孝子	「表現」中島孝子 他共著 不昧堂出版2,100円
科目名	表現指導法		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (6) (9) (11)

〔授業の概要〕
表現とは何か、日々の何げない行為の中にも子ども達の個性あふれる表現が存在すること認識しつつ、どうやったら伸び伸びとした様々な表現を子ども達から引き出すことができるか、また、いかにしたら幼児の表現活動を活発に生き生きと展開させることができるかを、いくつかの表現課題や演習を行いながら探っていきたい。授業の前半は主として、各種リズム遊びや模倣遊び、リトミック等、リズムに関係する表現に取り組み、後半は、いくつかの表現課題を提示し、課題に取り組み、創作し、発表過程で様々な表現のひき出しを身につける。

〔授業科目の到達目標〕
・リズムに乗って、生き生きとダイナミックに動くことができるようになる。
・自分の感じたことや考えたことを自分なりに恥ずかしがらずに表現できるようになる。
・他者の表現を認めることができるようになる。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　オリエンテーション	予習：シラバスを読み、授業の展開を把握 復習：オリエンテーションの内容を振り返り	1
2　表現とは何か？リズムあそび他	予習：テキストのp9～p12を読んでおくこと 復習：リズム手遊びの振り返り	1
3　リズムに合わせて動こう～リズム体操（前半）	予習：体ほぐしと柔軟をしておく 復習：振りの確認をイメージトレーニングしておく	1
4　リズムに合わせて動こう～リズム体操（後半）	予習：体ほぐしと柔軟をしておく 復習：振りの確認をイメージトレーニングしておく	1
5　リズムに合わせて動こう～リズム体操（隊形づくり）	予習：体ほぐしと柔軟をしておく 復習：振りの確認をイメージトレーニングしておく	1
6　表現課題　山の音楽家たち	予習：テキストp119を読み、「山の音楽家」の歌を歌えるようにしてくる 復習：歌いながら動けるように練習をしておく	1
7　表現課題　山の音楽家たち　発表	予習：別の動物・楽器・鳴き声を考えてくる 復習：課題発表の振り返り	1
8　表現課題　幼児体操を創ろう	予習：テキストp30を読んでおくこと 復習：見本の幼児体操の振り返り	1
9　表現課題　幼児体操を創ろう　発表	予習：オリジナルの構成を考えて来る 復習：課題発表の振り返り	1
10　表現課題　わたしの家族	予習：テキストp78～p79を読んでおくこと 復習：ファミリーの一日について動きの振り返り	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　表現課題　わたしの家族　発表	予習：チームで考えた台本のイメージトレーニングしてくる	1
	復習：課題発表の振り返り	
12　表現課題　雨あめ降れ降れ　発表	予習：雨あめ降れ降れの歌を歌えるようにしてくる	1
	復習：課題発表の振り返り	
13　表現課題　かさこじぞう	予習：「かさこじぞう」のお話を読んでおくこと	1
	復習：課題発表の振り返り	
14　表現課題　素話　発表（前半のグループ）	予習：テキストp124～125を読んでおくこと	1
	復習：課題発表の振り返り	
15　表現課題　素話　発表（後半のグループ）	予習：テキストp126～129を読んでおくこと	1
	復習：課題発表の振り返り	

〔学習上の留意点・準備等〕
グループでの協同作業を通して相互理解を深める。

〔成績評価方法と評価基準〕
授業への取り組み状況や態度50％・表現課題の発表50％

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
授業の振り返りや課題レポートはコメントをつけて返却する。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	1DE08	１年次 通　年	演　習 担当形態 オムニバス	２	斎藤竜夫(前期) 吉田裕子(後期)	幼児のための音楽教育 新・声楽指導教本　教育芸術社
科目名	音楽表現					

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (6) (9) (10) (11)

〔授業の概要〕
さまざまな環境や状況に応じた「子どもとともに楽しむ音楽表現」のあり方を研究する。そのために必要となる音楽と表現の知識・技術（生活の中の音楽表現、歌唱・器楽、音楽聴取、創造的音楽活動）を学び、それを自在に応用する手法を身につける。

〔授業科目の到達目標〕
いろいろな楽曲の理解と的確な表現ができる
明朗な発声で歌を歌うことができる
子どもの音楽的発達と表現を理解する

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　音楽理論１ 音楽の３要素・学園歌について	旋律・律動・和声について理解する	1
2　音楽理論２ 音価と音高	音価・音高を理解し楽譜が読める	1
3　音楽理論３ 拍子	拍子を理解し楽譜が読める	1
4　ソルフェージュ１ リズム・視唱	新声楽指導教本P7～P21の内容を理解・実践する	1
5　ソルフェージュ２ 視唱・ハーモニー	上記P22～P31及びP35を理解・実践する	1
6　発声の基礎１ 理論	上記P36～P39を理解する	1
7　発声の基礎２ 実践	P42～P47を理解・実践する	1
8　音階１ ２、３、５音音階	わらべうたの音階を理解し歌える	1
9　音階２ 長音階と短音階	長音階と短音階を理解する	1
10　調性	子どもの歌でよく使われる調性を理解する	1
11　子どもの歌１ ４～７月	幼児のための音楽教育P31～P66が歌える	1
12　子どもの歌２ ８～11月	上記P59～P98が歌える	1
13　子どもの歌３ 12～３月	上記P99～P132が歌える	1
14　歌唱表現１ 読譜・練習	各自読譜し歌えるように練習する	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
15　歌唱表現２ 実践	全体合唱ができる	1
16　子どもの歌４ 愛唱歌	幼児のための音楽教育P141～P166が歌える	1
17　合唱表現１ 選曲・読譜	選曲した曲の読譜・練習	1
18　合唱表現２ 読譜・練習	正しい発声・音程で歌う	1
19　合唱表現３ パート練習・全体練習	ハーモニーを考慮した練習をする	1
20　合唱表現４ グループ発表	グループ発表の準備・反省	1
21　子どもの発達と音楽表現１ 音楽的成長と発達	幼児のための音楽教育P6～P11を理解する	1
22　子どもの発達と音楽表現２ 音楽的活動について	上記P12～P17を理解する	1
23　子どもと楽器１ 演奏技法	上記P18～P22を理解する	1
24　子どもと楽器２ 手作り楽器	手作り楽器について学び、製作する	1
25　リトミック１ 理論	配布資料を理解する	1
26　リトミック２ 実践	実践の準備・反省	1
27　創作１ 旋律	旋律作法を理解する	1
28　創作２ 和音	和音連結を理解する	1
29　創作３ 発表	グループ発表の準備・反省	1
30　総合演習	理論と実践を多面的に理解する	1

〔学習上の留意点・準備等〕
ソルフェージュ能力は非常に重要である。予習・復習を怠らないこと。

〔成績評価方法と評価基準〕
授業内発表20%　前期試験40%　後期試験40%

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
授業内発表は発表後全体討論を行う。定期試験は結果の内容についてコメントする。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	1DE09	１年次 通　年	演　習 担当形態 複　数	２	斎藤竜夫他	歌唱教材伴奏法 幼児のための音楽教育 教育芸術社
科目名	ピアノ表現Ⅰ					

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(2) (6) (9)

〔授業の概要〕
子どもと音楽表現活動を楽しむために必要なピアノ演奏技法を習得する。ピアノの個人レッスンに加え、グループ授業で弾き歌いのためのコード奏法、コード理解のための音楽理論も同時に学ぶ。
Ⅰ個人レッスン（弾き歌い）
１対１の個人レッスンによってピアノの演奏技術の体得並びに向上を目指す。学生は担当教員と相談した上、進度に合わせてバイエル・ツエルニー・ソナチネ・インヴェンション等を教材として学ぶ。
Ⅱグループワーク（音楽理論）
基本的な音楽理論（楽典）の学習と、それを踏まえてコード理論を学習する。
上記Ⅰ・Ⅱの内容を総合した弾き歌いの実践として、実際の保育現場において需要の高い曲を実習する。１コマ90分を前半と後半に分けて授業を行う。A組は前半個人レッスン･後半はグループワークを行う。B組は前半グループワーク、後半に個人レッスンを行う。

〔授業科目の到達目標〕
・ピアノ演奏技法を習得する
・子どもの歌の弾き歌いができる
・コード奏法を習得する

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　進度に合わせた個人レッスン グループワーク 長音階の理解	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
2　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ハ長調音階の理解	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
3　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ハ長調のⅠ・Ⅴによる和音伴奏（1） （歌唱教材伴奏法p4～5）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
4　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ハ長調のⅠ・Ⅴによる和音伴奏（2） （同上p6～7）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
5　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ハ長調のⅠ・Ⅴによる和音伴奏（3） （同上p8～9）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
6　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ハ長調のⅠ・Ⅴによる和音伴奏（4） （同上p10～12）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
7　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ハ長調のⅠ・Ⅴ・Ⅴ７による伴奏（1） （同上p14～15）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
8　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ト長調のⅠ・Ⅴ・Ⅴ７による伴奏（2） （同上p16～17）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
9　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ト長調のⅠ・Ⅴ・Ⅴ７による伴奏（3） （同上p18～19）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
10　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ト長調のⅠ・Ⅴ・Ⅴ７による伴奏（4） （同上p20～21）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
11　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ８分音符（1）（同上p22～23）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
12　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ８分音符（2）（同上p24～25）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
13　進度に合わせた個人レッスン グループワーク 記譜法（1）大譜表	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
14　進度に合わせた個人レッスン グループワーク 記譜法（2）さまざまなリズム	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
15　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ハ長調の主要３和音	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
16　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ハ長調の固有和音	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
17　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ハ長調のカデンツ	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
18　進度に合わせた個人レッスン グループワーク 指使いについて（1） 指ひろげ（歌唱教材伴奏法p48～49）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
19　進度に合わせた個人レッスン グループワーク 指使いについて（2） 指ひろげ（同上p50～51）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
20　進度に合わせた個人レッスン グループワーク 指使いについて（3） 跳躍と左手の指ひろげ（同上p52～53）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
21　進度に合わせた個人レッスン グループワーク 指使いについて（4） 指かえ（同上p54～55）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
22　進度に合わせた個人レッスン グループワーク 指使いについて（5） 指またぎと指くぐり（同上p56～57）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
23　進度に合わせた個人レッスン グループワーク 子どものうた（1） （幼児のための音楽教育　４・５月）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
24　進度に合わせた個人レッスン グループワーク 子どものうた（2） （同上　６・７月）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
25　進度に合わせた個人レッスン グループワーク 子どものうた（3） （同上　８・９月）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
26　進度に合わせた個人レッスン グループワーク 子どものうた（4） （同上　10・11月）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
27　進度に合わせた個人レッスン グループワーク 子どものうた（5） （同上　11・12月）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
28　進度に合わせた個人レッスン グループワーク 子どものうた（6） （同上　１・２月）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
29　進度に合わせた個人レッスン グループワーク 子どものうた（7） （同上　３月）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
30　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ハ長調のまとめ	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1

〔学習上の留意点・準備等〕

ピアノの個人練習は毎日行うこと。また音楽理論の理解は子どもと音楽表現活動を行ううえで必須である。

〔成績評価方法と評価基準〕

音楽理論試験25%　課題曲の合格曲数と進度75%

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕

個人レッスンでは毎回課題を与え、それにコメントする。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	1DE10	１年次 通　年	演　習	２	村木　　薫	随時プリント資料を配布
科目名	造形表現Ⅰ		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
（1）（5）（6）（10）

〔授業の概要〕
造形表現に関する基礎的な知識や技能を身につけるとともに、保育内容を理解し、造形あそびを展開するために必要な知識や技術を習得する。美しいとはどういうことか、子どもの絵の発達といった内容を実際の制作を通して学び、造形表現の楽しさや喜びを知る。

〔授業科目の到達目標〕
造形活動を通じて様々な技法の理解を深める。
造形活動を通して子どもの表現の理解を深める。
パネルに色彩構成する中で色彩感覚を高める。
パネルシアターなどの課題に取り組み、保育の組み立てを深める。

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　造形表現概説 なぜ子どもは絵を描くのだろう	予習：シラバスを読み、授業の展開を把握 復習：オリエンテーション内容、資料の見直し	1
2　植物のスケッチ （春の草花を水彩画で描いてみよう）	予習：周辺の植物を観察する 復習：周辺の植物と確認する	1
3　植物のスケッチ （着色・講評）	予習：再度観察する 復習：作品を鑑賞する	1
4　事例研究１ （フロッタージュについて）	予習： 復習：作品を鑑賞する	1
5　事例研究２ （フロッタージュを用いた作品制作）	予習：事前に作品テーマを考えておく 復習：作品を鑑賞する	1
6　事例研究３ （３原色について）	予習：３原色について調べる 復習：作品を鑑賞する	1
7　事例研究４ （にじみ、ぼかし、ドリッピング）	予習： 復習：作品を鑑賞する	1
8　事例研究５ （マースキング、スクラッチ）	予習： 復習：作品を鑑賞する	1
9　事例研究６ （ボディペインティグ）	予習： 復習：作品を鑑賞する	1
10　事例研究を生かした紙芝居制作１	予習：絵本の紹介・ストーリーを考える 復習：	1
11　事例研究を生かした紙芝居制作２	予習： 復習：作品の鑑賞	1
12　事例研究を生かした紙芝居制作３	予習： 復習：作品の鑑賞	1
13　紙芝居発表	予習：発表の準備 復習：全員の作品を鑑賞する	1
14　グラデーション演習 （下絵作り）	予習：作品を見て、構想を練る 復習：作品を鑑賞する	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
15　グラデーション演習 （着色）	予習：作品を見て、構想を練る 復習：作品を鑑賞する	1
16　色彩構成演習 （写実と抽象について）	予習：作品のテーマを探す 復習：資料の見直し	1
17　色彩構成演習 （パネルボードに水張り）	予習：作品のテーマを探す 復習：資料の見直し	1
18　色彩構成演習 （下絵制作）	予習：作品のテーマを探す 復習：作品を鑑賞する	1
19　色彩構成演習 （着色）	予習：資料の見直し 復習：作品を鑑賞する	1
20　色彩構成演習 （着色及び講評）	予習： 復習：作品を鑑賞する	1
21　植物を用いた平面構成 （材料への関わり）	予習：事前に秋の植物観察を行う 復習：作品を鑑賞する	1
22　植物を用いた平面構成 （色・素材から言葉へ）	予習：事前に秋の植物採取を行う 復習：作品を鑑賞する	1
23　紙版画制作 （なぐり描きから形の発見へ）	予習： 復習：作品を鑑賞する	1
24　紙版画制作 （版制作）	予習： 復習：作品を鑑賞する	1
25　紙版画制作 （刷り）	予習： 復習：作品を鑑賞する	1
26　事例研究７ （土粘土での表現）	予習：資料の見直し 復習：作品を鑑賞する	1
27　パネルシアターの制作 （オリジナルの物語を考える）	予習：制作テーマの資料集め 復習：作品を鑑賞する	1
28　パネルシアターの制作 （スケッチ・下絵制作）	予習： 復習：各作品の意見交換をする	1
29　パネルシアターの制作 （着色）	予習： 復習：各作品の意見交換をする	1
30　発表会・講評会	予習： 復習：作品を鑑賞する	1

〔学習上の留意点・準備等〕

随時プリントを配布し、理解を補足する。
課題提出にあたり提出締め切りは必ず守る。
自分の制作だけでなく他の学生の作品をよく見るようにし、お互いの意見交換を行う。

〔成績評価方法と評価基準〕

提出課題（70%）スケッチブック（20%）小レポート（10%）を併せて評価する

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕

・毎回の授業後に作品の鑑賞会や簡単な講評会を行う。
・ひとつの作品について感想を述べる小レポートを実施し、自由に鑑賞しあう雰囲気を作っている。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	2DE11	２年次 前　期	演　習	1	坂内　寿子	保育の中の運動遊び 石井美晴他　萌文書林
科目名	身体表現Ⅰ		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(2) (3) (4) (6) (10) (11) (13)

〔授業の概要〕
人生の基礎を培う幼児期に、心身共に健康な土台づくりをするためには、この時期の子どもにとって必要な刺激を与えなければならない。それを踏まえ、本授業は保育者として必要な運動技能を身につけると共に、運動遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得することを目的とし、グループワークを中心とした授業を展開する。

〔授業科目の到達目標〕
・運動遊びの意義を理解している。
・幼児期の運動発達を理解している。
・保育に必要な運動技能を身につけている。
・グループワークにおいて、率先して自らの役割を見つけ、協力して課題を解決できる。
・保育者として運動することの楽しさを実感できている。

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　オリエンテーション　運動遊びの指導のあり方	予習：シラバスを読み、授業の展開を把握 テキストp13～p17を読み、内容を理解	1
	復習：	
2　身体表現①　協調体操、音楽を題材に表現する（グループワーク）	予習：テキストp37～p41を読み、内容を理解	1
	復習：協調体操の復習	
3　身体表現②　協調体操、物語を題材に表現する（グループワーク）	予習：テキストp41～p47を読み、内容を理解	1
	復習：協調体操の復習	
4　身体表現③　協調体操、心情を題材に表現する（グループワーク）	予習：テキストp48～p57を読み、内容を理解	1
	復習：協調体操の復習	
5　協調体操の評価、側転の練習（グループワーク）	予習：	1
	復習：側転の練習	
6　側転の評価、マットで遊ぶ	予習：テキストp157～ｐ167を読み、内容を理解	1
	復習：マット遊びでの基本動作を確認	
7　跳び箱で遊ぶ（横跳び越しを中心に）	予習：テキストp169～ｐ173を読み、内容を理解	1
	復習：跳び箱遊びでの基本動作を確認	
8　跳び箱で遊ぶ（台上前転を中心に）	予習：テキストp173～ｐ175を読み、内容を理解	1
	復習：跳び箱遊びでの基本動作を確認	
9　跳び箱で遊ぶ（開脚跳びを中心に）（グループワーク）	予習：テキストp175～ｐ177を読み、内容を理解	1
	復習：跳び箱遊びでの基本動作を確認	
10　ボールで遊ぶ	予習：テキストp80～ｐ95を読み、内容を理解	1
	復習：ボール遊びでの基本動作を確認	

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　単縄で遊ぶ（グループワーク）	予習：テキストp109～ｐ116を読み、内容を理解	1
	復習：単縄遊びでの基本動作を確認	
12　リズム跳びの練習・評価	予習：	1
	復習：リズム跳びでの基本動作を確認	
13　長縄で遊ぶ（長縄の基本動作）	予習：配付された資料を読み、内容を確認	1
	復習：長縄遊びでの基本動作の確認	
14　長縄で遊ぶ（みんなで挑戦）	予習：	1
	復習：長縄遊びのふり返り	
15　まとめ	予習：	1
	復習：本授業における到達目標の自己評価	

〔学習上の留意点・準備等〕

実技のできるジャージ等を着用し、内履きのシューズに履き替えて授業に参加すること。また、熱中症予防に飲み物を持参してよい。

〔成績評価方法と評価基準〕

実技テスト：協調体操、側転、横跳び越し･台上前転･開脚跳び、単縄リズム跳び（70%）、授業の参加態度（30%）で、評価する。

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕

授業時間の他、課題に対する個別指導を行う。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	1DE12	１年次 前　期	演　習 担当形態 単　独	1	久保田真規子	・認定絵本士養成講座（中央法規） ・言語表現教材　みらい
科目名	言語表現					

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (4) (5) (2) (4) (5) (1) (3) (4) (6)

〔授業の概要〕
講義形式の学びから乳幼児の言葉の発達の基本的な概念を学びます。その後、幼児の姿に沿う具体的な指導の在り方について実践的に学びます。言葉で表現する具体的な遊びや、言葉を育てる絵本や紙芝居など言葉が育つ指導方法と環境について学びます。元幼稚園園長、実践者が保育・教育場面を想定し、授業を担当し、領域「言葉」の理解と言葉で表現する力を身につける内容です。

〔授業科目の到達目標〕
領域「言葉」の目的内、ねらい、内容について０歳から５歳までの具体的な子どもの姿と結びつけながら理解します。保育者の役割について理解し幼児期に育む言葉に対する感覚を理解します。そして、表現する力を養うため、実践力と保育を構想する力を学生自らが磨きます。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　「言語表現」の意義と内容	予習：事前配布資料を読む 復習：講義内容をまとめ課題を調べる。	1
2　０歳から５歳までの言語の発達 （視聴覚教材）	予習：事前配布資料を読む 復習：講義内容をシートにまとめる。	1
3　言葉で表現する楽しさを感じる遊びとは （教材研究）	予習：言葉遊びについて調べる 復習：講義内容をノートにまとめる。	1
4　言葉のやりとりが生まれる環境 （視聴覚教材）	予習：言葉遊びについて調べる 復習：講義内容をノートにまとめる。	1
5　絵本セラピー ～地域活動から見えること～	予習：絵本の読み聞かせについて調べる 復習：アンケートに回答 講義内容をまとめる	1
6　絵本の読み方聞かせ方①	予習：好きな絵本を準備する① 復習：講義内容をまとめる。	1
7　絵本の読み方聞かせ方②	予習：好きな絵本を調べる② 復習：講義内容をまとめる。	1
8　言語表現と児童文化財	予習：児童文化財を調べる 復習：絵本リストを作成する	1
9　発達段階に合わせた絵本の選び方１	予習：事前配布資料を読む 復習：講義内容をまとめる	1
10　発達段階に合わせた絵本の選び方２	予習：事前配布資料を読む 復習：講義内容をまとめる	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　絵本以外のお話 ～昔語り・素話～	予習：昔話について調べる	1
	復習：講義内容をまとめる	
12　テーマに合わせた絵本選び１	予習：テーマに合わせた絵本２冊準備する	1
	復習：絵本リストを作成する	
13　テーマに合わせた絵本選び２	予習：テーマに合わせた絵本２冊準備する	1
	復習：講義内容をまとめる	
14　テーマに合わせた絵本選び３	予習：テーマに合わせた絵本２冊準備する	1
	復習：絵本リストを作成する	
15　まとめ	15回の授業を振り返り子どもの言葉の発達と、絵本の関係、言葉で表現をする具体的な方法について考察をします。	1

〔学習上の留意点・準備等〕
幼児期の言葉の体験の一つに絵本があります。色々な絵本に出会い親しんでおきましょう。

〔成績評価方法と評価基準〕
レポートの内容（50%）実習への取り組み（50%）

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
実習で発表する内容についてコメントします。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	1DK13	１年次 前　期	講　義	２	佐藤　美保	保育所保育指針（厚労省） 乳児保育（ミネルヴァ書房） ◆乳児の発達と保育（エイデル研究所）
科目名	乳児保育Ⅰ		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (3) (5) (8) (9) (10) (11) (12) (13)

〔授業の概要〕
昨今の社会状況の変化に伴い低年齢児保育の需要が増加し、多様なニーズに応えられる保育が求められている。また、保育指針の改定等で乳児保育の重要性がクローズアップされたところである。乳児保育の意義・目的と役割・現状と課題などの基本理論について学ぶ。保育をめぐる最新の動向と、昔から変わらず重要とされている基礎的な事項を、保育行政と保育園長の実体験から、学生の理解を容易にする授業を進めていく。学びながら、乳児に対する愛情や保育実践への意欲が芽生えていく授業にする。

〔授業科目の到達目標〕
(1) 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について学ぶ。
(2) 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。
(3) ３歳未満児の発育・発達を踏まえた３歳未満児の保育の内容と運営体制について理解する。
(4) 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について学ぶ。

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1 (1) オリエンテーション 第１章　乳児保育の意義 レッスン１　乳児保育の役割	○シラバスを読み、授業の展開を把握 ○テキストの活用法を確認 予習：Ｐ１～11 復習：配布プリントで授業内容の振り返り	4
2 (2) レッスン２　乳児保育の現状 ・保育者の役割の重要性	予習：Ｐ12～22 復習：インシデント①～⑥からの学びをまとめておく	4
3 (3) 第２章　３歳児未満の発達と保育 レッスン３・４ ・ヒトの発達と保育の営み（０歳児前期）	◆のテキストで発達と保育への理解を深めましょう 予習：Ｐ25～31　◆Ｐ24～38 復習：配布プリントで授業内容の振り返り	4
4 ・ヒトの発達と保育の営み（０歳児後期）	予習：Ｐ31～38　◆Ｐ39～57 復習：配布プリントで授業内容の振り返り	4
5 ・ヒトの発達と保育の営み（１歳児前期）	予習：Ｐ39～45　◆Ｐ57～88 復習：配布プリントで授業内容の振り返り	4
6 ・ヒトの発達と保育の営み（１歳児後期）	予習：Ｐ39～45　◆Ｐ89～97 復習：配布プリントで授業内容の振り返り	4
7 ・ヒトの発達と保育の営み（２歳児）	予習：Ｐ45～51　◆Ｐ89～145 復習：配布プリントで授業内容の振り返り	4
8 ・ヒトの発達と保育の営み（２歳児）	予習：Ｐ45～51　◆Ｐ89～145 復習：配布プリントで授業内容の振り返り	4
9 レッスン５　乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援	予習：Ｐ52～67 復習：課題について自分の考えをまとめておく	4

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
10　レッスン６　さまざまな施設と乳児の保育	予習：Ｐ67～83 復習：課題について整理しておく	4
11　第３章　乳児の保育内容 レッスン７　乳児の保育形態 ・一人ひとりを大切にする保育、担当制の保育と実際	予習：Ｐ85～94 復習：エピソード・インシデントを通して自分の考えをまとめておく	4
12　レッスン８　乳児の環境構成 ・室内環境をとおして期待できる育ち ・安全面に配慮した室内環境	予習：Ｐ95～99　Ｐ106～109 復習：課題について自分の考えをまとめておく	4
13　・基本的生活習慣の習得と保育者の関わり ・入園期の保育実践と配慮ポイント	予習：Ｐ99～105 ◆Ｐ３～22「全体を見通して学ぼう」の台本を読む 復習：配布プリントで授業内容の振り返り	4
14（4）レッスン14 保護者とのパートナーシップを高める	予習：Ｐ179～192 復習：インシデント①・②からの学びをまとめておく	4
15（4）レッスン15　関係機関との連携	予習：Ｐ193～199 復習：課題について調べ、まとめておく	4

〔学習上の留意点・準備等〕

毎回学習したことについてまとめ作業をし、学びを確実にする。出される課題については、個人または他の学生と協力して課題解決をする。授業のまとめ・プリント類の整理をしておく。

〔成績評価方法と評価基準〕

試験（60%）　課題への取り組み（20%）　授業態度（20%）積極性・学習意欲

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕

・試験及び授業後の課題等の提出については添削後返却する。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	1DE14	１年次 後　期	演　習	1	佐藤　美保	保育所保育指針（厚労省） 乳児保育（ミネルヴァ書房） ◆乳児の発達と保育（エイデル研究所）
科目名	乳児保育Ⅱ		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (5) (8) (9) (10) (11)

〔授業の概要〕
乳児保育Ⅰに履修した基本理論を踏まえ、更に理論を広げながら実践的な学びをする。テキスト・プリントを活用し、ディスカッションやグループワーク・演習を繰り返すことで徐々に、乳児の成長・発達の理解、生活・遊びの配慮や援助の実際、環境設定等を具体的に理解する。また、一人ひとりを大切にする保育についての学びをもとに、個別の指導計画作成に繋げることができる。保育行政と保育園長の勤務経験を有する教員が授業を担当する。

〔授業科目の到達目標〕
(1) ３歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。
(2) 養護及び教育の一体性を踏まえ、３歳未満児の子どもの生活・遊びと保育の方法及び環境への配慮について具体的に理解する。
(3) 演習を通して、乳児保育における配慮の実際について具体的に理解を深める。
(4) 上記(1)～(3)を踏まえ、乳児保育の計画の作成について、具体的に理解する。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1 (1) オリエンテーション 第３章　乳児の保育内容 レッスン９　乳児の遊びと保育者の関わり（０歳クラス） ・乳児の保育内容 ・個々の子どもに応じた援助や受容的、応答的なかかわり	○シラバスを読み、授業の展開を把握 予習：Ｐ110～112　Ｐ140～143 ◆Ｐ24～58 復習：課題について自分の考えをまとめておく	1
2 レッスン９　乳児の遊びと保育者の関わり（１歳クラス・２歳クラス） ・遊びを支える保育者のかかわり ・乳児期の玩具について	予習：Ｐ113～123 ◆Ｐ25～145 復習：課題について調べ、まとめておく	1
3 (2) レッスン10　乳児の生活と保育者の関わり ・乳児保育における養護の考え方 ・養護と教育の一体性とその実際	予習：Ｐ124～129 ◆Ｐ146～166 復習：課題について自分の考えをまとめておく	1
4 (3)・乳児の食事	予習：Ｐ129～132 復習：配布プリントで授業内容の振り返り	1
5 ・乳児の排泄と着脱	予習：Ｐ132～135 復習：配布プリントで授業内容の振り返り	1
6 ・乳児の睡眠、乳児の健康	予習：Ｐ135～139 復習：インシデント③を通して、自分の考えをまとめておく	1
7 レッスン11　３歳以上児の保育とのつながり ・３歳未満児の保育の特性（３つの視点） ・３歳以上児の保育への移行の時期の保育 ・グループディスカッション （移行期の保育配慮について）	予習：Ｐ140～157 復習：課題について自分の考えをまとめておく	1
8 レッスン12　指導計画と記録 ・乳児の保育記録	予習：Ｐ165～167 復習：配布プリントで授業内容の振り返り	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

	授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
9	・保育を見る目を培う（観察･記録と自己評価） グループディスカッション （保育エピソード記録から読み解く）	予習：Ｐ165～167 復習：課題について自分の考えをまとめておく	1
10	レッスン13　職員間の連携と園内研修 ・職員間の連携と組織的取り組み ・園内研修の意義と実際	予習：Ｐ168～178 復習：配布プリントで授業内容の振り返り	1
11	(4) 第４章　乳児保育の実際 レッスン12　指導計画と記録 ・乳児の指導計画	予習：Ｐ160～165 復習：配布プリントで授業内容の振り返り	1
12	デイリープログラムと短期指導計画の関係性	予習：Ｐ160～165 復習：配布プリントで授業内容の振り返り	1
13	・指導計画の作成	予習：Ｐ160～165 復習：配布プリントで授業内容の振り返り	1
14	・乳児の個別指導計画（月）の作成 グループで異なった月齢を分担して立案	予習：指導計画作成の手順､留意点に目を通しておく 復習：個別指導計画を作成してみる（１歳児）	1
15	・作成した個別指導計画をグループ発表及び自己評価	まとめ：指導案の問題点をまとめる	1

〔学習上の留意点・準備等〕

毎回学習したことについてまとめ作業をし、学びを確実にする。授業に出る課題について、個人または他の学生と協力して課題解決をし発表できるようにしておく。随時授業ノートや配布物を整理する。

〔成績評価方法と評価基準〕

試験（60%）　課題への取り組み（20%）　授業態度（20%）　特に学習意欲・積極性

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕

・試験及び授業内容の確認をし、疑問点を解消する。試験及び課題の添削後返却する。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	1DE15	1年次 後　期	演　習 担当形態 単　独	1	忰田真紀子	子どもの健康と安全 中根淳子／佐藤直子編著　2,200円（ななみ書房） 適宜資料配布
科目名	子どもの健康と安全					

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕

〔授業の概要〕

「子どもの保健」で学んだことに基づいて、健康と安全の確保に必要な、保育環境への援助、衛生管理、事故防止、安全・危機管理、体調不良時の対応、感染症対策、疾病や障害のある子どもの対応などを具体的に学び、このような保健活動を円滑に推進するには、組織的に取り組む保健計画が必要であることを理解する。子育てのパートナーとして、理論に基づいた実践ができる保育者になることを目指す。保健師として地方自治体の保健業務の経験を有する教員が授業を担当する。

〔授業科目の到達目標〕

1．保育環境の援助ができるように理解する。
2．衛生管理、事故防止、安全・危機管理ができるように理解する。
3．体調不良時の対応が適切にできるように理解する。
4．感染症対策が実施できるように理化する。
5．個別的配慮を要する子どもへの対応が適切にできるように理解する。
6．保健計画の立案及び評価ができるように理解する。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　保育環境及び援助 保育環境・個別対応と集団全体の健康安全管理について	予習：シラバスを読み、概要、目標、内容などを把握しておく。 復習：教科書P9～11までと資料の見直し。	1
2　保育における健康安全管理の実際（1） 衛生管理について	予習：教科書P15～23を読み、理解を深める。 復習：現場の衛生管理の実施方法を整理しておく。	1
3　保育における健康安全管理の実際（2） 事故防止及び安全対策について	予習：教科書P25～28を読み、理解を深める。 復習：事故死因、発生状況、発達段階から予想される事故などを整理しておく	1
4　保育における健康安全管理の実際（3） 危機管理・災害への準備	予習：教科書P29～33を読み、理解を深める。 復習：授業内容を見直し整理をしておく。	1
5　体調不良等に対する適切な対応（1） 発熱・嘔吐・下痢・咳・発疹・脱水・けいれんについて	予習：資料､教科書P37～51を読み､理解を深める。 復習：授業を見直し、どのような手当をするのか整理しておく。	1
6　体調不良等に対する適切な対応（2） 応急手当：創傷処置・頭部打撲・脱臼・鼻出血・やけどなどについて	予習：資料､教科書P54～57を読み､理解を深める。 復習：授業を見直し、どのような手当をするのか整理しておく。	1
7　体調不良等に対する適切な対応（3） 応急手当：誤飲・誤嚥・溺水・熱中症・食物アレルギー緊急対応について	予習：資料､教科書P58～66を読み､理解を深める。 復習：授業を見直し、どのような手当をするのか整理しておく。	1
8　体調不良等に対する適切な対応（4） 応急手当：救急処置及び救急蘇生法について	予習：資料､教科書P67～74を読み､理解を深める。 復習：授業を見直し、心肺蘇生の方法、気道異物除去方法などを整理しておく。	1
9　感染症対策 小テストの実施､集団発生の予防･投薬について	予習：資料､教科書P79～87を読み､理解を深める。 復習：授業を見直し、感染症の流行を防ぐ方法を整理しておく。	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
10　保育における保健的対応の基本的な考え方について	予習：資料、教科書P89～110を読み、理解を深める。 復習：授業を見直し、内容を整理しておく。	1
11　個別な配慮を必要とする子どもへの対応（1）慢性疾患（腎疾患・糖尿病・循環器）、アレルギー疾患の子どもについて	予習：資料、教科書P89～117を読み、理解を深める。 復習：授業を見直し、内容を整理しておく。	1
12　個別な配慮を必要とする子どもへの対応（2）精神疾患、発達障害、医療ケアを必要とするの子どもについて	予習：資料、教科書P89～117を読み、理解を深める。 復習：授業を見直し、内容を整理しておく。	1
13　個別な配慮を必要とする子どもへの対応（3）障害のある子どもの対応について	予習：資料、教科書P117～119を読み、理解を深める。 復習：授業内容を見直し、整理しておく。	1
14　健康安全管理に実施体制（1）小テストの実施、職員間の連携と組織的取組・保健活動の計画	予習：資料、教科書P121～126を読み、理解を深める。 復習：授業内容を見直し、整理しておく。	1
15　健康安全管理に実施体制（2）母子保健・地域保健と保育、家庭・専門機関・地域との連携について	予習：資料、教科書P127～136を読み、理解を深める。 復習：授業内容を見直し、整理しておく。	1

〔学習上の留意点・準備等〕

「子どもの保健」は復習をしておく。限られた時間内で、多くの実践的なことを学ぶので、前もって予習をしておくことが望ましい。授業中はその場でやってみたり、デモンストレーションなどを取り入れるので、協力的な態度を希望する。復習は教科書、配布資料を活用する。

〔成績評価方法と評価基準〕

授業態度、定期試験で評価する。

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕

まとめの小テストを実施し、添削をして返却する。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2DE16	２年次 前　期	演　習	1	小川　崇	特に指定しない。 適宜資料を配付する。
科目名	障害児保育Ⅰ		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13)

〔授業の概要〕
「障害」の有無に関わらず、すべての子どもたちが豊かな乳幼児期を保障するためには、「障害児(者)」に対する保育や教育がどのように展開されており、そこでは何が大切なものとして考えられてきたかということ、また障害についての基礎的な知識を学ぶことは欠かせない。本演習では障害の定義、障害を取り巻く社会や制度について学び、障害に対する理解を深め、また障害児(者)とどのように関わっていけばよいのかを考えていきたい。

〔授業科目の到達目標〕
・「障害」とは一般的にどのような状態なのかを理解する。
・個別の「障害」について理解を深める。
・以上のことを踏まえた上で、「障害児(者)」とどのように関わっていけばよいのかということを自分なりに考える。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　障害をどう考えるか	授業内容をふりかえり理解を深める	1
2　障害児保育を支える理念 ノーマライゼーション	授業内容をふりかえり理解を深める	1
3　障害児保育を支える理念 インテグレーション、インクルージョン	授業内容をふりかえり理解を深める	1
4　障害概念の理解	授業内容をふりかえり理解を深める	1
5　「医療モデル」と「社会モデル」	授業内容をふりかえり理解を深める	1
6　障害の理解　身体障害	授業内容をふりかえり理解を深める	1
7　障害の理解　知的障害	授業内容をふりかえり理解を深める	1
8　障害の理解　発達障害 広汎性発達障害	授業内容をふりかえり理解を深める	1
9　障害の理解　発達障害 自閉症	授業内容をふりかえり理解を深める	1
10　障害の理解　発達障害 学習障害	授業内容をふりかえり理解を深める	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　障害の理解　発達障害 注意欠陥・多動症	授業内容をふりかえり理解を深める	1
12　障害児保育の方法	授業内容をふりかえり理解を深める	1
13　障害児保育の実際	授業内容をふりかえり理解を深める	1
14　幼保小の連会	授業内容をふりかえり理解を深める	1
15　全体のまとめとふりかえり	授業内容をふりかえり理解を深める	1

〔学習上の留意点・準備等〕
授業時に適宜参考文献を紹介する。

〔成績評価方法と評価基準〕
授業時の小レポート（15%）、中間レポート（40%）、期末レポート（45%）

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
授業時に提出する小レポートを、次回の授業でいくつか取り上げて紹介し、コメントする。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	2DE17	２年次 後　期	演　習	1	小川　崇	特に指定しない。 適宜資料を配付する。
科目名	障害児保育Ⅱ		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13)

〔授業の概要〕
「障害」の有無に関わらず、すべての子どもたちに豊かな乳幼児期を保障するためには、「障害児（者）」に対する保育や教育がどのように展開されており、そこでは何が大切なものとして考えられてきたか、また障害についての基礎的な知識を学ぶことは欠かせない。ここでは、障害児保育Ⅰでの学習を踏まえて、グループごとにテーマを設定し、調べ、考えたことを発表して質疑応答を行うことで、障害ということ、また障害児(者)とどのように関わるかについての理解を深めていきたい。

〔授業科目の到達目標〕
・障害児保育Ⅰでの学習を踏まえた上で、グループ内で協力してテーマを設定し、調べ、発表する。
・上記の過程で、障害児(者)とどのように関わったらよいかという自分なりの考えをより深める。

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容		事前事後学修の内容	所要時間
1　グループ作り	グループワーク		
2　テーマ学習１ 障害とスポーツ		テーマについてグループで話し合った内容をふりかえる	1
3　テーマ学習２ 障害と表現		テーマについてグループで話し合った内容をふりかえる	1
4　テーマ学習３ 障害とアート		テーマについてグループで話し合った内容をふりかえる	1
5　テーマ学習４ 障害者の就労		テーマについてグループで話し合った内容をふりかえる	1
6　テーマ学習５ 障害者の就労支援		テーマについてグループで話し合った内容をふりかえる	1
7　テーマ学習６ 障害と命の選別		テーマについてグループで話し合った内容をふりかえる	1
8　テーマ学習７ 出生前診断		テーマについてグループで話し合った内容をふりかえる	1
9　発表準備 発表テーマの決定		決定したテーマについて調べる	1
10　発表準備 発表テーマについて調べる		決定したテーマについて調べる	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容		事前事後学修の内容	所要時間
11　発表準備 配付資料の作成		発表のための配付資料を作成する	1
12　発表１ １、２班		自他のグループの発表をふりかえる	1
13　発表２ ３、４班		自他のグループの発表をふりかえる	1
14　発表３ ５、６班		自他のグループの発表をふりかえる	1
15　まとめと全体のふりかえり	↓		

〔学習上の留意点・準備等〕

授業時に適宜参考文献を紹介する。グループワークに関しては、グループ内で協力して課題を行うこと。

〔成績評価方法と評価基準〕

授業時の小レポート（10%）、中間レポート（40%）、グループワーク（50%）

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕

授業に提出する小レポートを、次回の授業でいくつか取り上げて紹介し、コメントする。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	1DE18	１年次 後　期	演　習 担当形態 単　独	1	福原　英起	『よりそい支える社会的養護Ⅱ』 中山正雄監修、教育情報出版 『社会福祉小六法2022〔令和４年版〕』 ミネルヴァ書房
科目名	社会的養護Ⅱ					

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (8) (9) (10) (11) (12) (13)

〔授業の概要〕
「保育」の対象は、就学前の乳幼児だと思われることが多いが、社会的養護の現場では18歳未満、場合によっては22歳までの利用が可能となっている。そのため、従来の乳幼児に対する専門性と併せて、学童以上の子どもや大人に対する「施設保育士」としての専門性についても理解できるようにしたい。

〔授業科目の到達目標〕
前期で履修した「社会的養護Ⅰ」の理念、思想、歴史、制度等を踏まえ、施設保育士として必要な福祉サービスや制度、社会資源の理解と、関係機関との連携・協働のあり方について、事例を基に検討を行いながら、専門職者としての自覚を促すことを目的とする。

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　社会的養護の機能と枠組み	指定テキストの序章を読んで理解を深める。	1
2　社会的養護の課題	指定テキストの第1章を読んで理解を深める。	1
3　社会的養護を利用する子どもの権利擁護	指定テキストの第２章を読んで理解を深める。	1
4　社会的養護に関わる保育士の倫理および責務	指摘テキストの第３章を読んで理解を深める。	1
5　社会的養護における記録と評価	指摘テキストの第４章を読んで理解を深める。	1
6　施設入所と個別支援計画	指摘テキストの第５章を読んで理解を深める。	1
7　社会的養護施設における支援 （児童養護施設、乳児院）	指摘テキストの第６章を読んで理解を深める。	1
8　社会的養護施設における支援 （児童自立支援施設、児童心理治療施設）	指摘テキストの第６章を読んで理解を深める。	1
9　障害児入所施設における支援 （福祉型）	指摘テキストの第７章を読んで理解を深める。	1
10　障害児入所施設における支援 （医療型）	指摘テキストの第７章を読んで理解を深める。	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　児童発達支援センターの支援 （福祉型、医療型）	指摘テキストの第８章を読んで理解を深める。	1
12　基本的生活習慣、学習・学校に関わる専門的技術	指摘テキストの第９章、第10章を読んで理解を深める。	1
13　対人関係・社会生活に関わる専門的技術	指摘テキストの第11章を読んで理解を深める。	1
14　家庭支援のためのソーシャルワーク	指摘テキストの第12章を読んで理解を深める。	1
15　里親委託児童の支援	指摘テキストの第13章を読んで理解を深める。	1

〔学習上の留意点・準備等〕
必ず指定テキストを持参すること。授業時の演習に積極的に参加することで、他者との相互理解を図る。

〔成績評価方法と評価基準〕
定期試験（70%）、授業時の演習課題の提出（30%）

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
演習時のポイントについて適宜解説を行う。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	2DE19	２年次 後　期	演　習	1	渡邉　彩	小原敏郎 編「演習・保育と子育て支援」 みらい　2019年
科目名	子育て支援		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (3) (9) (10) (11)

〔授業の概要〕
子育て支援の基礎となる専門的知識を理解すると共に、子育て支援における関係機関との連携、保護者への保育の指導の在り方、保護者理解、子育て支援における計画・記録・評価について演習を通して学ぶ。
教育現場での経験があり、地域での子育て支援に携わっている教員が授業を担当する。

〔授業科目の到達目標〕
・保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。
・保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　子育て支援と保育	第１章を読み理解する。	1
2　子どもの権利と子育て支援	第２章を読んで理解を深める。	1
3　保育の専門性と子育て支援	第３章を読んで理解を深める。	1
4　子育て支援の内容	第４章を読んで理解を深める。	1
5　子育て支援における計画・記録・評価	第５章を読んで理解を深める。	1
6　保護者との信頼関係の構築	第６章を読んで理解を深める。	1
7　保護者の理解とかかわり方	第７章を読んで理解を深める。	1
8　地域資源を活用した子育て支援	第８章を読んで理解する。	1
9　保育所の特性を活用した子育て支援	第９章を読んで理解する。	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
10　特別な支援を活用した子育て支援	第10章を読んで理解する。	1
11　課題のある保護者への子育て支援	第11章を読んで理解する。	1
12　保育所における子育て支援	第12章を読んで理解する。	1
13　児童発達支援センター	第13章を読んで理解する。	1
14　まとめと今後の課題（1）	通所施設における子育て支援を読んで理解する。	1
10　まとめと今後の課題（2）	子育て支援について、これからの自分自身の課題を見い出し、それらを理解する。	1

〔学習上の留意点・準備等〕
・随時、補足資料としてプリントを配布する。

〔成績評価方法と評価基準〕
定期試験（50%）　演習問題レポート・課題レポート（50%）

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
・レポート内容を授業で取り上げ、共通の課題として紹介する。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	1FE01	１年次 後　期 ２年次 通　年	演　習	3	全専任教員 吉田　裕子 遠藤　栄子	各種資料 保育教職実践演習カルテ
科目名	保育･教職実践演習		担当形態			
			複　数			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13)

〔授業の概要〕
本授業は教職・保育職を円滑にスタートできるよう、保育者として最小限必要な資質・能力を身につけることをねらいとしている。将来保育者となる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、不足している知識や技能等を補い定着が図れるよう、ロールプレーイング、グループ討議、事例研究、現地調査、模擬保育などの方法を用いて授業を構成する。1年次後期は個々に研究領域を選び、研究テーマを設定する。研究テーマに応じて仮の所属ゼミの配属となる。２年次には所属ゼミの教員から指導を受けながら研究結果を個人またはグループで成果をまとめ、発表する。研究テーマに応じて所属ゼミ（仮）が決定する。
※本授業科目の前半は、高等学校から大学への円滑な移行を図るために必要な学修方法の習得等を目的とした授業内容になっている。

〔授業科目の到達目標〕
・社会性や対人関係能力が身についている。
・聴く、メモを取る、要点をまとめる等の力が身についている。
・論理的思考力が身についている。
・レポート・論文等で記述するためのスキルが身についている。
・プレゼンテーションの技法が身についている。
・保育者としての使命感や責任感、教育的愛情が身についている。
・幼児理解や学級経営が身についている。
・保育内容や指導力が身についている。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　オリエンテーション 保育・教職実践演習個人カルテの作成・記入	予習：シラバスを読み、授業の展開を把握 復習：	1
2　研究領域別オリエンテーション	予習：自己の課題を検討（研究テーマ） 復習：	1
3　個別に研究テーマと目的について考える	予習：自己の課題を検討（研究テーマ） 復習：研究テーマと目的の検討	1
4　個別に研究方法、研究計画について考える	予習：研究方法・研究計画の立案 復習：	1
5　個別に研究形態について考える	予習：研究形態の検討 復習：	1
6　研究テーマに沿ってグループ（個人）編成をする	予習：研究形態の検討 復習：	1
7　グループまたは個人研究活動① 研究目的・方法の検討（グループワーク）	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
8　グループまたは個人研究活動② 研究内容の検討（グループワーク）	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
9　グループまたは個人研究活動③ 研究計画の立案（グループワーク）	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
10　グループまたは個人研究活動④ テーマ報告会抄録の原案作成(グループワーク)	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
11　グループまたは個人研究活動⑤ テーマ報告会抄録の第二校作成(グループワーク)	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
12　グループまたは個人研究活動⑥ テーマ報告会抄録の最終校正作成(グループワーク)	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
13　テーマ報告会の運営準備	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
14　テーマ報告会（第１グループ）	予習：発表準備 復習：発表結果のふり返り	1
15　テーマ報告会（第２グループ）	予習：発表準備 復習：発表結果のふり返り	1
16　グループまたは個人研究活動　先行研究	予習： 復習：ゼミ内テーマ報告会のふり返り	1
17　グループまたは個人研究活動 各テーマについて先行研究調査等を行い研究方法を具体的に学ぶ	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
18　グループまたは個人研究活動 研究テーマに応じた文献を探す	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
17　グループまたは個人研究活動 文献を読み込む	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
20　グループまたは個人研究活動 専門的用語・意味を理解する	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
21　グループまたは個人研究活動 文献リスト・資料を整理する	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
22　グループまたは個人研究活動 進捗状況をゼミ内発表	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
23　グループまたは個人研究活動 具体的に研究方法を検討し実施する（観察による方法）	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
24　グループまたは個人研究活動 具体的に研究方法を検討し実施する（質問紙等による方法）	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
25　グループまたは個人研究活動 具体的に研究方法を検討し実施する（面接による方法）	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
26　グループまたは個人研究活動 具体的に研究方法を検討し実施する（実践による方法）	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
27　グループまたは個人研究活動 中間発表会の準備　ポスター作成（前半）・演奏プログラムの検討	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
28　グループまたは個人研究活動 中間発表会の準備　ポスター作成（後半）・演奏リハーサル	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
29　卒業研究中間発表会（第１グループ）	予習：グループまたは個人研究活動 復習：発表結果のふり返り	1
30　卒業研究中間発表会（第２グループ）	予習：グループまたは個人研究活動 復習：発表結果のふり返り	1
31　保育・教職実践演習個人カルテの記入	予習：グループまたは個人研究活動 復習：様々な研究方法で収集した結果を集計する（文献によるもの）	1
32　グループまたは個人研究活動 様々な研究方法で収集した結果を集計し考察する（観察によるもの）	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
33　グループまたは個人研究活動 様々な研究方法で収集した結果を集計する（質問紙等によるもの）	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
34　グループまたは個人研究活動 様々な研究方法で収集した結果を集計し考察する（面接によるもの）	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
35　グループまたは個人研究活動 様々な研究方法で収集した結果を集計し考察する（事例によるもの）	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
36　グループまたは個人研究活動 様々な研究方法で収集した結果を集計し考察する（実践によるもの）	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
37　グループまたは個人研究活動 個別研究レポートを作成する	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
38　グループまたは個人研究活動 研究発表会の発表要旨を検討する	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
39　グループまたは個人研究活動 研究発表会のポスターを作成する（前半）	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
40　グループまたは個人研究活動 研究発表会のポスターを作成する（後半）	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
41　ゼミ内研究発表会	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
42　保育・教職実践演習個人カルテの記入	予習：カルテの記入項目を確認 復習：	1
43　卒業研究発表会 （第１グループ・ポスター発表）	予習：発表準備 復習：発表結果のふり返り	1
44　卒業研究発表会 （第２グループ・ポスター発表）	予習：発表準備 復習：発表結果のふり返り	1
45　卒業研究発表会（第３グループ・演奏）	予習：発表準備 復習：発表結果のふり返り	1

〔学習上の留意点・準備等〕

ゼミ担当の教員と履修カルテの記入を通して自己の学習成果をチェックしながら、保育者として必要な能力を身につける。主体的に活動を進める。

〔成績評価方法と評価基準〕

３回の発表会（テーマ報告会、中間発表会、卒業研究発表会）のプレゼンテーション力・研究過程の取組み状況・研究成果（100%）を踏まえ、到達目標と照らし成績評価する。

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕

保育・教職実践演習の履修カルテにゼミ担当教員が所見を記入し返却する。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	1BK08	本年度 休　講	講　義	2	福原　英起 鷲尾智恵子 植木　信一 永井裕紀子	授業中に適宜資料を配布する
科目名	子ども･子育て支援論		担当形態 オムニバス			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (3) (9) (10) (11)

〔授業の概要〕
日本の人口減少と共に少子化が進んでいる。その背景として結婚、出産、子育ての希望が思うようにかなわない社会環境の変化や、他の先進国と比較して低い子育て関連予算の問題が指摘されている。また近年における核家族の増加やコミニティ意識の希薄化などにより、子育て家庭が地域の中で孤立し、子育ての負担が増大している中、子育てに関する問題も大きくクローズアップされている。親の就労状況や家庭の状況に関わらず、すべての子どもが等しく質の高い学校教育・保育を受けることができる環境整備が求められている。
こうした状況に対応するため、わが国では、どのような取り組みが行われているのか。また、子どもの育ちや保護者を支える保育者には何が求められているのかについて理解を深めてもらいたい。

〔授業科目の到達目標〕
・少子化対策から子ども・子育て支援策への変遷について理解する。
・人口減少の背景・現状と国民の意識について理解する。
・少子化問題に対する諸外国の施策について理解する。
・母子保健の歩みとこれからのあり方について理解する。
・子ども・子育て支援を巡る課題を知ったり、考えたりする。
・教育・保育の質向上や子育て支援に関する施策の内容と展開・課題を理解する。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　子ども・子育て支援新制度までの制度の変遷 (担当：福原)	予習：前期の社会福祉のテキスト「社会福祉の制度と法体系」を読んでくる。 復習：配布資料を読む。	4
2　従来の子育て支援策の内容と展開、課題 (担当：福原)	予習：前期の社会福祉のテキスト「社会福祉の制度と法体系」を読んでくる。 復習：配布資料を読む。	4
3　子ども・子育て支援新制度の内容と展開 (担当：福原)	予習：配布資料を読み、理解を深める。 復習：配布資料を読む。	4
4　子ども・子育て支援新制度の内容と課題 (担当：福原)	予習：配布資料を読み、理解を深める。 復習：配布資料を読み、授業の感想をまとめる。	4
5　子育て環境としての家族 新しい家族を迎える　(担当：鷲尾)	予習：関心を持ち家族の記事・話題に触れる時間を持つ。 復習：感想をまとめる。	4
6　子育て環境としての家族 母親になるということ　(担当：鷲尾)	予習：母親像や母親役割などの記事・話題に触れる時間を持つ。 復習：感想をまとめる。	4
7　子育て環境としての家族 父親・祖父母役割　(担当：鷲尾)	予習：イクメン・孫育てなど家族の育児に関する内容を調べる。 復習：感想をまとめる。	4
8　子育て環境としての家族 行政・地域の役割と連携　(担当：鷲尾)	予習：地域での子育て支援サービスについて調べる。 復習：感想をまとめる。	4

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
9　子ども・子育て支援法における児童健全育成の施策　（担当：植木）	予習：学童保育に関するニュースを検索して読む。 復習：授業の配布資料を読む。	4
10　子ども・子育て支援法における児童健全育成の実際　（担当：植木）	予習：学童保育に関するニュースを検索して内容を理解する。 復習：授業の配布資料を理解する。	4
11　子ども・子育て支援法における児童健全育成の課題　（担当：植木）	予習：学童保育に関するニュースを検索して課題を考察する。 復習：授業の配布資料から課題を考察する。	4
12　子ども・子育て支援を巡る現状　（担当：永井）	予習：子ども・子育て支援に関して興味を持った新聞記事を持参する。 復習：授業の感想まとめる。	4
13　子育て支援の課題（ＶＴＲ視聴）　（担当：永井）	予習：配布資料を読む。 復習：ＶＴＲの感想をまとめる。	4
14　子育て支援施策の内容と展開・課題　（担当：永井）	予習：配布資料を読む。 復習：授業の感想まとめる。	4
15　教育・保育の質向上に関する施策の内容と展開・課題　（担当：永井）	予習：配布資料を読む。 復習：授業の感想まとめる。	4

〔学習上の留意点・準備等〕
板書だけではなく講義内容で大切だと思うことや自分が感じたこと、考えたことはノートに書き留めること。

〔成績評価方法と評価基準〕
各教員の授業内に行われる小テスト（筆記試験）の平均点で評価する。（100%）

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
各授業の最後に行う。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	2BE09	２年次 後　期	演　習	1	田代　健一	「演習・保育と相談援助」（第２版） 監修　前田　敏雄 株式会社みらい
科目名	保育相談の実際		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (8) (9) (10) (11) (13)

〔授業の概要〕
保育における相談援助の知識と技術を身につけることにより、福祉専門職の自覚を形成し、保育者として必要なソーシャルワークのあり方を習得する。また、現在の社会状況を理解、考察し、問題意識を常にもつ姿勢を忘れない保育士を目指す。児童相談所での勤務経験を有する教員が相談の実践例を用いて相談援助の過程を指導する。

〔授業科目の到達目標〕
・生活課題の種類と背景を考察する
・援助に必要な身近な社会資源を理解する
・福祉の専門性に基づく事例の対応方法を理解する
・福祉専門用語を理解する

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　概要説明	予習：テキストの序文・目次等を読んでくること 復習：ふり返り「キーワード」の内容・意味を整理し記録する	1
2　保育と相談援助	予習：テキストの第１章を読んでくること 復習：ふり返り「キーワード」の内容・意味を整理し記録する	1
3　相談援助とは何か	予習：テキストの第２章を読んでくること 復習：ふり返り「キーワード」の内容・意味を整理し記録する	1
4　相談援助の過程と連携	予習：テキストの第３章を読んでくること 復習：ふり返り「キーワード」の内容・意味を整理し記録する	1
5　相談援助者になるために（自己覚知）	予習：テキストの第４章を読んでくること 復習：ふり返り「キーワード」の内容・意味を整理し記録する	1
6　相談援助者になるために（他者理解）	予習：テキストの第５章を読んでくること 復習：ふり返り「キーワード」の内容・意味を整理し記録する	1
7　基本的態度、コミュニケーションスキル	予習：テキストの第６章を読んでくること 復習：ふり返り「キーワード」の内容・意味を整理し記録する	1
8　非言語的コミュニケーションの理解	予習：テキストの第６章を読んでくること 復習：ふり返り「キーワード」の内容・意味を整理し記録する	1
9　相談援助者になるために（記録）	予習：テキストの第７章を読んでくること 復習：ふり返り「キーワード」の内容・意味を整理し記録する	1
10　生活課題の把握	予習：テキストの第８・９章を読んでくること 復習：ふり返り「キーワード」の内容・意味を整理し記録する	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　相談援助の過程（インテークとアセスメント）	予習：テキストの第10章を読んでくること 復習：ふり返り「キーワード」の内容・意味を整理し記録する	1
12　相談援助の過程（援助計画）	予習：テキストの第11章を読んでくること 復習：ふり返り「キーワード」の内容・意味を整理し記録する	1
13　相談援助の過程（実施、評価）	予習：テキストの第11章を読んでくること 復習：ふり返り「キーワード」の内容・意味を整理し記録する	1
14　児童虐待の事例	予習：テキストの第15章を読んでくること 復習：ふり返り「キーワード」の内容・意味を整理し記録する	1
15　まとめ	予習：テキストの第12章を読んでくること 復習：ふり返り「キーワード」の内容・意味を整理し記録する	1

〔学習上の留意点・準備等〕

・意見交換を通じ相互理解を深める。
・随時プリントを配布し理解を補足する。

〔成績評価方法と評価基準〕

・中間レポート（40％）、期末レポート（60％）によって評価する。

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕

・講義後に提出する質問・コメントシートの内容を整理し、次回以降の講義で説明・コメントする。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	2BE10	２年次 前　期	講　義	２	外山　武夫	藤原里美著 『多様な子どもたちの発達支援』 学研
科目名	特別支援教育概論		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
（1）（2）（3）（8）（10）

〔授業の概要〕
発達障害などの特別な支援を必要とする子どもの具体的な特性や心身の発達についての基本的な知識を学ぶ。加えて、学習や生活における自立に向けての具体的な支援方法や個別の支援計画の作成などについても学ぶ。また、様々な制度を知るとともに、家庭や関係機関と連携した支援体制の構築や組織的対応の必要性についても理解する。

〔授業科目の到達目標〕
・特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。
・特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。
・特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　現在の特別支援教育の制度 ・障害者の権利に関する条約、発達障害者支援法	インターネット等を利用し、「合理的配慮」について調べる。	4
2　特別支援教育の対象（1） ・ＡＳＤ（自閉症スペクトラム症）の理解と支援	テキスト：Ｐ41～48、Ｐ57～62を読む。 参考書：Ｐ57～66を読む。	4
3　特別支援教育の対象（2） ・ＡＤＨＤ（注意欠如多動症）、ＬＤ（学習障害）の理解と支援	テキスト：Ｐ29～34、Ｐ49～56を読む。 参考書：Ｐ45～56を読む。	4
4　特別支援教育の対象（3） ・ＩＤ（知的発達症）の理解と支援	テキスト：Ｐ13～22、Ｐ63～70を読む。 参考書：Ｐ79～90を読む。	4
5　特別支援教育の対象（4） ・視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱等の理解と支援	テキスト：Ｐ23～28、Ｐ35～40を読む。 参考書：Ｐ101～110を読む。	4
6　就学に向けた支援 ・学校教育の理解と就学に向けた支援	テキスト：Ｐ81～90を読む。 参考書：Ｐ67～78を読む。	4
7　特別支援教育の内容と方法（1） ・行動観察の方法、早期発見早期対応、記録	テキスト：Ｐ71～80を読む。 参考書：Ｐ17～30を読む。	4
8　特別支援教育の内容と方法（2） ・「構造化」の理解と活用方法	テキスト：Ｐ２～８、Ｐ18～22を読む。 参考書：Ｐ31～41を読む。	4
9　特別支援教育の内容と方法（3） ・障害受容と保護者支援	テキスト：Ｐ22、Ｐ28、Ｐ34、Ｐ40、Ｐ46、Ｐ56、Ｐ62、Ｐ70、Ｐ80を読む。 参考書：Ｐ91～100を読む。	4
10　特別支援教育の内容と方法（4） 「困った」行動の意味と支援	テキスト：Ｐ23～62を読む。 参考書：Ｐ45～66を読む。	4

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　特別支援教育の内容と方法（5） 認知の偏り、不器用さの理解と支援	テキスト：Ｐ35～40、Ｐ91～95を読む。 参考書：Ｐ79～90を読む。	4
12　特別支援教育の内容と方法（6） 発達評価に基づく理解	テキスト：Ｐ81～90を読む。 参考書：Ｐ67～78を読む。	4
13　個別の指導計画、個別の教育支援計画による支援 ・計画の作成意義と方法	テキスト：Ｐ81～90を読む。 参考書：Ｐ111～121を読む。	4
14　家庭、関係機関との連携による支援 ・連携支援体制構築の必要性と方法	テキスト：Ｐ81～90を読む。 参考書：Ｐ67～78、Ｐ111～121を読む。	4
15　特別支援教育とインクルーシブ教育 ・特別な教育的ニーズの理解と対応	インターネット等を利用し「ギフテッド(Gifted)」「２Ｅ(twice-exceptional)」について調べる。	4

〔学習上の留意点・準備等〕

講義形式で適宜参考資料を配布するが、テキスト及び参考書（藤原里美著『多様な子どもたちの発達支援～園内研修ガイド～』学研）を毎時間持参するとともに、しっかりと読むこと。

〔成績評価方法と評価基準〕

・各回の演習シート（40%）
・最終レポート（60%）

〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕

・授業後に演習シートを記入して提出する。シートは確認後コメントを付けて返却する。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	2CE07	２年次 通　年	演　習	２	稲場　　建	子どもの理解と保育・教育相談（第２版）（みらい）、小田豊・秋田喜代美編
科目名	幼児理解と教育相談		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (3) (4) (8) (9) (10) (11) (12) (13)

〔授業の概要〕
教育の基本となる幼児理解の意義や考え方、原理や発達の知識などを理解し、その基礎的態度や姿勢を学ぶと共に、幼児理解の方法としての観察や記録、個と集団の人間関係やその背景の理解を具体的な事例などで学び理解する。また、教育相談の意義や考え方、カウンセリングマインドの重要性を理解し、教育相談における基礎的な理論と知識及び姿勢、技法を学ぶと共に、教育相談の具体的な進め方や、組織的な連携の重要性と意義を発達課題や虐待の事例などを通して具体的に理解する。保育、幼児教育の現場での相談・援助経験がある臨床心理士、公認心理師の教員が授業を担当する。

〔授業科目の到達目標〕
・幼児理解の意義や考え方、その原理を理解する。
・観察、記録の方法及び個と集団の関係を捉える基礎的な方法を理解する。
・教育相談の意義や考え方及び基礎的な理論を理解する。
・カウンセリングマインドの重要性及びカウンセリングの基礎的な技法について理解する。
・教育相談の進め方及び組織的な連携の重要性と意義について理解する。

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　幼児理解の意義 ～基礎的な姿勢や態度～	予習：シラバスを読み、授業の展開を把握しておく。 復習：テキスト第１章を読み返す。	1
2　幼児理解の視点 ～子どもの行為の意味や発達の原理～	予習：テキスト第２章を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	1
3　幼児理解における「発達」と「育ち」について	予習：テキスト第５章を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	1
4　幼児理解における「発達段階」と「発達過程」について	予習：テキスト第２章を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	1
5　幼児理解と援助の方法 ～かかわりと理解と修正について～	予習：前回に配布した資料を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	1
6　幼児理解から生まれる「ねらい」と援助について	予習：前回に配布した資料を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	1
7　幼児理解における観察の意義と目的	予習：前回に配布した資料を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	1
8　幼児理解における記録の意義と目的	予習：前回に配布した資料を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	1
9　幼児理解のための園内研修、カンファレンスの意義	予習：テキスト第８章を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	1
10　カンファレンスのあり方 ～事例をもとにディスカッションしてみる～	予習：テキスト第８章を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	1
11　障害のある子どもの理解と対応について① ～状況、背景の理解、保護者理解～	予習：テキスト第４章を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	1
12　障害のある子どもの理解と対応について② ～個と集団、個別指導、関係者連携～	予習：テキスト第４章を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	1
13　カウンセリングマインドと幼児理解 ～事例を通して考える問題行動や不適応の意味～	予習：テキスト第１章を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
14　カウンセリングマインドと保護者理解 ～事例を通して考える保護者との関わり～	予習：テキスト第１章を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	1
15　家庭支援、子育て支援の必要性について ～保護者への対応、基礎的な態度の理解～	予習：テキスト第３章を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	1
16　教育相談の意義と課題について	予習：テキスト第８章を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	1
17　相談を支える心理学の基礎的理論① ～発達段階など～	予習：テキスト第２章を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	1
18　相談を支える心理学の基礎的理論② ～発達課題など～	予習：テキスト第２章を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	1
19　相談を支える心理学の基礎理論③ ～精神分析、認知行動療法など～	予習：前回に配布した資料を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	1
20　相談におけるカウンセリングマインドの重要性と技法① ～ロールプレイ・つながることと見守ること～	予習：テキスト第６章を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	1
21　相談におけるカウンセリングマインドの重要性と技法② ～ロールプレイ・受容と共感～	予習：テキスト第６章を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	1
22　相談と子どものアセスメント	予習：テキスト第５章を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	1
23　相談における危機介入 ～対応と関係者連携のあり方～	予習：テキスト第７章を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	1
24　相談体制と連携のあり方① ～組織的対応と連携～	予習：テキスト第７章を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	1
25　相談体制と連携のあり方② ～地域の医療･福祉等の外部専門機関との連携～	予習：テキスト第７章を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	1
26　相談事例検討① ～目標の立て方、進め方～	予習：テキスト第２部事例編を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	1
27　相談事例検討② ～情報共有と支援など～	予習：テキスト第２部事例編を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	1
28　保護者理解と支援 ～保護者のニーズ把握と情報共有、連携～	予習：テキスト第３章を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	1
29　子ども理解と相談支援 ～受容・傾聴・共感的理解など～	予習：テキスト第５、６章を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	1
30　支援者自身のメンタルヘルスと課題・まとめ	予習：前回に配布した資料を読んでくる。 復習：今までの学習内容の整理、振り返りを行う。	1

〔学習上の留意点・準備等〕

・随時プリントを配布し､理解を補足する。

・ノートを２冊用意すること（様式、形式は自由）。ノートの用途については初回の授業時に説明する。なお、ノートは提出を求めることがあるので、毎回持参すること。

〔成績評価方法と評価基準〕

授業内課題40％、レポート60％。

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕

毎回、質問タイムを設け、質問に応じる。授業内で取り組む課題についても解説を行うと共に、疑問点、質問点についてコメントする。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	2CE07	２年次 前　期	演　習	1	忰田真紀子	適宜プリント配布
科目名	子どもの保健実習		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (3) (5) (6) (7)

〔授業の概要〕
子どもの保健Ⅰ（１年次）で学んだことに基づき、乳幼児の健全な発育・発達の支援と、心身活動の中で生じる事故や異常な状態に対する適切な手当や処置ができるように、理論に基づいた実践的技術を理解する。さらに子どもの心身の健康増進や安全を確保するための施設や地域社会の取り組みについても理解する。
保健師として地方自治体の保健衛生業務の経験を有する教員が授業を担当する。

〔授業科目の到達目標〕
1　子どもの健康増進、感染・事故防止の適切な対応について具体的に学ぶ。
2　施設における子どの健康及び安全の実施体制について理解する。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　保育者の健康管理を考える。 自身の健康管理の認識を深める。	予習：シラバスを読み、授業の概要、目標、内容を理解する。 復習：子どもの保健を読み、自身の健康管理を認識する。	1
2　熱中症予防対策を考える、脱水時の補液のつくり方 熱中症予防の啓発が出来るように。	予習：配布資料を読み、熱中症予防について自己学習をしておく。 復習：作成した熱中症予防啓発の指導案を見直しておく。	1
3　身体発育の評価をする。 成長曲線、カウプ指数を用いた発育評価ができるように。	予習：配布資料の例題に取り組む。 復習：成長曲線、カウプ指数を用いた発育評価ができるように見直しておく。	1
4　精神発達を評価する（1） 1.6歳、３歳児のチェックポイントとM-CHATの内容を理解する。	予習：配布資料を読み、自己学習をしておく。 復習：授業を見直し、チェックポイントとM-CHATの内容を理解する。	1
5　精神発達を評価する（2） M-CHATの活用と保護者への対応を考える。	予習：配布資料を読み、自己学習をしておく。 復習：ASD児特有な常同行動の観察､保護者への対応を整理する。	1
6　身体の清潔、沐浴、座浴 沐浴、座浴を実習する。 お尻の清潔保持を考える。	予習：配布資料を読み、実習の準備を整えておく。 復習：実習での気づき、工夫、反省点を整理して見直す。	1
7　罨法・温罨法、冷罨法の実際、オブラートの使い方 水枕、氷嚢、湯たんぽの作り方、当て方等を実習する	予習：配布資料を読み、実習の内容を理解し、準備を整えておく。 復習：実習での気づき、工夫、反省点を理解して見直す。	1
8　包帯法　三角巾の使い方 基本的な取扱い､腕､下肢の包帯法を実習する。	予習：配布資料を読み、実習の内容を理解しておく。 復習：三角巾の基本的な取り扱いができるように反復練習をする。	1
9　乳幼児の養護 抱き方、おんぶの仕方 衣服の着脱、排泄の世話	予習：配布資料を読み、実習の内容を理解しておく。 復習：実習での気づき、工夫、反省点を整理して見直す。	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
10　乳幼児の歯の健康 乳幼児のむし歯の現状 歯のケアの実際	予習：配布資料を読み、実習の内容を理解しておく。 復習：実習での気づき、工夫、反省点を整理し見直す。	1
11　感染防止（1） 予防接種計画を立案する。 グループで検討、計画案を提出する。	予習：配布資料を読み、理解を深めておく。 復習：計画案の内容に誤りがないか、見直しておく。	1
12　感染防止（2） 計画の見直し、実施記録から指導内容を考える。 保護者、子どもへの手洗い指導を考える。	予習：配布資料を読み、指導内容を考えてみる。 復習：計画の見直し、手洗い指導の内容を整理しておく。	1
13　日常的な事故、災害、危機管理（1） ヒヤリハットから事故防止、SIDS、窒息、アレルギー誤食を考える。	予習：配布資料からヒヤリハットの体験内容を理解しておく。 復習：グループ討議をした事故防止の内容を整理しておく。	1
14　日常的な事故、災害、危機管理（2） どんな初期行動をとらせるか、避難訓練に役立つ遊び等を考える。	予習：配布資料を読み、理解を深めておく。 復習：グループ討議をした初期行動や遊びの内容について整理しておく。	1
15　日常的な事故、災害、危機管理（3） 施設の安全管理を考える。	予習：配布資料を読み、理解を深めておく。 復習：グループ討議をした施設の安全管理の内容を整理しておく。	1

〔学習上の留意点・準備等〕

授業では、グループ討議がスムーズに展開するように、課題の事前学習の実施や当日の話し合いなど、協力的な態度を希望する。また、授業の内容は１回限りであるため、欠席は『気付きができない。』『体験ができない。』ことになるので、遅刻、欠席のないように心がけてください。配布資料を活用すること。

〔成績評価方法と評価基準〕

理論に基づいたグループ討議や実習を通して、認識や技術を深めるものであることを考慮し、定期試験で評価する。

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕

提出物は添削をして返却する。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	2DE20	２年次 前　期	演　習 担当形態 単　独	２	久保田真規子	・『知のゆりかご 子どもの姿からはじめる領域環境』 ・保育・教育　実習日誌の書き方
科目名	保育内容総論Ⅱ					

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (5) (6) (8) (9) (10) (11) (12) (13)

〔授業の概要〕
幼稚園教育要領、保育所保育指針を踏まえ、園生活全体を視野に入れ、保育のねらい・保育内容の基本的理解と実践の統合を目指す。受講生が実習計画を立案・実践、反省・考察を繰り返すことを通し、教材研究や技術の取得、記録の方法を学ぶ内容である。子どもの発達と「養護と教育」を踏まえた保育を観る視点を育み、環境構成・保育実践に磨きをかけることを目標とする。元幼稚園園長･子育て支援施設職員の経験を有する教員が授業を担当する。

〔授業科目の到達目標〕
・幼稚園教育要領、保育所保育指針を理解し園生活を通し総合的に子どもをとらえる視点を身につける。
・乳幼児の実態に則した保育内容の・計画・留意点をつかむ。
・保育者の役割や環境構成の課題をPDCAサイクルで考察する。
・具体的保育事例から五領域のねらい及び内容とのつながりを理解し「遊び」を通し、協働を学ぶ。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　オリエンテーション	予習：シラバスを読む。 復習：実習日誌・指導案を整理する。	1
2　園生活を通し総合的に子どもをとらえる	予習：教科書を読む。 復習：実習日誌・指導案から事例を取り出す。	1
3　子どもの遊びを捉える視点〈視聴覚教材〉	予習：教科書を読む。 復習：ノートをまとめる。	1
4　幼児教育の環境構成と実践	予習：サブテキストを読む 復習：ノートをまとめる。	1
5　保育環境の人的・物的環境の関わりと分析	予習：テキストを読む 復習：ノートをまとめる。	1
6　遊びと五領域のねらいと内容のつながり	予習：テキストを読む 復習：ノートをまとめる。	1
7　活動を分析し子どもの姿をとらえる	予習：自身の活動をまとめる。 復習：ノートをまとめる。	1
8　支援を必要とする子ども(個と集団)	予習：テキストを読む 復習：ノートをまとめる。	1
9　あそびで育つ人間関係① (特別な保育活動から)	予習：様々な遊びを調べる 復習：ノートをまとめる。	1
10　あそびで育つ人間関係② (バルーンあそび)	予習：グループで話し合う 復習：ノートをまとめる。	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　あそびと五領域の関係 （バルーンあそび）	予習：テキストを読む	1
	復習：ノートをまとめる。	
12　保育内容を深める遊び・児童文化財の理解	予習：テキストを読む	1
	復習：ノートをまとめる。	
13　保育内容を深める遊び・児童文化財の作成	予習：児童文化財を調べる。	1
	復習：児童文化財を作成する。	
14　五領域の理解と指導計画案の作成	予習：児童文化財を作成する。	1
	復習：指導案を作成する。	
15　模擬保育の振り返りと実践の考察	予習：模擬保育で実践する。	1
	復習：実践を考察する。	

〔学習上の留意点・準備等〕
・自身の実践計画・立案・実践・考察を保育のPDCA　サイクルに合わせて振り返り他者の実践から学ぶこと。
・保育実践が五領域にどのように関連しているか協働の意味を理解する。

〔成績評価方法と評価基準〕
・五領域を理解した指導案立案・計画・実践・考察を個人でまとめ提出する。
・グループワークでＰＤＣＡサイクルで実践を検討し、発表や取り組み姿勢で評価する。
・グループワーク40%　レポート60%

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
・指導案立案・計画・実践・考察について保育現場指導者や子どもの姿から振り返る。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2DE21	２年次 前　期	演　習 担当形態 単　独	２	鷲尾智恵子	テキスト利用無し 必要時「プリント配布」
科目名	乳児保育Ⅲ					

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(8) (10) (11) (12) (13)

〔授業の概要〕
地域社会の中での乳児保育支援の連携がどのように行われているのか、具体的な事例を挙げながら対応の実際を理解する機会とする。
支援の連携と必要性を学ぶことで保育者の役割の重要性に気づき、支援につながる思考・行動を取ることが出来ることを学べる授業としていく。

〔授業科目の到達目標〕
(1) 地域社会での支援の連携と必要性を理解する。
(2) 多様な保育施設の保育者として、自身の置かれた施設での支援の役割と重要性に気づく。
(3) 支援につながる思考を身に着けることが出来る。
(4) 支援の具体的な計画を立てることが出来、行動できる力が身につく。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　妊産婦の支援・病院 (医師・助産師・看護師・栄養士)	予習：妊娠出産に関心を持ち情報を収集する。 復習：授業内容を整理する。	1
2　妊産婦の支援・行政 (保健師・助産師・栄養士・歯科衛生士・児童福祉課)	予習：妊婦産婦の支援に関心を持ち情報を収集する。 復習：授業内容を整理する。	1
3　新生児訪問	予習：新生児の特徴について理解しておく 復習：授業内容を整理する。	1
4　産後うつ	予習：産後の心の変化について関心を持ち情報を得ておく。 復習：授業内容を整理する。	1
5　育児相談事業	予習：育児の悩みの多様性に関心を持ち内容を調べる。 復習：授業内容を整理する。	1
6　育児は育自の支援	予習：「ベビープログラム」事業について調べる。 復習：授業内容を整理する。	1
7　子育て支援センター	予習：子育て支援の拠点について情報を得ておく。 復習：授業内容を整理する。	1
8　育児支援の輪 学習館・児童館、コミュニティー 女のスペース新潟長岡・子育て応援グループ他	予習：子育て支援の施設・団体についての情報を得ておく。 復習：授業内容を整理する。	1
9　育児相談の基礎 (自分の思考の傾向を知る)	予習：心理学の関連資料等目を通しておく。 復習：授業内容を整理する。	1
10　育児相談の基礎 (相談場面での傾聴)	予習：コミュニケーションの関連資料等に目を通しておく。 復習：授業内容を整理する。	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　育児相談の基礎 （情報の理解・知識）	予習：乳児の発育発達の関連資料等に目を通しておく。	1
	復習：授業内容を整理する。	
12　育児相談 （ケース実践）	予習：授業内容を振り返り学びを深めておく。	1
	復習：授業内容を整理し振り返りをしておく。	
13　育児相談 （ケース実践）	予習：授業内容を振り返り学びを深めておく。	1
	復習：授業内容を整理し振り返りをしておく。	
14　育児相談 （ケース実践）	予習：授業内容を振り返り学びを深めておく。	1
	復習：授業内容を整理し振り返りをしておく。	
15　まとめ	予習：授業内容を整理しておく。	1
	復習：支援の在り方･方向について自分なりの考えをまとめておく。	

〔学習上の留意点・準備等〕

社会の子育ての問題に関心を持つ。

心理・コミュニケーション論の振り返りをしておく。

〔成績評価方法と評価基準〕

試験（50%）　　課題内容（40%）　　授業姿勢（10%）

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕

試験・課題等について添削後返却する。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	1DE22	１年次 後期･集中 ２年次 前　期	演　習	３	坂内寿子・村木　薫 斎藤竜夫・吉田裕子 中島孝子	資料を配布・ＤＶＤ等使用
科目名	表現活動指導法		担当形態 複　数			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (6) (9) (10) (11)

〔授業の概要〕
本授業はミュージカルの制作を課題としている。脚本作りからロールプレイングを通じた役柄作り、また舞台全体を制作し発表する中で、さまざまな表現技法の習熟を図り、保育者としての実践的指導力を高めることを目的に行う学生主体のアクティブラーニング型の授業である。指導形態は５名の教員が、一斉授業とグループワークを併用して展開する。制作した作品は地域社会に発表し、評価を仰ぐことにしている。

〔授業科目の到達目標〕
・ミュージカルの役柄に応じた表現力を身につける。
・保育者に必要な表現力とその指導法を身につける。
・ミュージカル練習や舞台作り・発表にかかわる様々な係活動を通じて自主性、責任感、協調性、コミュニケーション能力、問題解決能力等を身につける。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　オリエンテーション ミュージカル台本配付 係活動の説明及び希望調査書配付	台本の読み込み	1
2　オーディション 内容の発表 オーディション 歌の練習	歌の練習 ＤＶＤの視聴	1
3　オーディション歌・ダンスの練習	各自でダンスの練習	1
4　オーディション キャスト希望用紙配付・提出締切日提示 オーディション個別練習	オーディション課題練習	1
5　係の決定 リーダー選出 係ごとに活動内容の確認	オーディション課題練習	1
6　オーディションのタイムスケジュール発表 オーディション個別練習	オーディション課題練習	1
7　オーディション 結果発表日提示	オーディション課題練習	1
8　台本の読み合わせ	台本の読み込み	1
9　子どもワールドのプログラム編成 舞台の構成、登場・退場方向の確認	歌、セリフ、ダンス練習	1
10　クラス別子どもワールド発表・鑑賞	歌、セリフ、ダンス練習	1
11　全体舞台通し練習	歌、セリフ、ダンス練習	1
12　キャスト別練習① ダンスの振り付けモチーフの創作　歌唱練習	歌、セリフ、ダンス練習	1
13　キャスト別練習② 各自振り付けモチーフ発表 振り付けの全体創作　歌唱練習	歌、セリフ、ダンス練習	1
14　キャスト別練習③ ダンスの振り付け練習歌唱練習	歌、セリフ、ダンス練習	1
15　キャスト別練習④ ダンスの隊形習　歌唱練習	歌、セリフ、ダンス練習	1
16　キャスト別練習成果の発表及び課題提示	歌、セリフ、ダンス練習	1
17　係別活動	係別活動内容の把握	1
18　２月集中授業 シーン別練習Ⅰ　Ｓ１～Ｓ(　　)	グループ又は個人練習	1
19　２月集中授業 シーン別練習Ⅰ　Ｓ(　　)～Ｓ(　　)	グループ又は個人練習	1
20　２月集中授業 シーン別練習Ⅰ　Ｓ(　　)～Ｓ(　　)	グループ又は個人練習	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
21　２月集中授業 シーン別練習Ⅰ　Ｓ（　　）～Ｓ（　　）	グループ又は個人練習	1
22　春季集中授業１日目 シーン別練習Ⅱ　Ｓ１～Ｓ（　　）	グループ又は個人練習	1
23　春季集中授業１日目 シーン別練習Ⅱ　Ｓ（　　）～Ｓ（　　）	グループ又は個人練習	1
24　春季集中授業１日目 シーン別練習Ⅱ　Ｓ（　　）～Ｓ（　　）	グループ又は個人練習	1
25　春季集中授業１日目 シーン別練習Ⅱ　Ｓ（　　）～Ｓ（　　）	グループ又は個人練習	1
26　春季集中授業２日目 通し止め練習（前半）	グループ又は個人練習	1
27　春季集中授業２日目 通し止め練習（後半）	グループ又は個人練習	1
28　春季集中授業２日目 シーン別練習Ⅲ　Ｓ１～Ｓ（　　）	グループ又は個人練習	1
29　春季集中授業２日目 シーン別練習Ⅲ　Ｓ（　　）～Ｓ（　　）	グループ又は個人練習	1
30　春季集中授業３日目 シーン別練習Ⅲ　Ｓ（　　）～Ｓ（　　）	グループ又は個人練習	1
31　春季集中授業３日目 シーン別練習Ⅲ　Ｓ（　　）～Ｓ（　　）	グループ又は個人練習	1
32　春季集中授業３日目 通し止め練習（前半）	グループ又は個人練習	1
33　春季集中授業３日目 通し止め練習（後半）	グループ又は個人練習	1
34　春季集中授業４日目 駄目だし練習（前半）	グループ又は個人練習	1
35　春季集中授業４日目 駄目だし練習（後半）	グループ又は個人練習	1
36　春季集中授業４日目 衣装を着て全体通し練習	グループ又は個人練習	1
37　春季集中授業４日目 衣装を着て全体通し練習及び照明・音響等の舞台上の確認	グループ又は個人練習	1
38　衣装を着てシーン別練習Ⅳ Ｓ１～Ｓ（　　）	グループ又は個人練習	1
39　衣装を着てシーン別練習Ⅳ Ｓ（　　）～Ｓ（　　）	グループ又は個人練習	1
40　衣装を着てシーン別練習Ⅳ Ｓ（　　）～Ｓ（　　）	グループ又は個人練習	1
41　衣装を着てシーン別練習Ⅳ Ｓ（　　）～Ｓ（　　）	グループ又は個人練習	1
42　学内全体通し練習	グループ又は個人練習	1
43　会館リハーサル	グループ又は個人練習	1
44　ミュージカルの発表	レポートの記入	1
45　レポート提出及び係別記録ノートのまとめ	係別活動記録の整理	1

〔学習上の留意点・準備等〕

練習はアップホールだけでなく様々な教室で行われる。練習計画表等の配布物は保管し、時間帯や練習内容に留意して行動すること。各自、各グループの主体的活動が重視される。

〔成績評価方法と評価基準〕

レポート（30%）、発表および授業への参加態度・姿勢（練習・係活動）（70%）を総合的に評価する。

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕

練習課題や練習内容が決まった後は発表まで各自・各グループの話し合いや練習を常に継続すること。また、係活動においても話し合いや主体的取り組みを計画的に行うことが常に要求される。練習内容について常時アドバイス等を行う。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	2DE23	２年次 通　年	演　習	２	斎藤竜夫他	歌唱教材伴奏法 幼児のための音楽教育 教育芸術社
科目名	ピアノ表現Ⅱ		担当形態 複　数			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(2) (6) (9)

〔授業の概要〕
子どもと音楽表現活動を楽しむために必要なピアノ演奏技法を習得する。ピアノの個人レッスンに加え、グループ授業で弾き歌いのためのコード奏法、コード理解のための音楽理論も同時に学ぶ。
Ⅰ個人レッスン（弾き歌い）
１対１の個人レッスンによってピアノの演奏技術の体得並びに向上を目指す。学生は担当教員と相談した上、進度に合わせてバイエル・ツエルニー・ソナチネ・インヴェンション等を教材として学ぶ。
Ⅱグループワーク（音楽理論）
基本的な音楽理論（楽典）の学習と、それを踏まえてコード理論を学習する。
上記Ⅰ・Ⅱの内容を総合した弾き歌いの実践として、実際の保育現場において需要の高い曲を実習する。１コマ90分を前半と後半に分けて授業を行う。Ａ組は前半個人レッスン・後半は２組に分かれてグループワークを行う。Ｂ組は前半グループワーク、後半に個人レッスンを行う。

〔授業科目の到達目標〕
・ピアノ演奏技法を習得する
・子どもの歌の弾き歌いができる
・コード奏法を習得する

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ハ長調の各和音（歌唱教材伴奏法p100～101）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
2　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ハ長調の曲の編曲（1）概説	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
3　進度に合わせた個人レッスン グループワーク 編曲の実際（1）（歌唱教材伴奏法p114）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
4　進度に合わせた個人レッスン グループワーク 編曲の実際（2）（同上p115）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
5　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ト長調音階の理解	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
6　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ト長調のⅠ・Ⅴ・Ⅴ７による伴奏（1） （歌唱教材伴奏法p26～27）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
7　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ト長調のⅠ・Ⅴ・Ⅴ７による伴奏（2） （同上p28～29）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
8　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ト長調のⅠ・Ⅴ・Ⅴ７による伴奏（3） （同上p30～31）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
9　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ト長調の主要３和音	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
10　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ト長調の固有和音	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
11　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ト長調のうた（歌唱教材伴奏法を用いて）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
12　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ト長調のうた （幼児のための音楽教育を用いて）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
13　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ヘ長調音階の理解	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
14　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ヘ長調のⅠ・Ⅴ・Ⅴ７による伴奏（1） （歌唱教材伴奏法p32～33）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
15　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ヘ長調のⅠ・Ⅴ・Ⅴ７による伴奏（2） （同上p34～35）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
16　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ヘ長調のⅠ・Ⅴ・Ⅴ７による伴奏（3） （同上p36～37）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
17　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ヘ長調の主要３和音	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
18　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ヘ長調の固有和音	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
19　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ヘ長調のうた（歌唱教材伴奏法を用いて）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
20　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ヘ長調のうた （幼児のための音楽教育を用いて）	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
21　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ニ長調音階の理解	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
22　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ニ長調の主要３和音	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
23　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ニ長調の固有和音	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
24　進度に合わせた個人レッスン グループワーク その他の長音階	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
25　進度に合わせた個人レッスン グループワーク 短音階の理解	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
26　進度に合わせた個人レッスン グループワーク イ短調の音階と主要３和音	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
27　進度に合わせた個人レッスン グループワーク 愛唱歌の伴奏	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
28　進度に合わせた個人レッスン グループワーク 編曲法の実際	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
29　進度に合わせた個人レッスン グループワーク ピアノを用いた効果音について	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
30　進度に合わせた個人レッスン グループワーク まとめ	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1

〔学習上の留意点・準備等〕

ピアノの個人練習は毎日行うこと。また音楽理論の理解は子どもと音楽表現活動を行ううえで必須である。

〔成績評価方法と評価基準〕

音楽理論試験25%　課題曲の合格曲数と進度75%

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕

個人レッスンでは毎回課題を与え、それにコメントする。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	2DE24	２年次 後　期	演　習	1	村木　　薫	随時プリント資料を配布
科目名	造形表現Ⅱ		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
（1）（5）（6）（10）（11）

〔授業の概要〕
造形表現Ⅰを継承し、さらに子どもたちの豊かな思いを具現化や形にする資質・能力を高める。そのために造形遊びとして展開するための素材や教材の開発を行い、生活の周りにあるさまざまな素材感や教材感を豊かにする。この授業では、特に紙素材や自然素材、その他さまざまな素材に挑戦し、自分の造形表現領域を拡げることを目的とし、保育者としての造形活動を豊かなものとする。

〔授業科目の到達目標〕
紙や自然素材を使った造形活動を通じて様々な技法の理解を深める。
紙や自然素材を使った造形活動を通して子どもの表現の理解を深める。
紙や自然素材を使った造形遊びを通して、保育の組み立てを深める。

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　ガイダンス、乳幼児のさまざまな造形表現紹介	予習：シラバスを読み、授業の展開を把握 復習：ガイダンス内容、資料の見直し	1
2　紙素材による造形遊び（グループ分け）	予習：紙素材を集める 復習：グループ別にテーマを選定する	1
3　新聞紙、チラシ、和紙、牛乳パックなどの素材別制作	予習：テーマを探す 復習：他のグループ作品を鑑賞する	1
4　造形遊びへの展開・制作・指導案作成（グループ別）	予習：紙素材の加工法を探る 復習：他のグループ作品を鑑賞する	1
5　造形遊びへの展開・制作・指導案作成（グループ別）	予習：紙素材の加工法を探る 復習：他のグループ作品を鑑賞する	1
6　造形遊びへの展開発表・講評会	予習：紙素材の加工法を探る 復習：他のグループ作品を鑑賞する	1
7　自然素材による造形遊び（グループ分け）	予習：自然素材を集める 復習：他学生の作品を鑑賞する	1
8　テーマ別制作（素材研究）	予習：自然素材を集める 復習：他学生の作品を鑑賞する	1
9　各グループに分かれたテーマ別制作指導案作成	予習：作品を見て、構想を練る 復習：他学生の作品を鑑賞する	1
10　各グループに分かれたテーマ別制作指導案作成	予習：作品を改良する 復習：他学生の作品を鑑賞する	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　中間発表会・講評会	予習：作品を改良する	1
	復習：他のグループ作品を全員で鑑賞する	
12　各グループに分かれたテーマ別制作	予習：前作品を見て、構想を練る	1
	復習：他のグループ作品を鑑賞する	
13　各グループに分かれたテーマ別制作	予習：作品を見て、構想を練ったり、手直しを行う	1
	復習：他のグループ作品を鑑賞する	
14　各グループに分かれたテーマ別制作	予習：作品を見て、構想を練ったり、手直しを行う	1
	復習：他学生の作品を全員で鑑賞する	
15　学内に作品設置および講評会	予習：作品を見て、手直しを行う	1
	復習：他グループの作品を全員で鑑賞する	

後半課題例
Ａ植物、石などを使った立体表現　　Ｂ植物を使った絵画
Ｃモビール制作　　Ｄ紙や自然素材で物語制作
Ｅ和紙による造形　　Ｆ紙による家具制作　など

〔学習上の留意点・準備等〕
随時プリントを配布するので理解を補足する。
課題提出にあたり提出締め切りは必ず守る。
自分の作品だけでなく他の学生の作品をよく見るようにし、お互いの意見交換を行う。

〔成績評価方法と評価基準〕
制作課題（80%）　レポート（20%）を併せて評価する。

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
・毎回の授業後に作品の鑑賞会や簡単な講評会を行う。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	2DE25	２年次 後　期	演　習	1	坂内　寿子	保育の中の運動遊び 石井美晴他　萌文書林
科目名	身体表現Ⅱ		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
（1）（2）（3）（4）（6）（10）（11）（13）

〔授業の概要〕
幼児期の身体発達の特徴は、神経系の発達が著しく、この時期に全身運動の刺激が不足すると不器用な子どもにしてしまう恐れがあり、色々な運動遊びをバランスよく経験することが重要であると言われている。本授業では保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。グループワークを中心とした授業を展開する。

〔授業科目の到達目標〕
・幼児期の運動発達を理解している。
・様々な動作の体験に留意し、廃材や手作り遊具を使って運動遊びを創作できる力を身につけている。
・グループワークにおいて、率先して自らの役割を見つけ、協力して課題を解決できている。
・保育者として運動することの楽しさを実感できている。
・オペレッタの活動を通して保育者としての援助の基礎を身につけている。

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　オリエンテーション　リズムダンスの創作	予習：シラバスを読み、授業の展開を把握 テキストp51～p53を読み、内容を理解 復習：創作したリズムダンスの図説・提出	1
2　走りっこ、鬼遊び	予習：テキストp58～p79を読み、内容を理解 復習：本授業で実践した遊びの図解・提出	1
3　戸外の遊び①　固定遊具で遊ぶ	予習：テキストp199～p231を読み、内容を理解 復習：	1
4　新聞紙を使った遊び①　～遊びの創作～（グループワーク）	予習：テキストp117～p129を読み、内容を理解 復習：	1
5　新聞紙を使った遊び②　～遊びの提案～（プレゼンテーション）	予習： 復習：本授業で実践した遊びの図解・提出	1
6　段ボールを素材に使った手作り遊具の遊び①～ボール遊びの創作～（グループワーク）	予習：テキストp130～p134を読み、内容を理解 復習：	1
7　段ボールを素材にした手作り遊具の遊び②～遊びの提案～（プレゼンテーション）	予習： 復習：本授業で実践した遊びの図解・提出	1
8　ビニールホースを素材にした手作り遊具の遊び①～遊びの創作～（グループワーク）	予習：テキストp80～ｐ102を読み、内容を理解 復習：	1
9　ビニールホースを素材にした手作り遊具の遊び②～遊びの提案～（プレゼンテーション）	予習： 復習：本授業で実践した遊びの図解・提出	1
10　ゴムひもを使った遊び	予習：体験したことのあるゴム遊びをまとめる 復習：本授業で実践した遊びの図解・提出	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　戸外の遊び②　～雪遊び～ ～遊びの提案～（グループワーク）	予習：テキストp147～ｐ154を読み、内容を理解	1
	復習：本授業で実践した遊びの図解・提出	
12　オペレッタ「がんばれねずみのお手伝い」① ～援助のあり方～（グループワーク）	予習：	1
	復習：配付資料を確認、担当シーンの動きを理解	
13　オペレッタ「がんばれねずみのお手伝い」② ～役に応じた身体表現～	予習：	1
	復習：配付資料を確認、役柄の動きを理解	
14　オペレッタ「がんばれねずみのお手伝い」③ ～発表会～	予習：	1
	復習：担当シーンにおける保育者としての援助の在り方及び役柄に応じた表現の工夫のまとめ	
15　授業のまとめ	予習：	1
	復習：本授業における到達目標の自己評価	

〔学習上の留意点・準備等〕

実技のできるジャージ等を着用し、内履きのシューズに履き替えて授業に参加すること。また、アリーナだけでなくアップホール、ビデオ視聴用の教室も使用して授業を行うので連絡掲示板を忘れず確認すること。

〔成績評価方法と評価基準〕

課題レポート（50%）、遊びの提案カード（30%）、授業の参加態度（20%）で評価する。

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕

授業で検討した各種の遊びを「遊びの提案集」としてまとめ配付する。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	1DE26	１年次 後　期	講　義 担当形態 複　数	1	坂内　寿子 中島　孝子	楽しさをとおした心の元気づくり ～レクリエーション支援の理論と方法～ 日本レクリエーション協会編・発行
科目名	レクリエーション実習Ⅰ					

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(2) (3) (4) (6) (9) (10) (11) (13)

〔授業の概要〕
レクリエーション支援は健康づくりや高齢者・障がい者福祉、子育て支援、保育、教育、地域づくり、環境教育など、幅広い領域で行われている。本授業は遊びの援助（レクリエーション支援）を行う上で必要となるコミュニケーション技法や集団を対象としたレクリエーション活動の展開法を身につけることにより保育者としての援助力を身につけることを目的としている。この科目はレクリエーション・インストラクター資格取得のための必修科目である。

〔授業科目の到達目標〕
・集団をリードし、一体感を生み出し、楽しい時間を演出するための基礎的技能が身についている。
・１対１、１対集団といった場面で、コミュニケーションを促進するための基礎的技能が身についている。
・対象や支援の目的に合わせたプログラムを展開するための基礎的技能が身についている。
・既存のアクティビティを、対象に合ったアクティビティへとアレンジするための技能が身についている。
・対象者の主体性や協調性を引き出すための基礎的技能が身についている。
・福祉施設や保育所・幼稚園など現場に応じたレクリエーション活動を企画・運営する基礎的知識・技能が身についている。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　オリエンテーション、レクリエーションを学ぶにあたって	予習：シラバスを読み、授業の展開を理解する 復習：ノート、テキスト、資料等から理解を深める	1
2　ホスピタリティトレーニング	予習：テキストp58～p65を読み、内容を理解する 復習：授業内容のふり返り：ノート記入	1
3　アイスブレーキングの技法	予習：テキストp66～p69を読み、内容を理解する 復習：授業内容のふり返り：ノート記入	1
4　レクリエーション活動の展開法	予習：テキストp70～p81を読み、内容を理解する 復習：授業内容のふり返り：ノート記入	1
5　様々なアクティビティの体験① ソング①～③、ゲーム①～③、ダンス①～③	予習： 復習：授業内容のふり返り：ノート記入	1
6　様々なアクティビティの体験② ソング④～⑥、ゲーム④～⑥、ダンス④～⑥	予習： 復習：授業内容のふり返り：ノート記入	1
7　様々なアクティビティの体験③ ソング⑦～⑨、ゲーム⑦～⑨、ダンス⑦～⑨	予習： 復習：授業内容のふり返り：ノート記入	1
8　県スポ･レク大会プログラム参加(A～Cブース)	予習： 復習：参加したブース内容の記入	1
9　県スポ･レク大会プログラム参加(D～Fブース)	予習： 復習：参加したブース内容の記入	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
10　指導演習：ゲーム（第１グループ）	予習：	1
	復習：授業内容のふり返り：ノート記入	
11　指導演習：ゲーム（第２グループ）	予習：	1
	復習：授業内容のふり返り：ノート記入	
12　指導演習：ソング（第１グループ）	予習：	1
	復習：授業内容のふり返り：ノート記入	
13　指導演習：ソング（第２グループ）	予習：	1
	復習：授業内容のふり返り：ノート記入	
14　指導演習：ゲーム・ソング（欠席者）	予習：	1
	復習：授業内容のふり返り：ノート記入	
15　授業のまとめ	予習：	1
	復習：授業内容の全体についてノート、テキスト、資料等から理解を深める	

〔学習上の留意点・準備等〕
事前事後学修は必ず行うこと。また、ノート、配付資料は整理しておくこと。

〔成績評価方法と評価基準〕
課題（指導案）の記入内容（30%）、指導演習状況（50%）、授業の参加態度（20%）

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
各自の指導演習終了時に、具体的支援についてコメントする。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	2EJ01	２年次 前　期	実　習	２	稲場　健 福原　英起 田代　健一	『保育士養成課程 五訂 福祉施設実習ハンドブック』喜多一憲他監修、吉村美由紀他編、みらい
科目名	保育実習Ⅰ （施設）		担当形態 複　数			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
（1）（2）（4）（8）（9）（10）（11）（12）（13）

〔実習の概要〕
「保育実習Ⅰ（施設）」は、保育所以外の児童福祉施設だけではなく、知的障害者施設などでの実習も含まれている。１年次で修得した「社会福祉」、「社会的養護Ⅰ」、「子ども家庭福祉」、「社会的養護Ⅱ」等の福祉関連科目で学んだ知識を、実習を通して深めることを目的とする。特に、この実習で初めて障害児・者に接する学生も少なくない。実習を通して、施設・利用者の理解と専門職としての施設保育士の役割と理解を深める。

〔実習の到達目標〕
児童福祉施設（保育所以外）について理解する。
利用者について理解する。
制度・政策について理解する。
自己課題を明確にする。
施設の今後の課題と展望について理解する。
他の社会資源・専門職との連携・協働について理解する。
地域に対する施設の役割について理解する。

〔実習の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

実　習　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　施設の役割と機能 （1）施設における子ども（利用者）の生活と保育士の援助や関わり （2）施設の役割と機能	1　実習中に気付きや疑問については、なるべくその場で職員に聞いて解決するように努める。 2　実習日誌には、日課に沿って作業内容を記入するだけではなく、職員の利用者に対する支援の様子や変化、利用者との遣り取り、支援に対する考察や疑問、利用者との関わりを通しての感想等を記載できるようにする。	
2　子ども（利用者）理解 （1）子ども（利用者）の観察とその記録 （2）個々の状況に応じた援助や関わり		
3　施設における子ども（利用者）の生活と環境 （1）計画に基づく活動や援助 （2）子ども（利用者）の心身の状態に応じた生活と対応 （3）子ども（利用者）の活動と環境 （4）健康管理、安全対策の理解		
4　計画と記録 （1）支援計画の理解と活用 （2）記録に基づく省察・自己評価		
5　専門職としての保育士の役割と倫理 （1）保育士の業務内容 （2）職員間の役割分担や連携 （3）保育士の役割と職業倫理		

〔学習上の留意点・準備等〕
児童福祉施設等及び障害児・者通所施設等における11日以上の実習により行う。

〔成績評価方法と評価基準〕
実習施設での評価(60%)と、巡回指導教員からの報告、実習日誌の記録内容、各種提出物等の評価(40%)を総合して評価する。

〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	1EJ02	１年次 後　期	実　習	２	渡邉　彩 永井裕紀子	配布資料
科目名	保育実習Ⅰ （保育所）		担当形態 複　数			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (3) (6) (8) (9)

〔実習の概要〕
１月下旬から２月上旬にかけて行われる１２日間の保育所実習である。実習形態は参加実習である。保育所保育の実際に触れ、乳幼児の発達と保育士の職務内容を体験的に学ぶとともに保育所の役割や機能を具体的に理解する。

〔実習の到達目標〕
・保育所の役割や機能を具体的に理解する。
・観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。
・既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
・保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

〔実習の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

実　習　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　保育所の役割と機能 (1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり (2) 保育所保育指針に基づく保育の展開	・実習日誌をまとめながら１日の保育を振り返り、気づきや疑問を明確にすること。また、翌日の実習の目標を明確にすること。 ・実習中の疑問については、その日のうちに担当職員に質問し、疑問を解決できるようにすること。	
2　子どもの理解 (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子ども発達過程の理解 (3) 子どもへの援助や関わり		
3　保育内容・保育環境 (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全		
4　保育の計画・観察・記録 (1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (2) 記録に基づく省察・自己評価		
5　専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理		

〔学習上の留意点・準備等〕
・実習園の保育方針を尊重し、園長及び担当職員の指示に従って行動すること。
・守秘義務を守ること。
・子どもの安全に留意して実習すること。
・事前指導での指示や注意事項を厳守すること。
・分からないことは園長及び担当職員に尋ねるなど”ほう・れん・そう”を大切にすること。

〔成績評価方法と評価基準〕
実習巡回指導教員からの報告(20%)、園から評価(60%)を総合して評価する。

〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕
実習終了後の事後指導（個別面談）にて行う。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	1EE04	２年次 前　期	演　習 担当形態 複　数	1	福原　英起 稲場　　健 田代　健一	『保育士養成課程　五訂 福祉施設　実習ハンドブック』 喜多一憲 他監修 吉村美由紀 他編 みらい
科目名	保育実習指導Ⅰ （施設）					

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
（1）（2）（4）（8）（9）（10）（11）（12）（13）

〔授業の概要〕
保育実習Ⅰ（施設）は必修科目であり、保育所以外の施設の実習である。これまで学んだ「社会福祉」「社会的養護Ⅰ」「子ども家庭福祉」「社会的養護Ⅱ」等の福祉関連科目で学んだ知識を実習を通して体験的に理解し深めることを目的とする。実習で初めて障害児・者に接する学生が多いが、事前、事後指導を通じ、個別的理解とその対応の重要性を理解すると共に、保育士の施設での基本的な姿勢等を確認し認識する貴重な学習の機会である。保育所以外の児童福祉施設等で実務経験を有する教員が実践的な対応や係わりを指導する。

〔授業科目の到達目標〕
1　保育所以外の児童福祉施設等の概要を理解する。
2　施設の利用者の状態や支援、対応について理解する。
3　利用者への個別的理解に基づく援助・支援のあり方を理解する。
4　施設の状況や課題、問題点、制度政策等について理解する。

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　概要説明、実習先伝達	予習：テキストの第１部を読んでくること 復習：ふり返り「キーワード」の内容の整理記録	1
2　施設実習の目的・意義	予習：テキストの第Ⅰ，２部を読んでくること 復習：ふり返り「キーワード」の内容の整理記録	1
3　施設実習の目的･心構え （実習施設の調査）	予習：テキストの第２部を読んでくること 復習：ふり返り「キーワード」の内容の整理記録	1
4　保育士の役割	予習：テキストの第１部を読んでくること 復習：ふり返り「キーワード」の内容の整理記録	1
5　児童福祉施設の理解１ （知的障害施設）	予習：テキストの第２部を読んでくること 復習：ふり返り「キーワード」の内容の整理記録	1
6　児童福祉施設の理解２ （児童養護施設）	予習：テキストの第3部を読んでくること 復習：ふり返り「キーワード」の内容の整理記録	1
7　児童福祉施設の理解３ （乳児院・肢体不自由児施設）	予習：テキストの第4、７部を読んでくること 復習：ふり返り「キーワード」の内容の整理記録	1
8　実習日誌の記録１ （知的障害施設関係）	予習：テキストの第３部を読んでくること 復習：ふり返り「キーワード」の内容の整理記録	1
9　実習日誌の記録２ （その他の施設関係）	予習：テキストの第3部を読んでくること 復習：ふり返り「キーワード」の内容の整理記録	1
10　施設実習の目標設定	予習：テキストの第４部を読んでくること 復習：ふり返り「キーワード」の内容の整理記録	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　事後指導１ 実習報告、事後自己評価	予習：テキストの第５部を読んでくること	1
	復習：ふり返り「キーワード」の内容の整理記録	
12　事後指導２ グループ討議（同種施設）	予習：テキストの第５部を読んでくること	1
	復習：ふり返り「キーワード」の内容の整理記録	
13　事後指導３ グループ討議（異種施設）	予習：テキストの第５部を読んでくること	1
	復習：ふり返り「キーワード」の内容の整理記録	
14　事後指導４ グループ発表	予習：テキストの第５部を読んでくること	1
	復習：ふり返り「キーワード」の内容の整理記録	
15　まとめ	予習：テキストの第７部を読んでくること	1
	復習：ふり返り「キーワード」の内容の整理記録	

〔学習上の留意点・準備等〕
・実習先の施設の情報を収集し事前学習を行うこと。
・意見交換を通じ多面的理解を図る。

〔成績評価方法と評価基準〕
・毎回授業の「ふり返り」（小レポート），各授業の提出物を合わせ評価する。
・小レポート（20%）提出物（80%）

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
・毎回授業の「ふり返り」小レポート（200字以上）を提出するが、添削して返却する。
・実習については適宜必要に応じ個別指導を実施する。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	1EE04	1年次 後　期	演　習	1	渡邉　彩 永井裕紀子 松延　毅	「保育･教育実習」大豆生田啓友･三谷大紀 松山洋平編著　ミネルヴァ書房 長島和代編『保育の基本用語』わかば社 保育所保育指針解説　厚生労働省
科目名	保育実習指導Ⅰ (保育所)		担当形態 複　数			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (3) (6) (8)

〔授業の概要〕
事前指導では、保育所の保育に実習生として参加し子どもと関わることの意味について考えながら実習の心得について学ぶ。また、子どもが示す様々な姿をどう捉え、保育者(実習生)として子どもとどう関わればよいのか。子どもを見る視点と保育者の援助について理解を深めつつ、それを記録に活かす力を養う。模擬保育実践では、保育者役や子ども役になる体験を通して、子どもを主体とした遊びの展開について理解する。事後学習では実習の自己評価を行いながら自己課題を明確にし、次の実習への展望がもてるようにしたい。
保育士として保育所に勤務経験のある教員が授業を担当する。

〔授業科目の到達目標〕
実習の意義や心得について理解し、社会人としてのマナーを身に付ける。
子どもを見る視点について理解する。
保育記録の方法や内容を理解する。
実習を通して求められる保育者像について考え、自己課題を明確にする。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　実習園の発表・実習日誌の配布等	実習園の情報を得る。	1
2　・保育実習の意義と目的・概要 ・保育所保育の実際	テキストＰ９、12－16を読んでくる。	1
3　・実習の心得 ・実習時期の保育の様子	テキストＰ19－21を読んでくる。	1
4　子どもとの関わり・職員との関わりについて	テキストＰ36－46を読んでくる。	1
5　実習日誌の書き方・活用の仕方	テキストＰ51－53、Ｐ86－87を読んでくる。	1
6　・実習生調査書の書き方 ・登園場面の子どもの姿と保育者の援助	登園場面の日誌を書いてくる。 実習生調査書を書いてくる。	1
7　・模擬保育実践の概要 ・遊び場面の子どもの姿と保育者の援助	遊び場面の日誌を書いてくる。 模擬保育の教材作りをする。	1
8　・実習生調査書の確認 ・片づけ場面の子どもの姿と保育者の援助	片づけ場面の日誌を書いてくる。 実習生調査書を清書する。	1
9　・模擬保育の計画作成 ・食事場面の子どもの姿と保育者の援助	模擬保育の計画を立てる。 片づけ場面の日誌を書いてくる。	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
10　午睡場面の子どもの姿と保育者の援助	午睡場面の日誌を書いてくる。	1
11　・オリエンテーションについて ・実習日誌Ⅱの書き方	オリエンテーションで園に確認することをまとめる。	1
12　模擬保育実践（1）	模擬実践の振り返りを書いてくる。	1
13　模擬保育実践（2）	模擬実践の振り返りを書いてくる。	1
14　・実習に関わる諸注意・心得 ・緊急連絡方法・礼状等	絵本、手遊び等部分実習に向けて準備をする。	1
15　保育実習Ⅰの総括（個別面談）	保育者としての自己の課題を明確にする。	1

〔学習上の留意点・準備等〕

実習園によって実習の方法は異なる。各自が実習園の実習方針を理解し、分からないことがあれば教員に相談するなど“ほう・れん・そう”を大切にすること。

〔成績評価方法と評価基準〕

授業態度／提出物（20%）・模擬保育実践等（80%）から総合的に評価する。

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕

個別または各授業の最後に行う。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	2EJ05	２年次 前　期	実　習	２	永井裕紀子 渡邉　　彩	配布資料
科目名	保育実習Ⅱ		担当形態 複　数			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (3) (4) (8) (9) (10) (11) (12) (13)

〔実習の概要〕
８月に行われる12日間の保育所実習である。実習形態は参加実習・責任実習（部分・一日）である。保育実習Ⅰの経験を踏まえ、保育の計画・実践・省察・評価について総合的、具体的に学ぶ。

〔実習の到達目標〕
・保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。
・子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。
・子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
・保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について実際的に取り組み、理解を深める。
・保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
・実習における自己の課題を明確化する。

〔実習の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

実　習　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　保育所の役割と機能の具体的展開 (1) 養護と教育が一体となって行われる保育 (2) 保育所の社会的役割と責任	・実習日誌をまとめながら１日の保育を振り返り、気づきや疑問を明確にすること。また、翌日の実習の目標を明確にすること。 ・実習中の疑問については、その日のうちに担当職員に質問し、疑問を解決できるようにすること。	
2　観察に基づく保育の理解 (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 保育士等の動きや実践の観察 (3) 保育所の生活の流れや展開の把握		
3　子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援		
4　指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 (1) 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価		
5　専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理		

〔実習の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

実　習　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
6　自己課題の明確化		

〔学習上の留意点・準備等〕

・実習園の保育方針を尊重し、園長及び担当職員の指示に従って行動すること。
・守秘義務を守ること。
・子どもの安全に留意して実習すること。
・事前指導での指示や注意事項を厳守すること。
・分からないことは園長及び担当職員に尋ねるなど”ほう・れん・そう”を大切にすること。
・指導計画の作成については、担当職員とよく相談をすること。

〔成績評価方法と評価基準〕

実習巡回指導教員からの報告（20%）、園から評価（80%）を総合して評価する。

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕

実習終了後の事後指導（個別面談）にて行う。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	2EE06	２年次 前　期	演　習	1	永井裕紀子 渡邉　彩 松延　毅	授業中に適宜資料を配布する
科目名	保育実習指導Ⅱ		担当形態 複　数			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
（1）（2）（3）（6）（8）（11）

〔授業の概要〕
保育実習Ⅰを踏まえ保育実習Ⅱの事前事後指導を行う。事前学習では子どもの発達や興味・関心、実習時期の保育の実態に応じた指導計画案の作成や教材について学習する。また、模擬保育実践を通じて、保育内容の具体的な指導法や保育を改善する視点等について総合的に学ぶ。事後学習では実習の自己評価を行い、保育者としての自分を省察し、課題を明確にする。保育士として保育所に勤務経験のある教員が授業を担当する。

〔授業科目の到達目標〕
他教科での学びを有機的に関連づけながら、実習時期の季節や子どもの発達に応じた指導計画案が作成できる。
模擬保育実践と振り返りを通じて保育内容の指導法を総合的に学ぶと共に保育を改善する視点を身に付ける。
保育実習Ⅱの総括と評価を行い、保育者としての自己の課題を考える。

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　保育実習Ⅱの概要・実践のグループ分け	予習：実習園の情報を得る。 復習：実習の目的を明確にする。	1
2　指導計画案の考え方・作成方法	予習：季節や子どもの発達にあった遊びを調べる・考える。 復習：教材研究をする。	1
3　指導計画案を作成するにあっての諸注意	予習：季節や子どもの発達にあった遊びを調べる・考える。 復習：教材研究をする。	1
4　実習日誌について・実習スケジュールを立てる	予習：指導計画案を作成する。 復習：指導計画案について、教員から指導を受ける。	1
5　活動レパートリー表の作成	予習：指導計画案を再考する。 復習：指導計画案を完成させる。	1
6　実習時期の子どもや保育の様子	予習：活動レパートリーを作成する。 復習：実習時期の保育の様子について復習する。	1
7　子どもの発達や興味・関心にそった遊びの検討	予習：実践の準備・教材研究をする。 復習：指導計画案を作成する。	1
8　子どもの発達や興味・関心にそった教材研究	予習：実践の準備・教材研究をする。 復習：指導計画案を作成する。	1
9　保育のねらいと保育者の援助・環境構成の検討	予習：実践の準備・教材研究をする。 復習：指導計画案を作成する。	1
10　指導計画案の作成	予習：実践の準備・教材研究をする。 復習：指導計画案を作成する。	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　指導計画案の修正	予習：実践の準備・教材研究をする。	1
	復習：指導計画案を作成する。	
12　指導計画案に基づく保育実践	予習：実践の準備をする。	1
	復習：実践の振り返りをする。	
13　実践の振り返り（反省・評価）	予習：実践の準備をする。	1
	復習：実践の振り返りをする。	
14　実習に関わる諸注意・資料配布	予習：配布プリントの整理・見直しをする。	1
	復習：保育実習Ⅱに向けての準備をする。	
15　保育実習Ⅱの総括・自己課題の明確化（個別面談）	予習：実習記録等を見直しながら実習を振り返る。	1
	復習：自己の課題を整理し改善できるよう取り組む。	

〔学習上の留意点・準備等〕
指導計画案の作成、模擬保育の実践については、早めに教員に相談をし点検を受けること。

〔成績評価方法と評価基準〕
授業態度・提出物・模擬保育実践等から総合的に評価する。

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
個別または各授業の最後に行う。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	2EJ07	２年次 前　期	実　習 担当形態 複　数	２	福原　英起 稲場　　健	『保育士養成課程 五訂 福祉施設実習ハンドブック』喜多一憲他監修、吉村美由紀他編、 みらい
科目名	保育実習Ⅲ					

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (4) (8) (9) (10) (11) (12) (13)

〔実習の概要〕
この実習は、保育実習Ⅰ（施設）で認められている施設だけではなく、児童館での実習も認められている実習となる。学生は、自分の関心のある施設を選択するため、利用者は施設によって大きく異なる。そのため、施設理解、利用者理解、制度的理解等を基軸としながら、施設保育士としての役割についての理解を深める。

〔実習の到達目標〕
児童福祉施設（保育所以外）について理解する。
児童館の役割・機能について理解する。
制度・政策について理解する。
施設保育士の役割・職務内容について理解する。
各専門職との連携について理解する。

〔実習の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

実　習　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能	1　実習中に気付きや疑問については、なるべくその場で職員に聞いて解決するように努める。 2　実習日誌には、日課に沿って作業内容を記入するだけではなく、職員の利用者に対する支援の様子や変化、利用者との遣り取り、支援に対する考察や疑問、利用者との関わりを通しての感想等を記載できるようにする。	
2　施設における支援の実際 (1) 受容し、共感する態度 (2) 個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども理解 (3) 個別支援計画の作成と実践 (4) 子ども（利用者）の家族への支援と対応 (5) 各施設における多様な専門職との連携・協働 (6) 地域社会との連携・協働		
3　保育士の多様な業務と職業倫理		
4　保育士としての自己課題の明確化		

〔学習上の留意点・準備等〕
実習先の施設に関する情報・資料を収集し、事前学習を行う。
講義の前後には必ずテキストを読み、問題点や疑問点を明確にする。
新聞に目を通し、講義と関係のある記事を読み、出来ればスクラップして感想を書いてみる。

〔成績評価方法と評価基準〕
実習施設での評価(60%)と、巡回指導教員からの報告、実習日誌の記録内容、各種提出物等の評価(40%)を総合して評価する。

〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	2EE08	２年次 前　期	実　習	1	福原　英起 稲場　　健	『保育士養成課程 五訂 福祉施設実習ハンドブック』喜多一憲他監修、吉村美由紀他編 みらい
科目名	保育実習指導Ⅲ		担当形態 複　数			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (8) (10) (11) (12) (13)

〔実習の概要〕
「保育実習Ⅲ」は、保育実習Ⅰ（施設）では対象外であった児童館での実習も可能となっている。授業では、生活・利用の場となっている各施設や職員の理解と役割、他職種や関係機関、社会資源との連携・協働等のあり方について学ぶ。さらに、利用者の基本的権利を養護・代弁する意義、子どもの権利条約や児童福祉法を始めとする関連所法令の整備が進行する中で、専門職の人権感覚・意義、職業倫理についての理解を深める。

〔実習の到達目標〕
保育実習Ⅲの実習の意義や目的等の基本的な理解から、実際の利用者である子どもや大人の理解、保育士の役割と職務内容の理解、各専門職との連携についての理解、子ども観、児童養護観、施設観の理解と体得等につなげていく。これにより、学生自身の保育士像を、より確実なものにしていくことを目的とする。

〔実習の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

実　習　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　福祉施設における実習とは	指定テキスト第１章を読んで理解する。	1
2　福祉施設での実習に向けた準備 （各施設の機能）	指定テキスト第２章を読んで理解する。	1
3　福祉施設での実習に向けた準備 （各施設の種別と目的）	指定テキスト第２章を読んで理解する。	1
4　福祉施設での実習に向けた準備 （利用児・者の理解）	指定テキスト第３章を読んで理解する。	1
5　福祉施設での実習に向けた準備 （保育士の役割）	指定テキスト第３章を読んで理解する。	1
6　福祉施設の実習に向けた準備 （各施設の専門職とその役割）	指定テキスト第４章を読んで理解する。	1
7　福祉施設の実習に向けた準備 （実習目標・課題の設定）	指定テキスト第４章を読んで理解する。	1
8　福祉施設の実習に向けた準備 （実習施設の施設調べ）	指定テキスト第４章を読んで理解する。	1
9　関連福祉サービスと法制度の概要 （社会福祉法、障害者基本法）	配布資料を読んで理解する。	1

〔実習の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

実　習　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
10　関連福祉サービスと法制度の概要 （障害者総合支援法）	配布資料を読んで理解する。	1
11　関連福祉サービスと法制度の概要 （発達障害者基本法、介護保険法）	配布資料を読んで理解する。	1
12　関連福祉サービスと法制度の概要 （児童福祉法）	配布資料を読んで理解する。	1
13　保育士と権利擁護 （苦情解決処理、第三者評価）	配布資料を読んで理解する。	1
14　福祉施設と地域の繋がり （社会福祉協議会、ＮＰＯ、民生・児童委員等）	配布資料を読んで理解する。	1
15　実習に向けての最終準備 （面接）	指定テキスト第６章、配布資料を読んで理解する。	1

〔学習上の留意点・準備等〕
指定されたテキスト、配布資料を読み、各自の実習施設に関する情報収集と内容の理解を図る。

〔成績評価方法と評価基準〕
事前・事後指導時の提出物（50％）、レポート（50％）

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
レポートを添削して返却する。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	2BE11	２年次 後　期	講　義 担当形態 単　独	２	小川　　崇	テキストは指定しない。 適宜資料を配付する。
科目名	教育と社会					

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (11) (12) (13)

〔実習の概要〕
近代において、教育、特に学校教育は社会になくてはならないものになってきた。社会における学校教育の機能や、また学校教育の課題を考えることで、社会における教育の持つ意味について考えていきたい。

〔実習の到達目標〕
・社会における学校教育の機能について理解する。
・学校教育が直面する諸課題について理解する。
・現在学校教育がおかれている状況を、社会状況や教育政策との関わりで理解する。

〔実習の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

実　習　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　教育の社会的機能	授業内容をふりかえり理解を深める	4
2　学校教育の機能とその変遷	授業内容をふりかえり理解を深める	4
3　学校教育の社会的必要性	授業内容をふりかえり理解を深める	4
4　学校を選ぶ① オルタナティブスクール	授業内容をふりかえり理解を深める	4
5　学校を選ぶ② フリースクール	授業内容をふりかえり理解を深める	4
6　学校を選ぶ③ 学校選択制	授業内容をふりかえり理解を深める	4
7　教育はサービス業か① 他の職業との関わりで考える	授業内容をふりかえり理解を深める	4
8　教育はサービス業か② 新自由主義との関わりで考える	授業内容をふりかえり理解を深める	4
9　日本における教育政策の動向① 教育基本法改正等	授業内容をふりかえり理解を深める	4

〔実習の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

実　習　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
10　日本における教育政策の動向② 教員免許更新制等	授業内容をふりかえり理解を深める	4
11　世界の教育動向①　PISA	授業内容をふりかえり理解を深める	4
12　世界の教育動向②　諸外国の動向	授業内容をふりかえり理解を深める	4
13　学校と地域の連携・協働	授業内容をふりかえり理解を深める	4
14　学校における安全を考える	授業内容をふりかえり理解を深める	4
15　まとめとふりかえり	授業内容をふりかえり理解を深める	4

〔学習上の留意点・準備等〕
講義時に適宜参考文献を紹介する。

〔成績評価方法と評価基準〕
講義時の小レポート(10%)、中間レポート(40%)、期末レポート(50%)

〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕
講義時に提出する小レポートを、次回の授業でいくつか取り上げて紹介し、コメントする。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	1EJ09	1年次 前　期	実　習 担当形態 複　数	2	小川　崇 白井智佳子	特に指定しない。随時資料を配付する。
科目名	教育実習Ⅰ					

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13)

〔実習の概要〕
教育実習Ⅰでは、幼稚園実習に際しての基本的な理解や心得、具体的な手続きや学習内容、注意事項や留意すべき事柄について事前学習で学ぶ。これを踏まえて、実習では幼稚園で展開される保育の実際に触れ、個々の子どもの姿や子ども集団における関係のあり方、また保育者の子どもへの直接的・間接的働きかけ（援助・環境構成）に関して、見学・観察・参加を通して、具体的に理解することが求められる。実習後には、振り返りと自己評価を行い、次の実習に向けて課題が持てるよう、事後学習の時間を設ける。幼稚園教諭・園長経験を有する教員が授業を担当する。

〔実習の到達目標〕
・実習生（社会人）としての常識やマナーを身につける
・実習生として積極的子どもや実習園の保育者と関わり、実際の保育について理解を深める
・実習での経験を振り返って、次の実習につながる課題をもつ

〔実習の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

実　習　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　オリエンテーション	予習： 復習：授業内容を振り返り、実習の概要について理解する	
2　教育実習の意義と目標	予習： 復習：授業内容を振り返り、目的と意義を理解した上で実習に望めるようにする	
3　実習生（社会人）としての基本的な心構え 自己管理の重要性	予習： 復習：授業の内容を振り返り、普段から実践するようにする	
4　観察実習の概要	予習： 復習：授業の内容を振り返り、見学・観察・参加実習の意味を理解する	
5　観察のポイント	予習： 復習：授業の内容を整理し、実習時に活かせるようにする	
6　事前オリエンテーションの受け方	予習： 復習：オリエンテーション時に何を質問するか整理する	
7　実習中の基本的なマナーと実習の準備	予習： 復習：授業の内容を整理し、実習時に活かせるようにする	
8　実習日誌の作成と活用 観察日誌Ⅰの書き方	予習： 復習：授業の内容を振り返り、観察日誌Ⅰの書き方を練習する	
9　実習日誌の作成と活用 観察日誌Ⅱの書き方	予習： 復習：授業の内容を振り返り、観察日誌Ⅱの書き方を練習する	
10　実習日誌の作成と活用 その他の部分の書き方	予習： 復習：授業の内容を振り返り、事前に記入できる部分を記入する	

〔実習の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

実　習　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　事後学習 礼状の作成と記録の整理	予習： 復習：礼状を作成し、実習園へに向けて郵送する	
12　事後学習 記録の整理と自己評価	予習： 復習：自己評価を行った上で、自らの課題を認識する	
13　事後学習 個別面談　第１グループ	予習： 復習：個別面談を通して、自らの課題を認識する	
14　事後学習 個別面談　第２グループ	予習： 復習：個別面談を通して、自らの課題を認識する	
15　事後学習 実習後の課題の共有	予習： 復習：他の受講者の課題も共有した上で、自らの課題を認識する	

〔学習上の留意点・準備等〕

講義形式が多くなるが、そこで学ぶことを自らのものとするために様々な形式の学習を取り入れる。受講者の積極的な参加を求める。

〔成績評価方法と評価基準〕

事前学習、事後学習、各種提出物（計10％）、実習日誌（40％）、実習園による評価票（50％）によって評価する。なお、提出物等の忘れや遅れは認められないので注意すること。

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕

授業時の提出物や授業時の発表等に対しては、授業中等に適宜フィードバックする。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	2EJ10	２年次 通　年	実　習	３	久保田真規子 小　川　　崇 白井　智佳子 渡　邉　　彩	特に指定しない。随時資料を配付する。
科目名	教育実習Ⅱ		担当形態			
			複　数			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13)

〔実習の概要〕
１年次の実習の課題を踏まえた上で、教育実習Ⅱで学ぶべきことは、自ら保育を計画し、実践することを通して、より深く幼稚園における保育を理解することである。そのためには子ども理解に基づいた子どもへの関わりを事前に予測し、指導計画案を作成することが求められ、実践後には予測と実際のズレを認識した上で、次の保育への課題をえることが重要となる。そのために、授業内で実際に指導計画案を作成し、模擬保育を行うことによって、実践的に実習の準備を行いたいと考えている。幼稚園教諭・園長経験を有する教員・教育免許を有する者が授業を担当する。

〔実習の到達目標〕
・1年次の実習を踏まえた上で、実習生（社会人）らしく振る舞うことができる
・実習中に子どもや保育者と関わることを通して保育に関する理解を深め、日々行われている保育を記録することができる
・子どもたちの様子や季節を踏まえた上で、指導計画案を作成し、保育を実践した上で、自らの課題を見いだすことができる

〔実習の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

実　習　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　オリエンテーション	予習： 復習：授業内容を振り返り、教育実習Ⅱの概要を理解する	
2　教育実習Ⅱの意義と位置づけ	予習：模擬保育の流れをつかむ 復習：授業内容を振り返り、教育実習の意義と位置づけを理解する	
3　指導計画案の作成① （部分実習）	予習：模擬保育と保育計画案を理解する 復習：授業内容を振り返り、日誌の書き方を確認する	
4　指導計画案の作成② （部分実習）	予習：模擬実習に向けて指導計画案を作成する 復習：模擬実習に向けて指導計画案を作成する	
5　指導計画案の作成③ （部分実習）	予習：模擬実習に向けて指導計画案を作成する 復習：模擬実習に向けて指導計画案を作成する	
6　指導計画案の作成④ 模擬保育のすすめ方	予習：模擬実習に向けて指導計画案を作成する 復習：模擬実習に向けて指導計画案を作成する	
7　指導計画案の作成 模擬保育の内容相談	予習：模擬実習に向けて指導計画案を作成する 復習：模擬実習に向けて指導計画案を作成する	
8　模擬保育の実践	予習： 復習：模擬実習の実践を振り返り、指導計画案を練り直す	
9　模擬保育の実践	予習： 復習：模擬実習の実践を振り返り、指導計画案を練り直す	

〔実習の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

実　習　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
10　模擬保育の実践	予習： 復習：模擬実習の実践を振り返り、指導計画案を練り直す	
11　模擬保育の実践	予習： 復習：模擬実習の実践を振り返り、指導計画案を練り直す	
12　模擬保育の実践	予習： 復習：模擬実習の実践を振り返り、指導計画案を練り直す	
13　模擬保育の実践	予習： 復習：模擬実習の実践を振り返り、指導計画案を練り直す	
14　模擬保育の実践	予習： 復習：模擬実習の実践を振り返り、指導計画案を練り直す	
15　総括	予習： 復習：授業内容全体を振り返った上で、実習に臨めるようにする	

〔学習上の留意点・準備等〕

幼稚園実習における部分実習、責任実習の指導計画案の立案・教材研究を行う。授業内の指導や各自の実践を基に事前準備、振り返り、考察を行うこと。なお、提出物等の忘れ、遅れは認められないので注意すること。

〔成績評価方法と評価基準〕

実習評価票、巡回教員による報告、実習日誌、提出物、学習態度によって総合的に行う。

・模擬保育（30%）　・実習評価（70%）

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕

作成した指導計画案や指導計画案に基づく実践については、授業中に随時フィードバックを行う。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	2DE27	２年次 前　期	演　習 担当形態 オムニバス	２	村木　　薫 東川　輝久 永井裕紀子	随時プリントを配布
科目名	幼児教育教材研究					

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (3) (5) (7) (9) (10) (11) (12) (13)

〔授業の概要〕
①野菜作りコース（村木）
　野菜を育てる経験や土・植物をテーマとした保育アイテム作りを通して自然界に親しみ、保育実践の幅を拡げる。野菜栽培を記録したレポート作成や土・植物をテーマとした保育アイテムを並行して制作する。
②コンピューター応用コース（東川）
　保育・教育の現場では、コンピューターかデジタル機器が広く導入されている。とりわけ若い世代は、そうした機器の操作を期待されることが多い。そこで、本授業の中で、保育活動へのコンピューター応用を経験する。
③紙を用いた遊びの実践コース（永井）
　紙を用いた製作を通して保育者に求められる感性や知識・技術を習得する。また、遊びの計画・実践を通して、保育者が一人一人の子どもを理解し適切な評価に基づいて保育を改善していくための考え方や方法について理解を深める。

〔授業科目の到達目標〕
・野菜の生育状況の把握や生育に必要な知識の習得
・土や植物をテーマとした保育アイテムの知識と技能の習得
・一年次に学習したパソコン技術を基礎として、保育現場での応用法を理解する。
・クラスだより・紙芝居の作成をめざし、ワードの特殊な使用法を理解する。
・紙素材に親しみ、加工の仕方や道具の使い方など保育者として必要な感性や知識・技術を習得する。
・紙を用いた遊びの計画、実践を通して、子ども理解に基づいた評価や教育方法の在り方について理解する。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
１・２　・土作り（畝作り・堆肥混入など） ・造形遊び作品制作 (担当：村木)	・土や肥料の知識をつける ・グループ分け	1
３・４　・苗植え・種まきなど ・造形遊び作品制作 (担当：村木)	・栽培する野菜を調べる。 ・道具や材料を研究し、授業に必要なものを揃える	1
５・６　・草取り・支柱たてなどの手入れ ・造形遊び作品制作 (担当：村木)	土．砂．粘土の違いを調べる	1
７・８　・収穫・試食など （各自で記録をとり、レポート提出） ・造形遊び作品制作　(担当：村木)	栽培する野菜の水やりや管理	1
９・10　光る泥団子制作 （制作過程と指導案作成） (担当：村木)	栽培する野菜の水やりや管理	1
11・12　パソコンの基礎的な操作の確認と演習 (担当：東川)	事後に習ったことを復習しておくこと	1
13・14　WordとExcelの総合演習　(担当：東川)	事後に習ったことを復習しておくこと	1
15・16　おたよりの作成演習　(担当：東川)	事前におたよりについて調べておくこと	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
17・18　紙芝居の作成演習　（担当：東川）	事前にどのような作品にするか準備しておくこと	1
19・20　紙芝居の実演と振り返り　（担当：東川）	事前にプレゼンの準備をしておくこと	1
21・22　段ボールボール製作 （切り出し・立体化）　（担当：永井）	道具や材料を研究し、授業に必要なものを揃える	1
23・24　段ボールボール遊びの実践 （指導計画案の作成と実践）（担当：永井）	計画案を作成し、実践の準備をする	1
25・26　折り紙製作帳の作成（基本から応用） （担当：永井）	自己課題に取り組む 授業で取り組んだ課題を終わらせておく	1
27・28　折り紙遊びの実践 （指導計画案の作成と実践） （担当：永井）	指導計画案を作成し、実践の準備をする	1
29・30　折り紙遊びの実践の振り返り （反省・評価）　（担当：永井）	実践の振り返りをまとめておく	1

〔学習上の留意点・準備等〕
随時プリントを配布し理解を補足する。
授業日以外にも野菜に水をあげたり、各自の責任において手入れや世話を忘れない。

〔成績評価方法と評価基準〕
制作課題80%　受講態度20%を併せて評価する。

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
各授業の最後もしくは次回の授業において振り返りやコメントを行う。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	1AE12	1年次 通　年	演　習 担当形態 複　数	2	東川　輝久 鈴木　　翔	「30時間でマスターOffice2019」 実教出版　1,000円＋税
科目名	コンピューター基礎					

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(7)

〔授業の概要〕
この授業は幼稚園教諭免許取得に必要な科目で、情報リテラシーを理解しつつ、情報機器の操作に慣れることを目的にしています。本授業では、MicrosoftのOfficeを使用し、ワープロ、プレゼン、表計算を学びつつ、情報機器の操作に慣れてもらいます。さらに、インターネットや電子メール、タイピングなど、情報機器を使う上で備えておくべき知識や技能についても触れていきます。

〔授業科目の到達目標〕
情報機器の操作を修得する。タイピングを修得する。情報リテラシーを理解する。
Windowsの操作と基本機能を理解する。
インターネットや電子メールの基本操作を理解する。情報利活用能力を養成する。
アプリケーションソフトの基本操作を修得し、応用能力を高める。プレゼンテーション技法を身につける。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　ガイダンス	予習： 復習：事後に情報処理室の使い方を復習しておくこと	1
2　Windowsの基礎知識，タイピング	予習： 復習：事後にテキストP.4からP.15を復習しておくこと	1
3　コンピュータとインターネット， 情報の探索，情報モラル	予習： 復習：事後にテキストP.16からP.31を復習しておくこと	1
4　Wordによる文書の作成　1 文章の入力	予習： 復習：事後にテキストP.32からP.47を復習しておくこと	1
5　Wordによる文書の作成　2 文章の編集	予習： 復習：事後にテキストP.48からP.52を復習しておくこと	1
6　Wordによる文書の作成　3 書式の設定	予習： 復習：事後にテキストP.53からP.62を復習しておくこと	1
7　Wordによる文書の作成　4 表の作成	予習： 復習：事後にテキストP.63からP.76を復習しておくこと	1
8　Wordによる文書の作成　5 画像や図形の活用	予習： 復習：事後にテキストP.77からP.92を復習しておくこと	1
9　Wordによる文書の作成　6 演習問題	予習： 復習：事後にテキストP.93からP.95を復習しておくこと	1
10　PowerPointによるスライドの作成　1 スライドの作成	予習： 復習：事後にテキストP.194からP.209を復習しておくこと	1
11　PowerPointによるスライドの作成　2 図や表の活用	予習： 復習：事後にテキストP.210からP.225を復習しておくこと	1
12　PowerPointによるスライドの作成　3 スライドショーの設定	予習： 復習：事後にテキストP.226からP.247を復習しておくこと	1
13　PowerPointによる画像編集	予習： 復習：事後にテキストP.248からP.254を復習しておくこと	1
14　PowerPointによるスライドの作成　4 演習用スライドの作成	予習：事前にスライドの内容を考えておくこと 復習：	1

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
15　PowerPointによるスライドの作成　5 演習用スライドの練習	予習：事前にプレゼンの内容を考えておくこと 復習：	1
16　PowerPointによるプレゼン　1 プレゼンの練習	予習：事前にプレゼンの準備をしておくこと 復習：	1
17　PowerPointによるプレゼン　2 プレゼンの練習	予習：事前にプレゼンの準備をしておくこと 復習：	1
18　PowerPointによるプレゼン　3 プレゼンの評価	予習：事前にプレゼンの準備をしておくこと 復習：	1
19　Excelによる表計算　1 データの入力	予習： 復習：事後にテキストP.96からP.111を復習しておくこと	1
20　Excelによる表計算　2 入力したデータの編集	予習： 復習：事後にテキストP.112からP.119を復習しておくこと	1
21　Excelによる表計算　3 関数を使った計算	予習： 復習：事後にテキストP.120からP.133を復習しておくこと	1
22　Excelによる表計算　4 ワークシートの編集	予習： 復習：事後にテキストP.134からP.139を復習しておくこと	1
23　Excelによる表計算　5 関数の演習問題	予習： 復習：事後にテキストP.140からP.141を復習しておくこと	1
24　Excelによる表計算　6 グラフ	予習： 復習：事後にテキストP.142からP.151を復習しておくこと	1
25　Excelによる表計算　7 条件判定と順位付け	予習： 復習：事後にテキストP.152からP.160を復習しておくこと	1
26　Excelによる表計算　8 検索関数	予習： 復習：事後にテキストP.161からP.167を復習しておくこと	1
27　Excelによる表計算　9 参照機能と並べ替え	予習： 復習：事後にテキストP.168からP.179を復習しておくこと	1
28　Excelによる表計算　10 条件判定等の演習問題	予習： 復習：事後にテキストP.180からP.185を復習しておくこと	1
29　Excelによる表計算　11 Wordとの連携	予習： 復習：事後にテキストP.186からP.193を復習しておくこと	1
30　総合演習	予習：事前にテキストP.32からP.193を復習しておくこと 復習：	1

〔学習上の留意点・準備等〕

実際の授業はパソコンを使う演習授業となる。自学自習も大いに必要となる。積極的な取り組みを期待する。

〔成績評価方法と評価基準〕

授業時の課題（90%）、学習態度（10%）

〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕

翌週の授業で解説等をおこなう。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	1DK28	１年次 前　期	講　義	1	坂内　寿子	楽しさをとおした心の元気づくり ～レクリエーション支援の理論と方法～ 日本レクリエーション協会編・発行
科目名	レクリエーション概論		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(3) (4) (10) (13)

〔授業の概要〕
レクリエーション支援は健康づくりや高齢者・障がい者福祉、子育て支援、保育、教育、地域づくり、環境教育など、幅広い領域で行われている。本授業はレクリエーションに関する基礎及び指導・援助の理論を学修することによりレクリエーション支援者としての能力を身につけることを目的としている。この科目はレクリエーション・インストラクター資格取得のための必修科目である。

〔授業科目の到達目標〕
・集団をリードし、一体感を生み出し、楽しい時間を演出するための基礎的な知識が身についている。
・１対１、１対集団といった場面で、コミュニケーションを促進するための基礎的な知識が身についている。
・対象や支援の目的に合わせたプログラムを企画・展開するための基礎的な知識が身についている。
・対象者の主体性や協調性を引き出すための基礎的な知識が身についている。

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　オリエンテーション、レクリエーションを学ぶにあたって	予習：シラバスを読み、授業の展開を理解する 復習：ノート、テキスト、資料等から理解を深める	4
2　レクリエーション支援とは、レク・インストラクターの２つの役割	予習：テキストp10～p17を読み、内容を理解する 復習：ノート、テキスト、資料等から理解を深める	4
3　楽しさをとおした心の元気づくりと対象者の心の元気	予習：テキストp20～p32を読み、内容を理解する 復習：ノート、テキスト、資料等から理解を深める	4
4　心の元気と地域のきずな	予習：テキストp33～p36を読み、内容を理解する 復習：ノート、テキスト、資料等から理解を深める	4
5　コミュニケーションと信頼づくりの理論	予習：テキストp38～p43を読み、内容を理解する 復習：ノート、テキスト、資料等から理解を深める	4
6　良好な集団づくりの理論	予習：テキストp44～p49を読み、内容を理解する 復習：ノート、テキスト、資料等から理解を深める	4
7　自主的、主体的に楽しむ力を育む理論	予習：テキストp50～p55を読み、内容を理解する 復習：ノート、テキスト、資料等から理解を深める	4
8　プログラム実施上のリスクマネジメントの視点と方法	予習：配付された資料を読み、内容を理解する 復習：ノート、資料等から理解を深める	4
9　信頼づくりの方法・ホスピタリティ① ～あたたかくもてなす意識と配慮～	予習：テキストp58～p61を読み、内容を理解する 復習：ノート、テキスト、資料等から理解を深める	4
10　信頼づくりの方法・ホスピタリティ② ～気持ちをひとつにするコミュニケーション技術～	予習：テキストp62～p65を読み、内容を理解する 復習：ノート、テキスト、資料等から理解を深める	4

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
11　良好な集団づくりの方法･アイスブレーキング① ～アイスブレーキングのプログラム～	予習：テキストp66～p67を読み、内容を理解する 復習：ノート、テキスト、資料等から理解を深める	4
12　良好な集団づくりの方法･アイスブレーキング② ～アイスブレーキングの効果を高める支援技術～	予習：テキストp68～p69を読み、内容を理解する 復習：ノート、テキスト、資料等から理解を深める	4
13　レクリエーション活動の展開法① ～楽しむ力を高める目標設定「ハードル設定」	予習：テキストp70～p73を読み、内容を理解する 復習：ノート、テキスト、資料等から理解を深める	4
14　レクリエーション活動の展開法② ～対象に合わせたアレンジ方法～	予習：テキストp74～p77を読み、内容を理解する 復習：ノート、テキスト、資料等から理解を深める	4
15　レクリエーション活動の展開法③ ～対象者の相互作用を促進する「CSSプロセス」	予習：テキストp78～p82を読み、内容を理解する 復習：ノート、テキスト、資料等から理解を深める	4
16　授業のまとめ	予習： 復習：授業内容の全体についてノート、テキスト、資料等から理解を深める	4

〔学習上の留意点・準備等〕
事前事後学修は必ず行うこと。また、ノート、配付資料は整理しておくこと。

〔成績評価方法と評価基準〕
筆記試験(80%)、ノート・資料の提出(20%)

〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕
課題として提出を求めたものは評価した後、返却する。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト（書名・著者・出版社等）
科目コード	1DE29	１年次 集　中	演　習 担当形態 複　数	1	坂内　寿子 中島　孝子	楽しさをとおした心の元気づくり ～レクリエーション支援の理論と方法～ 日本レクリエーション協会編・発行
科目名	レクリエーション実習Ⅱ					

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(4) (5) (8) (10) (11) (13)

〔授業の概要〕
長期休暇を活用し、ニュースポーツ、チャレンジ・ザ・ゲーム、ボウリング、スキー（２泊３日）等のレクリエーション種目を学内外の施設を活用し学修する。また、市町村のイベントへの参加を適宜紹介し幅広い活動を体験することにより、レクリエーション事業のプログラム・運営の方法を学修する。指導形態は２名の科目担当教員と現地インストラクターで実施する。市町村のレクリエーションイベント参加は指定イベントが１回、個々の自由参加が３回とする。この科目はレクリエーション・インストラクター資格取得のための必修科目である。

〔授業科目の到達目標〕
・様々なスポーツ・レクリエーション種目があることを認識しルールを理解している。
・１対１、１対集団といった場面で、コミュニケーションを促進するための基礎的技能が身についている。
・既存のアクティビティを、対象に合ったアクティビティへとアレンジするための技能が身についている。
・対象者の主体性や協調性を引き出すための基礎的技能が身についている。

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　夏季集中　オリエンテーション インディアカ基礎	予習：シラバスを読み、授業の展開を理解する 復習：資料等から理解を深める	1
2　インディアカ　グループ別対抗 （予選リーグ戦）	予習：リーグ戦の試合数について調べる （９グループを3コートで実施の場合） 復習：	1
3　インディアカ　グループ別対抗 （決勝リーグ戦）	予習： 復習：資料等から理解を深める	1
4　チャレンジ・ザ・ゲーム　基礎	予習：配付資料を読み内容を理解する 復習：	1
5　チャレンジ・ザ・ゲーム グループ別対抗ゲーム	予習： 復習：資料等から理解を深める	1
6 ボウリング　基礎及び３ゲームの実践 7	予習： 復習：返却されたスコア表からスコアの記入法を理解する	2
8　スキー集中　オリエンテーション	予習： 復習：スキーに関するアンケートを記入する 資料を読み日程の確認と持ち物の準備をする	1
9　２泊３日：スキー　習熟度別レッスン （直滑降）	予習：フリー滑走時間を利用し技能の定着を図る 復習：夕食後等の自由時間でイメージトレーニングを行う	1

〔授業の計画／事前事後学修（予習・復習）と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
10　２泊３日：スキー　習熟度別レッスン（プルーク）	予習：フリー滑走時間を利用し技能の定着を図る 復習：夕食後等の自由時間でイメージトレーニングを行う	1
11　２泊３日：スキー　習熟度別レッスン（開き幅の広いプルークボーゲン）	予習： 復習：	1
12　２泊３日：スキー　習熟度別レッスン（開き幅の狭いプルークボーゲン）	予習： 復習：	1
13　２泊３日：スキー　習熟度別レッスン（斜滑降）	予習： 復習：	1
14　２泊３日：スキー　習熟度別レッスン（シュテムターン）	予習： 復習：	1
15　スキー実習のまとめ（様々な斜度の滑走）	予習： 復習：レクリエーション活動としてのスキー実践プログラムを構想する	1

〔学習上の留意点・準備等〕
夏季と冬季に集中授業を行うので、季節に応じた服装で臨み、携行品（飲み物、タオル等）を持参する。

〔成績評価方法と評価基準〕
授業の参加態度（80%）、提出物（20%）で評価する。

〔課題（試験やレポート等）に対するフィードバック〕
各種目の活動終了後にグループに対してコメントをする。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	1DK30	1年次 集　中	講　義	1	渡邉　彩	『幼稚園教育要領』文部科学省、 この他、適宜、資料を配布 する。
科目名	子どもと健康		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (3) (4) (6) (10) (13)

〔授業の概要〕
本授業では、『幼稚園教育要領』のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解したうえで、幼児期の健康、生活習慣の始動に関する基本的な知識・技能を身につけることを目指す。さらに、幼児期の運動の重要性を理解したうえで、健康に関する教材を作成して活用することを目指すものである。本授業では、児童の健康教育に携わり、現在、乳幼児の健康教育に携わっている教員が実際の運動指導の方法や児童の発達に応じた遊び・教材についての講義を取り入れながら指導する。

〔授業科目の到達目標〕
(1) 幼児期の健康、生活習慣の始動に関する基本的な知識や技能を身につける。
(2) 幼児期の運動の重要性を理解し、発育発達に関する知識や情報を理解し、教材資料を作成し活用することができる。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　乳幼児期の健康課題について	乳幼児期の健康に関する課題を理解する。	1
2　乳幼児期の健康課題と幼稚園教育要領との接点	乳幼児期の健康課題と幼稚園教育要領の健康に関する記述との関連について理解する。	1
3　保育・幼児教育における子どもの実態 (1) グループワークの進め方と解説	子どもの自由遊びの様子を見て子ども理解を深める。	1
4　保育・幼児教育における運動遊びとその指導	運動あそびの種類と内容について調べ、理解を深める。	1
5　保育・幼児教育における子どもの実態 (2) グループワーク発表準備	グループワークの準備を進める。	1
6　グループワーク発表会 (1)	発表活動をふりかえり、理解が不十分な箇所について調べて理解を深める。	1
7　グループワーク発表会 (2)	発表活動をふりかえり、理解が不十分な箇所について調べて理解を深める。	1
8　総まとめとレポート作成	授業をふりかえり、学習内容をレポートにまとめる。	1

〔学習上の留意点・準備等〕
講義時に適宜参考文献を紹介する。

〔成績評価方法と評価基準〕
中間レポート(50%)、期末試験レポート(50%)によって評価する。

〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕
授業時に提出するコメントシートの内容を抜粋し、次回の授業で取り上げコメントする。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	1DK31	２年次 後　期	講　義	1	久保田真規子	『知のゆりかご 子どもの姿からはじめる 領域人間関係』
科目名	子どもと人間関係		担当形態 単　独			

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (5) (6) (8) (9) (11) (12) (13)

〔授業の概要〕
人はヒトやモノとのかかわりによって発達していくが、なかでも乳幼児期は人とのかかわりが特に重要である。本講義では三法令に示される領域「人間関係」の理解を深め、人との関係性の中で獲得していくこと、共に学び合うことや育ち合うことの重要性を知り、子どもの人間関係の発達について考える。その際、保育者は何をどのように援助しているのかにも注目し、子どもを観る視点や具体的な援助方法について学び、他者とつながる保育活動案を作成し、幼児の人間関係を踏まえた活動を考える。
元幼稚園園長・子育て支援施設勤務経験者が授業を担当する。

〔授業科目の到達目標〕
・乳児に対する応答的な関わりの重要性とその実践を理解し、実習等に活かす。
・人間関係が広がりを見せる中で、保育者が人とのかかわりを支えること、また子ども同士がつながることの重要性に気づき、その援助について考える。
・人間関係の育ちを意識し、活動や援助について考え、実践することができる。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　三法令にみる領域「人間関係」 １歳以上３歳未満児及び３歳以上のねらいと内容	予習：三法令を読む 復習：ノートをまとめる。	4
2　人間関係の発達① 乳児保育における３つの視点、養護と教育の一体化・乳児期の愛着形成	予習：テキストを読む 復習：ノートをまとめる。	4
3　人間関係の発達② 乳幼児期の自立と協同性の育ち	予習：テキストを読む 復習：ノートをまとめる。	4
4　生活・遊びで育つ人間関係① 心理的安全性(動画視聴)	予習：テキストを読む 復習：ノートをまとめる。	4
5　生活・遊びで育つ人間関係② 集団の中で育ちあう・規範意識(動画視聴)	予習：テキストを読む 復習：ノートをまとめる。	4
6　遊びで育つ人間関係③ １歳以上３歳未満児における主体的な気持ち尊重と見守りの保育実践	予習：テキストを読む 復習：保育実践をまとめる。	4
7　遊びで育つ人間関係④ ３歳以上児の子ども同士が育ち合う保育実践	予習：テキストを読む 復習：保育実践をまとめる。	4
8　他者とつながる協同的な保育活動の実際とその計画・考察	予習：予習:保育実践のノート・日誌を事前に読む 復習：保育実践の考察をまとめる。	4

〔学習上の留意点・準備等〕
各授業ごとに考察のプリント提出、演習・実践のまとめやノート提出があります。
事前に教科書・実習日誌にも目を通しましょう。

〔成績評価方法と評価基準〕
課題レポート(50%)、授業中の演習・発表等(50%)

〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕
授業時間内のプリント添削・classroom への mail 送信・返信など様々な形態とします。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	1DK32	１年次 後　期	講　義 担当形態 単　独	1	永井裕紀子	幼保連携型認定こも園教育・保育要領 (平成29年告示) 資料を配布する
科目名	子どもと環境					

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (9) (11)

〔授業の概要〕
幼児を取り巻く環境の諸側面とその意義、幼児の思考・科学的概念の発達、数量や図形、標識や文字等の関わりの発達など、幼児と環境との関わりについての専門的事項における感性を養い、知識、技能を身に付ける。本科目は講義を中心としているが、学生自身による栽培や数遊びなどの演習を取り入れながら、幼児の思考や科学的概念の発達について理解 を深める。

〔授業科目の到達目標〕
幼児を取り巻く身近な環境の重要性を理解する。
幼児の身近な環境への関わり方や好奇心、探求心の育ちについて理解する。
幼児を取り巻く環境の現代的課題（ESD・SDGs）について理解する。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　幼稚園教育の基本と領域の考え方について	＊配布プリントを読んでくる。 ＊幼保連携型認定こも園教育・保育要領の指定されたページを読んでくる。	4
2　幼児を取り巻く環境の諸側面と幼児が身近な環境に関わることの意義	＊配布プリントを読んでくる。 ＊幼保連携型認定こも園教育・保育要領の指定されたページを読んでくる。	4
3　幼児と環境との関わりを支えるもの	＊配布プリントを読んでくる。 ＊幼保連携型認定こも園教育・保育要領の指定されたページを読んでくる。	4
4　幼児の自然への好奇心、探求心の育ちとそれを支える保育環境	＊配布プリントを読んでくる。 ＊幼保連携型認定こも園教育・保育要領の指定されたページを読んでくる。	4
5　幼児の生き物への好奇心、探求心の育ちとそれを支える保育環境	＊配布プリントを読んでくる。 ＊幼保連携型認定こも園教育・保育要領の指定されたページを読んでくる。	4
6　幼児の数量や図形等への好奇心、探求心の育ちとそれを支える保育環境	＊配布プリントを読んでくる。 ＊幼保連携型認定こも園教育・保育要領の指定されたページを読んでくる。	4
7　幼児の生活に関係の深い情報や施設への好奇心、探求心の育ちとそれを支える保育環境	＊配布プリントを読んでくる。 ＊幼保連携型認定こも園教育・保育要領の指定されたページを読んでくる。	4
8　幼児を取り巻く環境の現代的課題、領域「環境」から考える ESD・SDGs について	＊配布プリントを読んでくる。 ＊幼保連携型認定こも園教育・保育要領の指定されたページを読んでくる。	4

〔学習上の留意点・準備等〕
自分の考えを素直に表現し、友達の考えにも目や耳を傾けながら、授業内容に対する理解を深めて欲しい。

〔成績評価方法と評価基準〕
授業の振り返り小レポート(50%)、提出物(50%)を合わせて評価する。

〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕
提出された小レポート等について、次の授業でコメントする。

科　目		開講時期	授業形態	単位	担　当	テキスト(書名･著者･出版社等)
科目コード	2DK33	２年次 前　期	講　義 担当形態 複　数 オムニバス	1	坂内　寿子 村木　　薫 斎藤　竜夫	アクティベート保育学11 保育内容「表現」 岡本拡子他編著 ミネルヴァ書房
科目名	子どもと表現					

〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕
(1) (2) (6) (9)

〔授業の概要〕
領域「表現」の指導に関する幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身につける。

〔授業科目の到達目標〕
・幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。
・表現の生成する過程について理解している。
・幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。
・協働して表現することを通し他者の表現を受け止め共感し、保育者として必要とされる豊かな感性、表現する力を身につけている。
・様々な表現の基礎的な知識・技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕

授　業　内　容	事前事後学修の内容	所要時間
1　子どもにとっての表現 (担当:坂内・村木・斎藤)	シラバスを読み、概要、到達目標、内容、学習上の留意点・準備等を把握	4
2　身体表現の発達 (担当:坂内)	先回の授業内容の復習及び本時の授業内容について教科書を読み、本時の内容を理解	4
3　身体的な感性を育む表現 (担当:坂内)	先回の授業内容の復習及び本時の授業内容について教科書を読み、本時の内容を理解	4
4　造形表現の発達 (担当:村木)	先回の授業内容の復習及び本時の授業内容について教科書を読み、本時の内容を理解	4
5　造形的な感性を育む表現 (担当:村木)	先回の授業内容の復習及び本時の授業内容について教科書を読み、本時の内容を理解	4
6　音楽表現の発達 (担当:斎藤)	先回の授業内容の復習及び本時の授業内容について教科書を読み、本時の内容を理解	4
7　音楽的な感性を育む表現 (担当:斎藤)	先回の授業内容の復習及び本時の授業内容について教科書を読み、本時の内容を理解	4
8　幼稚園･保育所･認定こども園における表現活動 (担当:坂内・村木・斎藤)	先回の授業内容の復習及び本時の授業内容について教科書を読み、本時の内容を理解	4

〔学習上の留意点・準備等〕
授業担当者によって使用する講義室や持参するものを指定するので、連絡事項に注意すること。

〔成績評価方法と評価基準〕
レポート(70%)、授業の取り組み状況(30%)

〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕
提出されたレポートについて振り返り及び解説を行う。